
ウィズコロナにおける女性の生活・就労等実態調査 結果報告書

令和4年2月

名古屋市

目 次

調査の概要	1
(1) 調査の目的	1
(2) 調査概要	1
(3) 報告書の見方	2
(4) 標本誤差の範囲	2
本調査結果	3
1. 調査対象者	3
(1) 年齢	3
(2) 居住区	4
(3) 学歴	6
(4) 配偶者・パートナーの有無	7
(5) 子どもの有無	8
(6) 家族構成	10
(7) 介助・介護の状況	13
(8) 年収	15
(9) 貯蓄	17
(10) 家計を支える主たる人	18
2. 仕事について	19
(1) 新型コロナウイルス感染症拡大以前の仕事の状態	19
(2) 就労者の仕事の内容	20
(3) 新型コロナウイルス感染症拡大時期の仕事の状態の変化	24
(4) 新型コロナウイルス感染症拡大以前から変化した人の仕事の状態	25
(5) 新型コロナウイルス感染症拡大以前から変化した人のうち就労者の仕事の内容	26
(6) 現在の仕事の状態	30
(7) 非正規職になった理由	35
(8) 無職・家事専業になった理由	37
(9) 新型コロナウイルス感染症拡大による働き方の変化	39
(10) 非正規職を継続している理由	41
(11) 仕事に関して困っていること	43
3. 新型コロナウイルス感染症拡大による生活や健康への影響	45
(1) 新型コロナウイルス感染症拡大で負担が増えたもの	45
(2) 新型コロナウイルス感染症拡大によるプラスの変化	47
(3) 新型コロナウイルス感染症拡大によるマイナスの変化	49
(4) 生活での不安	51

4. 今後の生活について	53
(1) 生活の満足度	53
(2) 今後の希望・目標	54
(3) 生活の変化意向	56
5. 女性に対する支援	57
(1) 女性であるがゆえの暴力被害経験	57
(2) 新型コロナウイルス感染症拡大後の生理用品の入手に苦労した経験	59
(3) 相談相手	61
(4) 利用したい女性の支援施策	63
(5) 相談方法	65
(6) 利用しやすい曜日・時間帯	67
非正規職で働く、子どもを持たないシングルの方の状況	69
1. 非正規職・子どもを持たない・シングルの方の状況	70
(1) 仕事の状況	70
(2) 配偶者・パートナーの有無	72
2. 非正規職・子どもを持たない・シングルの方の概要	73
(1) 年齢	73
(2) 居住	74
(3) 学歴	75
(4) 家族構成	76
(5) 介助・介護の状況	78
(6) 年収	79
(7) 貯蓄	80
(8) 家計を支える主たる人	81
3. 新型コロナウイルス感染症拡大前後の仕事の状況について	82
(1) 新型コロナウイルス感染症拡大以前の仕事の状態	82
(2) 新型コロナウイルス感染症拡大以前の仕事の就労者の仕事の内容	83
(3) 新型コロナウイルス感染症拡大時期の仕事の状態の変化	85
(4) 新型コロナウイルス感染症拡大時期に変化した人の仕事の状態	86
(5) 新型コロナウイルス感染症拡大時期に変化した人のうち就労者の仕事の内容	87
(6) 現在の仕事の状態	89
(7) 非正規職になった理由	92
(8) 新型コロナウイルス感染症拡大による働き方の変化	93
(9) 非正規職を継続している理由	94
(10) 仕事に関して困っていること	96

4. 新型コロナウイルス感染症拡大による生活や健康への影響	97
(1) 新型コロナウイルス感染症拡大で負担が増えたもの	97
(2) 新型コロナウイルス感染症拡大によるプラスの変化	98
(3) 新型コロナウイルス感染症拡大によるマイナスの変化	99
(4) 生活での不安	100
5. 今後の生活について	101
(1) 生活の満足度	101
(2) 今後の希望・目標	102
(3) 生活の変化意向	103
6. 女性に対する支援	104
(1) 女性であるがゆえの暴力被害経験	104
(2) 新型コロナウイルス感染症拡大後の生理用品の入手に苦労した経験	105
(3) 相談相手	106
(4) 利用したい女性の支援施策	107
(5) 相談方法	108
(6) 利用しやすい曜日・時間帯	109
その他の調査結果	110
(1) 団体ヒアリング調査結果	110
(2) 当事者ヒアリング結果	117
ウィズコロナにおける女性を取り巻く就労と生活に関する課題と女性の支援策について	123
有識者寄稿	128
業種、職種により異なる影響を考える（梶山女学園大学 非常勤講師 乙部由子）	128
資料編	141

コロナ禍における「女性のための総合相談」	155

調査の概要

(1) 調査の目的

平成 28 年 4 月に女性活躍推進法が全面施行となり、女性の活躍推進の機運は醸成されてきた。一方で、非正規雇用労働者の約 7 割が女性であるなど、不安定な雇用形態の女性が多い。

そんな中、令和 2 年には新型コロナウイルス感染症が拡大し、人々の生活に多大な影響を及ぼした。内閣府の「コロナ下の女性への影響と課題に関する研究会」では雇止め等により女性就業者が減少したことやDVや性暴力が増加・深刻化したこと、予期せぬ妊娠の増加が懸念されとの報告がなされており、性別に起因するさまざまな課題が浮き彫りとなった。

一方で、本市の男女平等参画推進センターにおける「女性のための総合相談」の相談には、新型コロナウイルス感染症の影響で収入が減少したことによる将来への不安や生活環境の変化によるストレスといった相談が寄せられたが、本調査によって、相談には至っていない「声なき声」を拾い、新型コロナウイルス感染症拡大がもたらした女性の生活・就労への影響や新しい日常において女性が抱える課題を把握する。さらには、非正規雇用で働く子どもを持たないシングル女性の実態を把握し、新たな男女平等参画施策を検討する参考とする。

(2) 調査概要

① 本調査

調査対象：名古屋市内在住の 20～59 歳の女性 20,000 人を無作為抽出

調査方法：調査の案内を郵送により配布、インターネット回答

調査実施時期：令和 3 年 7 月 30 日（金）～8 月 17 日（火）

調査項目：・調査対象者について

- ・仕事について
- ・コロナ禍における生活や健康について
- ・今後の生活等の意向について
- ・女性に対する支援等について

配布・回収状況

配布数	有効回収数	有効回収率
20,000	5,254	26.3%

② 追加調査

調査対象：民間調査会社に登録している名古屋市内在住、20～59 歳の非正規職で、子どもを持たないシングルの女性

調査方法：民間調査会社の登録者で条件にあてはまる人 10,000 人に調査の案内をメールにより配布、250 人がインターネット回答

調査実施時期：令和 3 年 9 月 13 日（月）～9 月 16 日（木）

調査項目：本調査と同項目

(3) 報告書の見方

- 図中の構成比(%)は、複数回答、単数回答ともに、少数点第2位を四捨五入しているため、図中の構成比(%)を合計しても、必ずしも100.0%にならない。
- 一部の作図については、クロス集計上の表側の「無回答」は省略している。このため、全体のn値と表側の項目のn値を合計しても一致しない場合がある。
- 図表中の表、グラフ等の見出しおよび文章中の選択肢の表現を、趣旨が変わらない程度に簡略化しているものがある。

(4) 標本誤差の範囲

- 標本誤差については、回答者全体で見ると±3%程度の差がある場合に、母集団全体の傾向としても有意な差となる。
- 本調査の標本誤差は、回答者全体で±1.35%の範囲であり、有意であるといえる。

	母集団	標本数	抽出率	回答割合				
				10%・90%	20%・80%	30%・70%	40%・60%	50%
全体	594,387	5,254	0.88	0.81	1.08	1.23	1.32	1.35
20～24 歳	63,181	458	0.72	2.74	3.65	4.18	4.47	4.56
25～29 歳	69,456	575	0.83	2.44	3.26	3.73	3.99	4.07
30～34 歳	67,357	641	0.95	2.31	3.08	3.53	3.77	3.85
35～39 歳	71,984	683	0.95	2.24	2.99	3.42	3.66	3.73
40～44 歳	76,606	732	0.96	2.16	2.88	3.30	3.53	3.60
45～49 歳	90,031	780	0.87	2.10	2.79	3.20	3.42	3.49
50～54 歳	84,084	761	0.91	2.12	2.83	3.24	3.46	3.54
55～59 歳	71,688	624	0.87	2.34	3.12	3.58	3.83	3.91

※母集団は、「令和3年6月1日現在性別・年齢別（5歳階級別）公簿人口」（統計なごやweb版）

$$\sigma = k \sqrt{\frac{M-n}{M-1} \cdot \frac{p(1-p)}{n}}$$

M : 母集団
 n : 有効回収数
 p : 結果の比率
 k : 信頼度による定数
 σ : 標本誤差

※信頼度を95%とすると、 $k=1.96$ となる。

本調査結果

1. 調査対象者

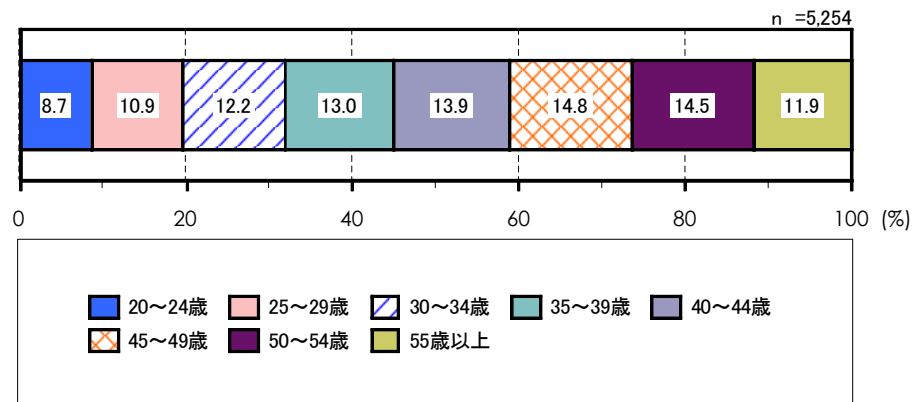
(1) 年齢

Q1. あなたの年齢をお答えください。(1つ)

回答者の年齢については、「45～49 歳」の比率が最も高く、「50～54 歳」「40～44 歳」と続いている。母集団の傾向と同じ状況である。

母集団と比べると、20 歳代はやや低く、30 歳代、40 歳代はやや高い傾向がある。

図表 「年齢」 5 歳階級別



	20～59 歳女性人口		回答者		X-P
	人数 (人)	構成比 (%)	人数 (人)	構成比 (%)	
		P		X	
20～24 歳	63,181	10.6	458	8.7	-1.9
25～29 歳	69,456	11.7	575	10.9	-0.8
30～34 歳	67,357	11.3	641	12.2	0.9
35～39 歳	71,984	12.1	683	13.0	0.9
40～44 歳	76,606	12.9	732	13.9	1.0
45～49 歳	90,031	15.1	780	14.8	-0.3
50～54 歳	84,084	14.1	761	14.5	0.4
55～59 歳	71,688	12.1	624	11.9	-0.2
総数	594,387	100	5,254	100	

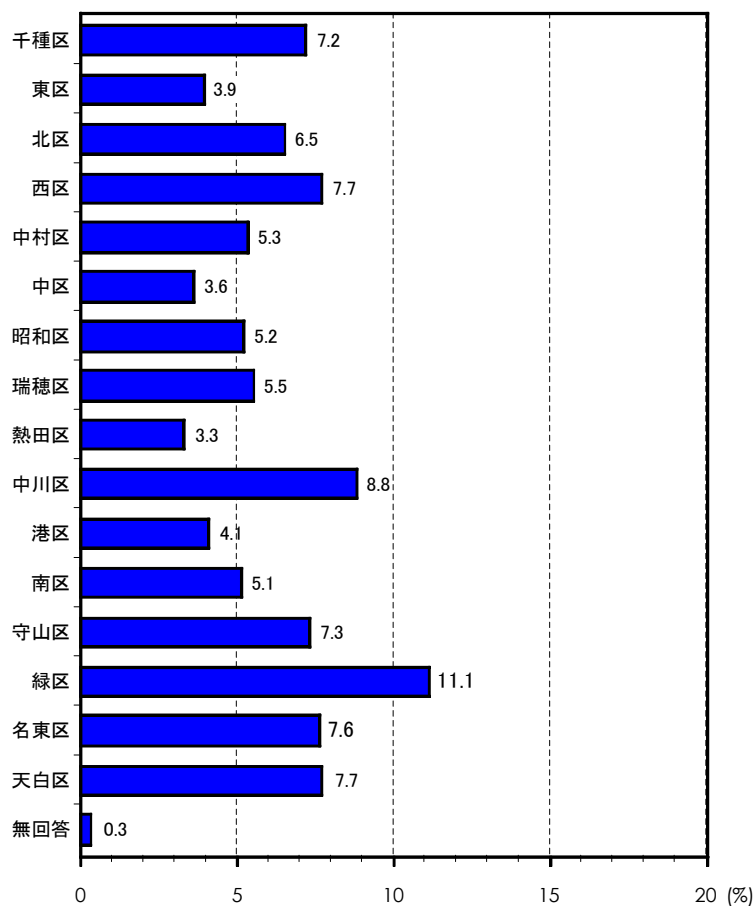
(2) 居住区

Q2. あなたの住んでいる区をお答えください。(1つ)

回答者の居住区は、緑区が最も高く、中川区、西区・天白区が続いている。

母集団と比較すると、西区、瑞穂区、天白区、昭和区・熱田区はやや高く、港区、中区、中川区、中村区はやや低くなっている。

図表 居住区



	20～59 歳女性人口		回答者		X-P
	人数（人）	構成比（％）：P	人数（人）	構成比（％）：X	
千種区	42,549	7.2	376	7.2	0.0
東区	23,608	4.0	204	3.9	-0.1
北区	40,772	6.9	341	6.5	-0.4
西区	38,549	6.5	402	7.7	1.2
中村区	34,460	5.8	278	5.3	-0.5
中区	28,264	4.8	190	3.6	-1.2
昭和区	28,107	4.7	275	5.2	0.5
瑞穂区	27,575	4.6	288	5.5	0.9
熱田区	16,551	2.8	173	3.3	0.5
中川区	56,363	9.5	463	8.8	-0.7
港区	34,185	5.8	215	4.1	-1.7
南区	30,886	5.2	267	5.1	-0.1
守山区	43,882	7.4	383	7.3	-0.1
緑区	63,942	10.8	581	11.1	0.3
名東区	43,125	7.3	401	7.6	0.3
天白区	41,569	7.0	403	7.7	0.7
無回答	—	—	14	0.3	0.3
総数	594,387	100	5,254	100	

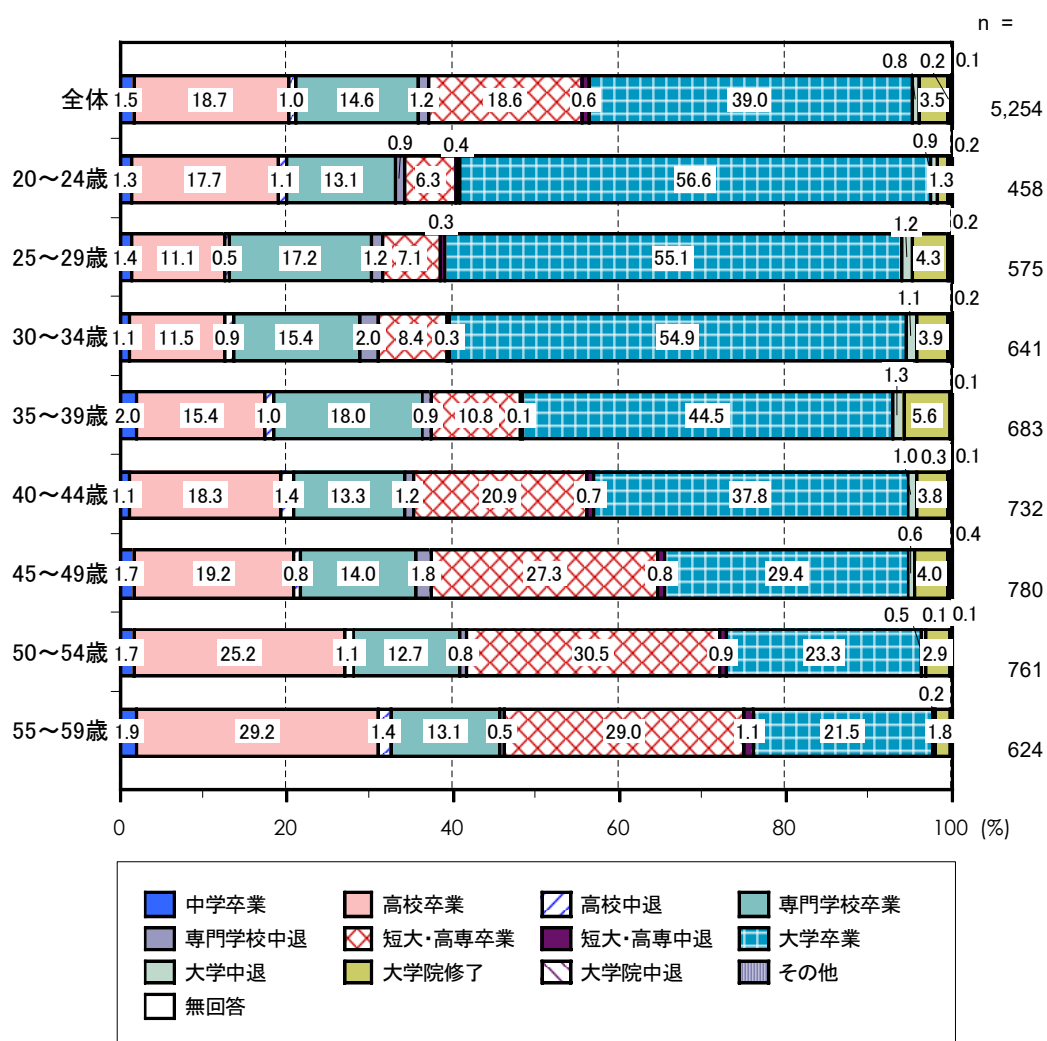
(3) 学歴

Q3. あなたの最終学歴をお答えください。在学中の場合は卒業と同じ扱いでお答えください。(1つ)

回答者の最終学歴は、「大学卒業」39.0%と最も高く、「高校卒業」18.7%、「短大・高専卒業」18.6%となっている。

年齢別にみると、年齢によって学歴の状況は大きく異なる。「大学卒業」は20～34歳までは55%前後を占め、最も高く、年齢が上がるにしたがって低くなっている。「短大・高専卒業」「高校卒業」は年齢が上がるにしたがって高い傾向がある。

図表 年齢別「学歴」



(4) 配偶者・パートナーの有無

Q4. あなたには現在、配偶者がいますか。(1つ)

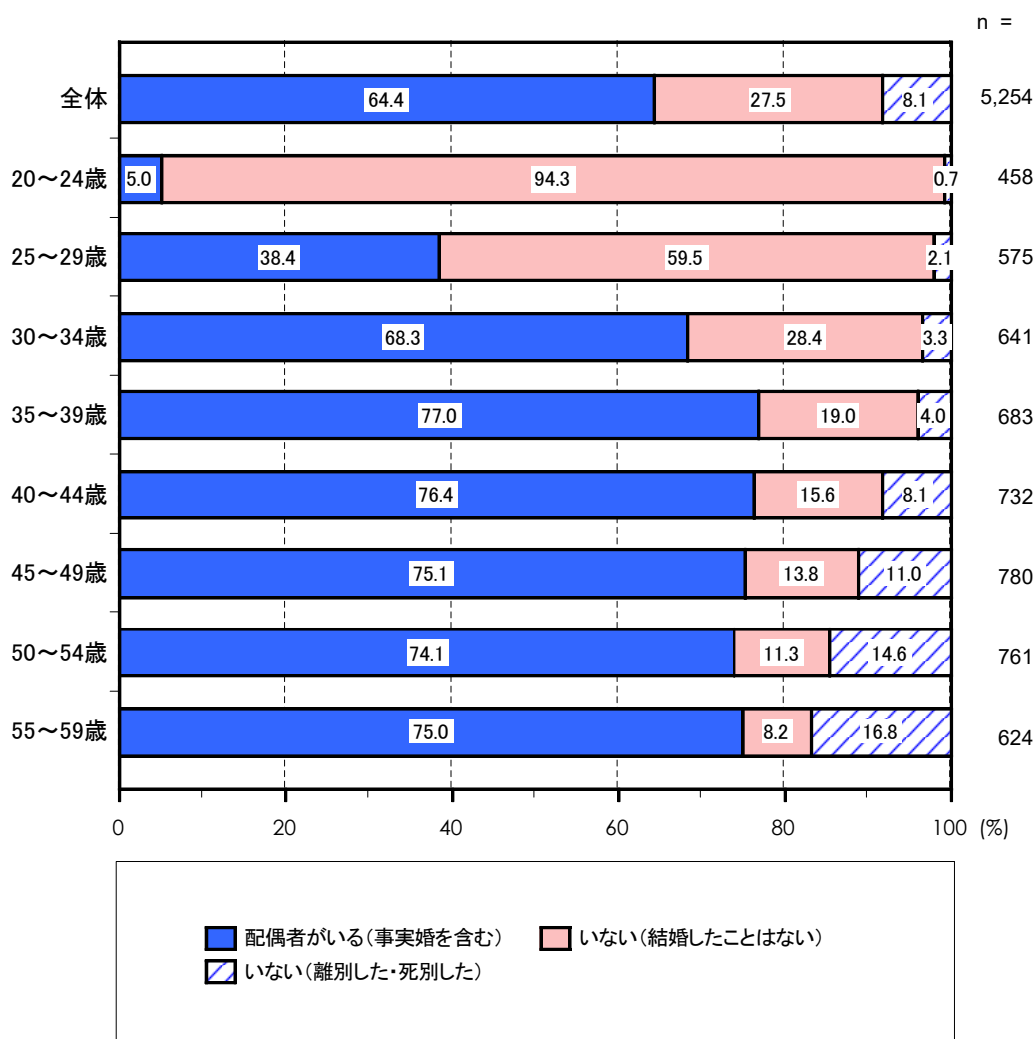
回答者の配偶者・パートナーの有無は、「配偶者がいる」が64.4%、「いない(結婚したことはない)」が27.5%、「いない(離別・死別した)」が8.1%で、「いない」は合わせると35.6%となっている。

年齢別にみると、20歳代では「いない」が、30歳代以上では「いる」が半数を超える。「配偶者がいる」は、「20～24歳」ではわずか5.0%であるが、「25～29歳」38.4%、「30～34歳」68.3%、35歳以上では75%前後を占める。70%程度の人が、25～34歳までは結婚し、家庭を持つというライフステージの変化を経験している。

「いない(離別・死別した)」は年齢が上がるにしたがって高くなっている。

「45～49歳」と「50～54歳」の未婚率の平均値で表す生涯未婚率は12.6%である。

図表 年齢別「配偶者・パートナーの有無」



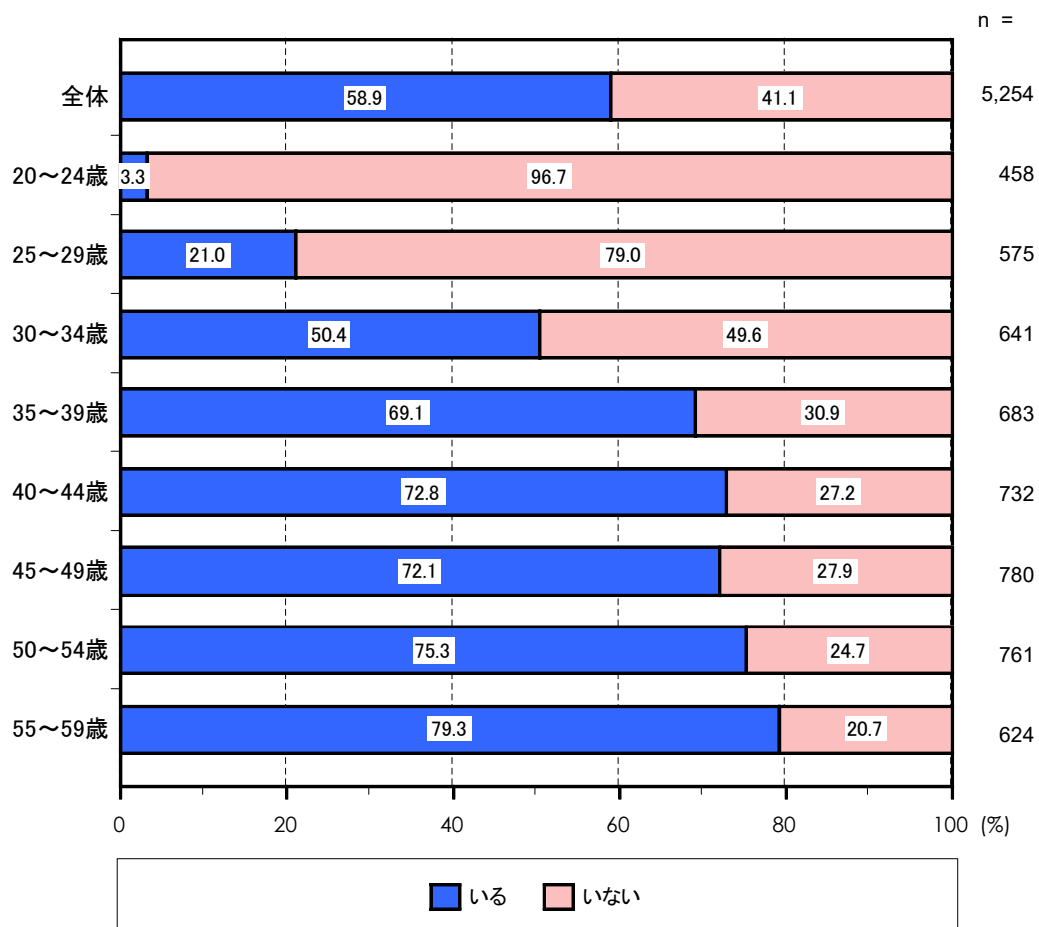
(5) 子どもの有無

Q5. あなたは子どもがいますか。別居している場合も「いる」に含めてください。(1つ)

回答者に子どもがいるかどうかは、「いる」58.9%、「いない」が41.1%となっている。

年齢別にみると、「いる」は、「20～24歳」3.3%、「25～29歳」21.0%、「30～34歳」50.4%
「35～39歳」69.1%、40歳以上では70%を超え、「55～59歳」は80%弱となっている。

図表 年齢別「子どもの有無」

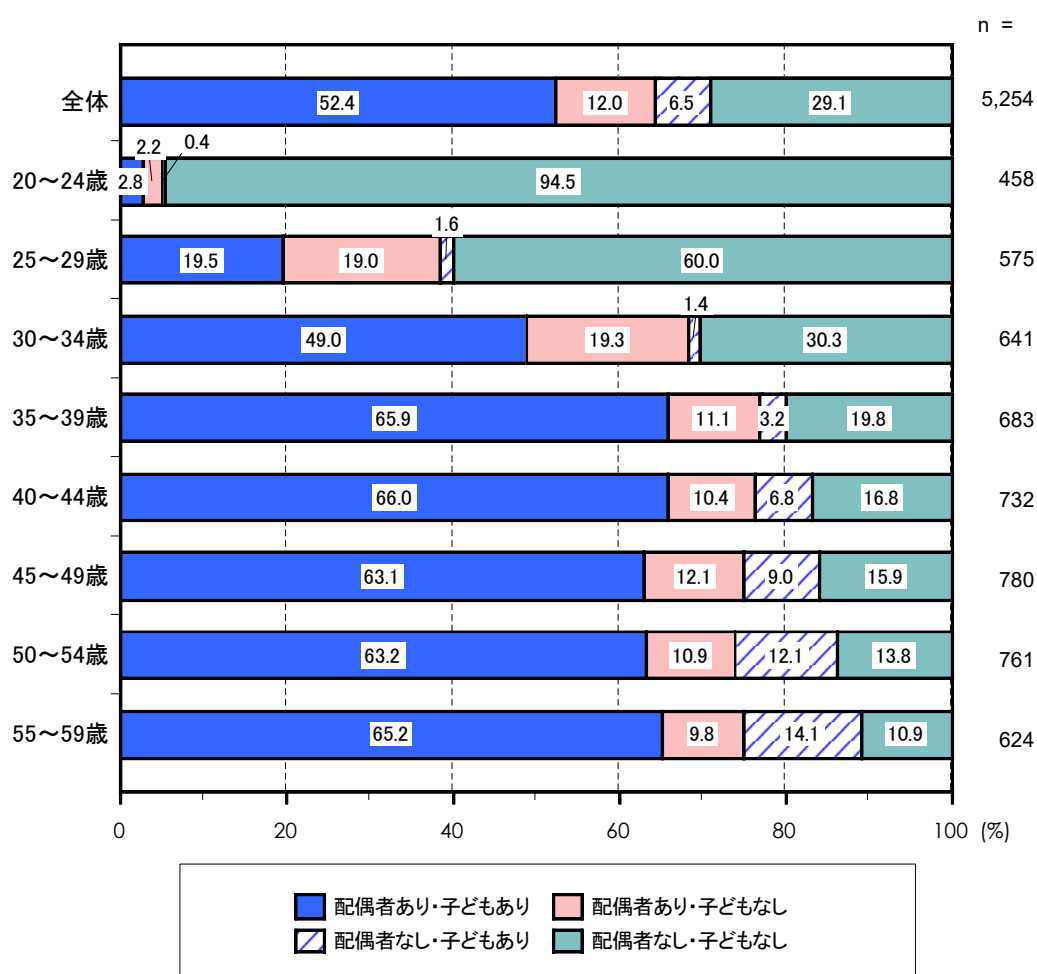


Q4、Q5 から配偶者と子どもの状況をみたところ、「配偶者あり・子どもあり」は 52.4%、「配偶者なし・子どもなし」は 29.1%となっている。

年齢別にみると、「配偶者あり・子どもあり」は「20～24 歳」では 2.8%とわずかだが、年齢が上がるにしたがって急激に高くなり、「35～39 歳」では 65.9%を占める。それ以上の年齢層ではほぼ同程度となっている。35 歳以上でみると、「配偶者あり・子どもなし」は 10%前後で変化がなく、「配偶者なし・子どもあり」は高くなり、「配偶者なし・子どもなし」は年齢が上がるにしたがって低くなっている。

結婚が 25～34 歳、出産が 30～39 歳で高く、20 歳代後半から 30 歳代にかけてライフステージが変化していることがわかる。

図表 年齢別「配偶者と子どもの状況」



(6) 家族構成

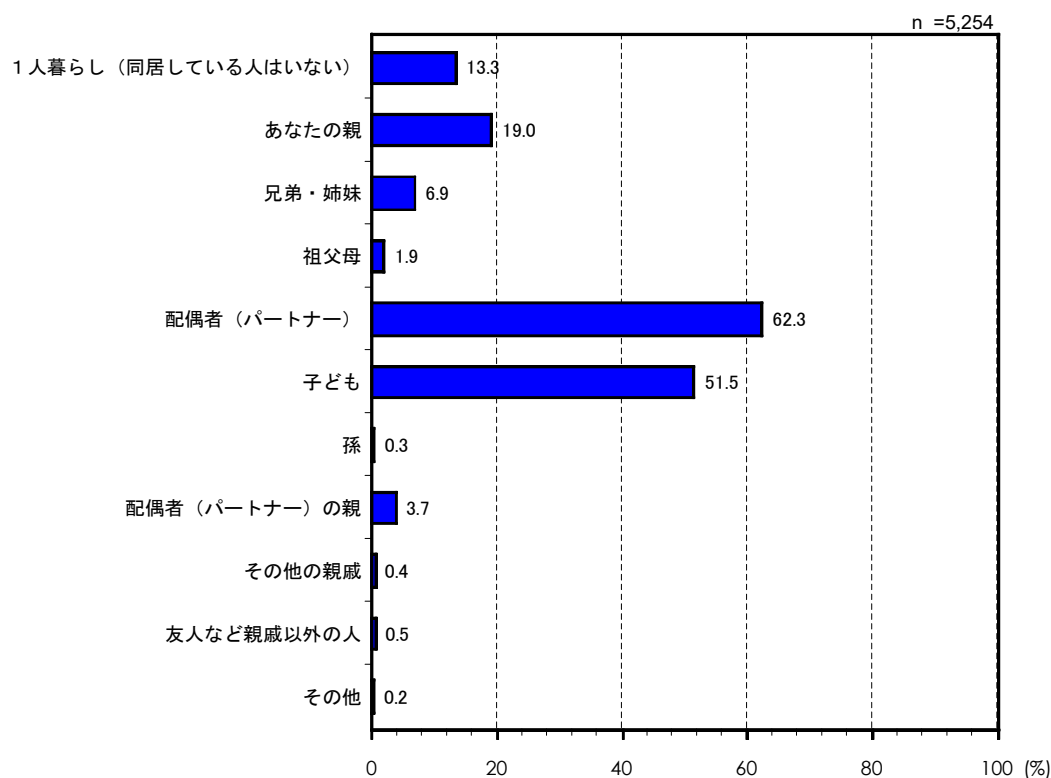
Q6. あなたと同居している方をお答えください。(あてはまるもの全て)

① 同居している人

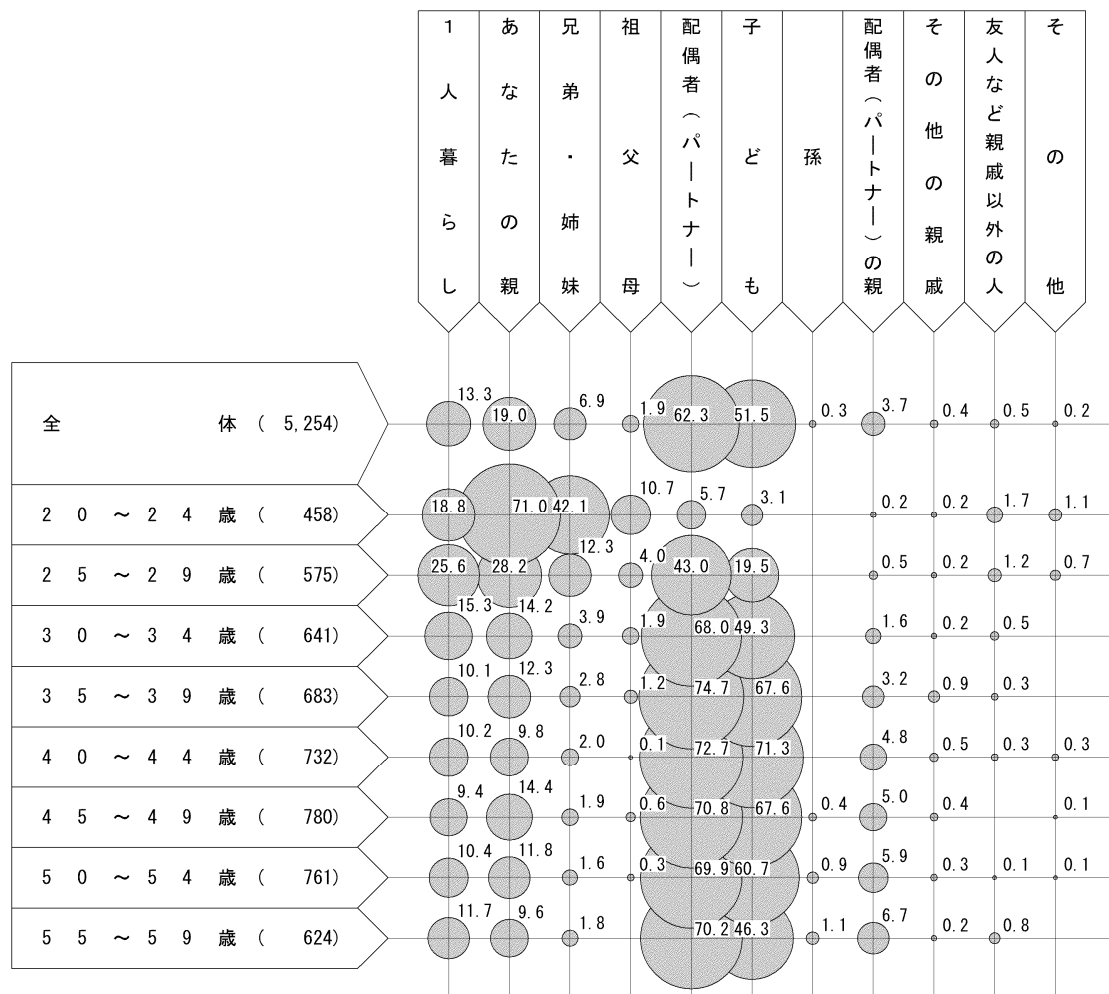
回答者が同居している人は、「配偶者（パートナー）」62.3%が最も高く、「子ども」51.5%が半数を超え、「回答者自身の親」19.0%が続いている。「1人暮らし」は13.3%となっている。

年齢別にみると、20歳代では「あなた自身の親」「兄弟・姉妹」「祖父母」が他の年齢に比べて高くなっている。30歳以上では「配偶者・パートナー」が7割程度、「子ども」は年齢が上がるにつれて高くなり、35～49歳では7割前後を占め、50歳以上では年齢が上がるにしたがって低くなっている。「1人暮らし」は、25～29歳が25.6%と他の年齢に比べて最も高く、30歳以上では1割程度となっている。

図表 「同居している人」



図表 年齢別「同居している人」

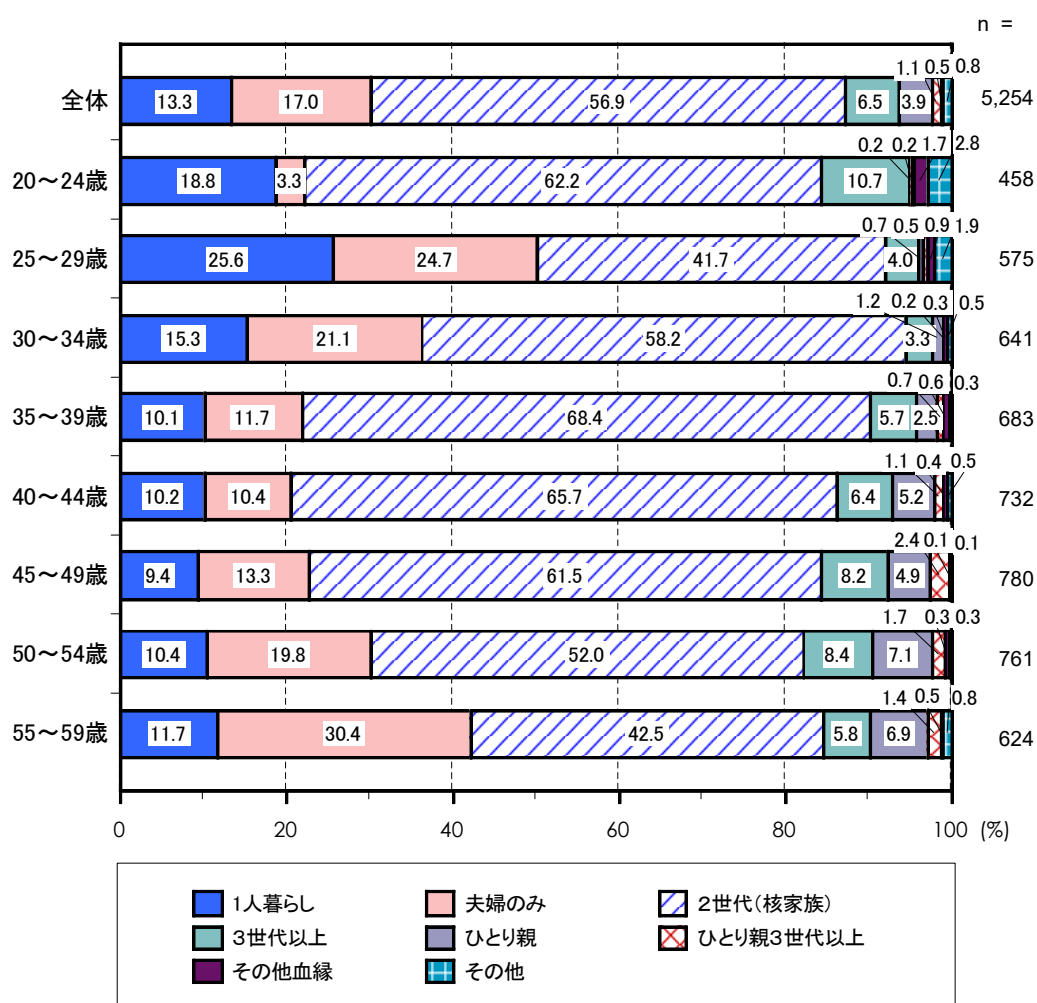


② 家族構成

同居している人から家族構成をみると、「2世代（核家族）」が56.9%と最も高く、「夫婦のみ」17.0%、「1人暮らし」13.3%と続いている。

年齢別にみると、各年齢とも「2世代（核家族）」が最も高い。25～29歳は、「1人暮らし」「夫婦のみ」が高くなる。35歳以上では年齢が上がるにつれて「2世代（核家族）」が低くなり、「夫婦のみ」が高くなる傾向がある。「1人暮らし」は35歳以上では10%程度となっている。

図表 年齢別「家族構成」



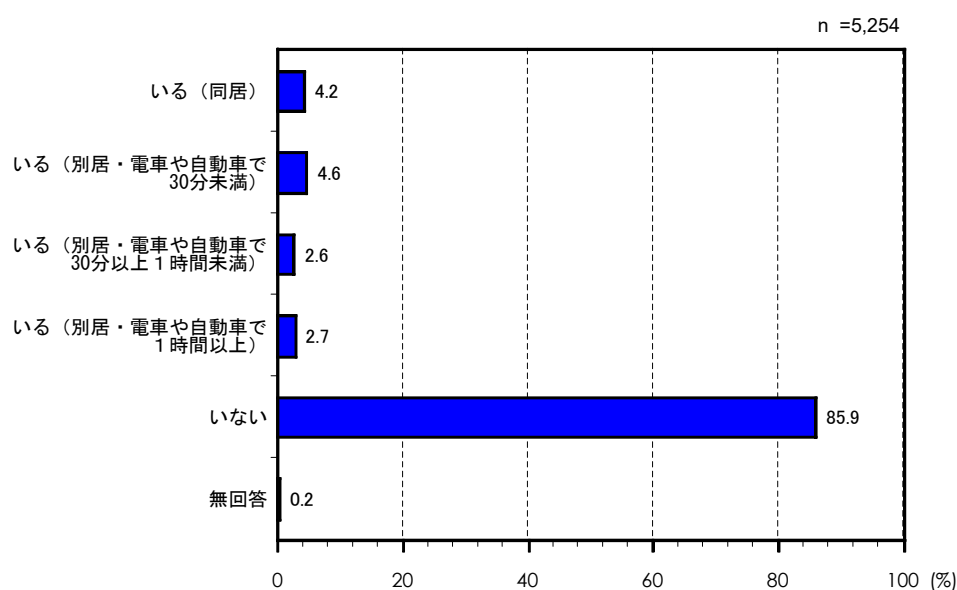
(7) 介助・介護の状況

Q7. 現在、あなたが介助・介護しなければならない人はいいますか。(あてはまるもの全て)

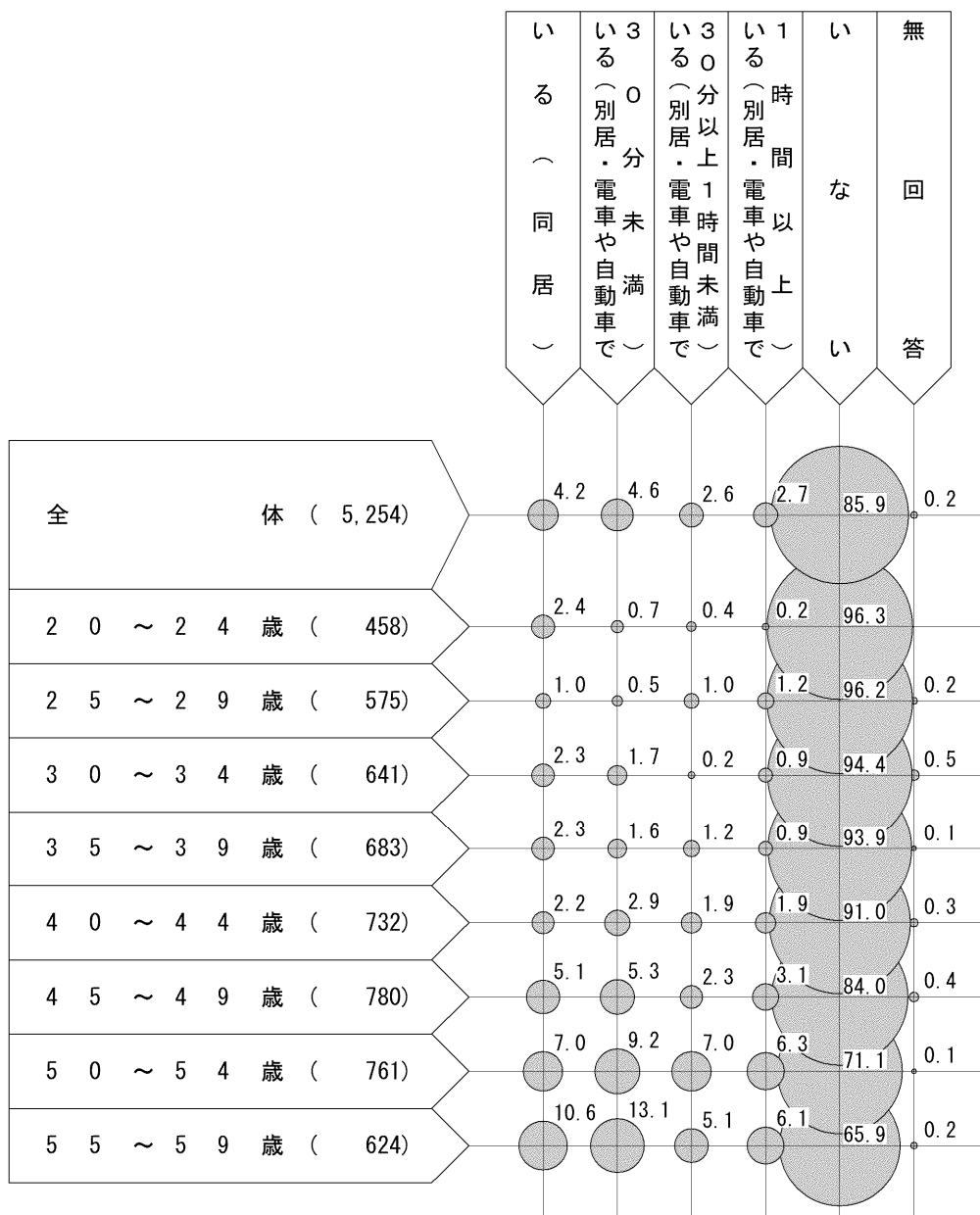
回答者が介護・介助をしなければならない人がいるかどうかを尋ねたところ、「いない」が85.9%であり、「いない」と「無回答」を除いた“介護・介助をしなければならない人がいる”は13.9%である。その内訳は、「いる（別居・30分未満）」4.6%が最も高く、「いる（同居）」が4.2%と続いている。

年齢別にみると、年齢が上がるにしたがって、「いる」が高くなり、特に50歳以上では同居、別居ともに高くなっている。

図表 「介助・介護の状況」



図表 年齢別「介助・介護の状況」



(8) 年収

Q8. あなたの昨年の年収（税込）をお答えください。（1つ）

※世帯収入ではなく、あなたご自身の年収をお答えください。

回答者の令和2年の年収（税込）を尋ねたところ、「300～500万円未満」が21.0%と最も高く、「200～300万円未満」16.4%、「50～103万円」14.4%と続いている。扶養家族となる条件の1つである130万円までの収入である「収入はない」「50万円未満」「50～103万円未満」「103～130万円未満」までを合わせると42.1%を占める。また、女性の平均年収292.6万円以下の200万円までの人は49.8%とほぼ半数を占める。

年齢別にみると、20～24歳は学生が多いこともあり、収入の低い層が高い比率を占めている。25歳以上では、300万円未満が半数以上を占め、年齢が上がるにしたがって比率が高くなっている。

図表 年齢別「年収」

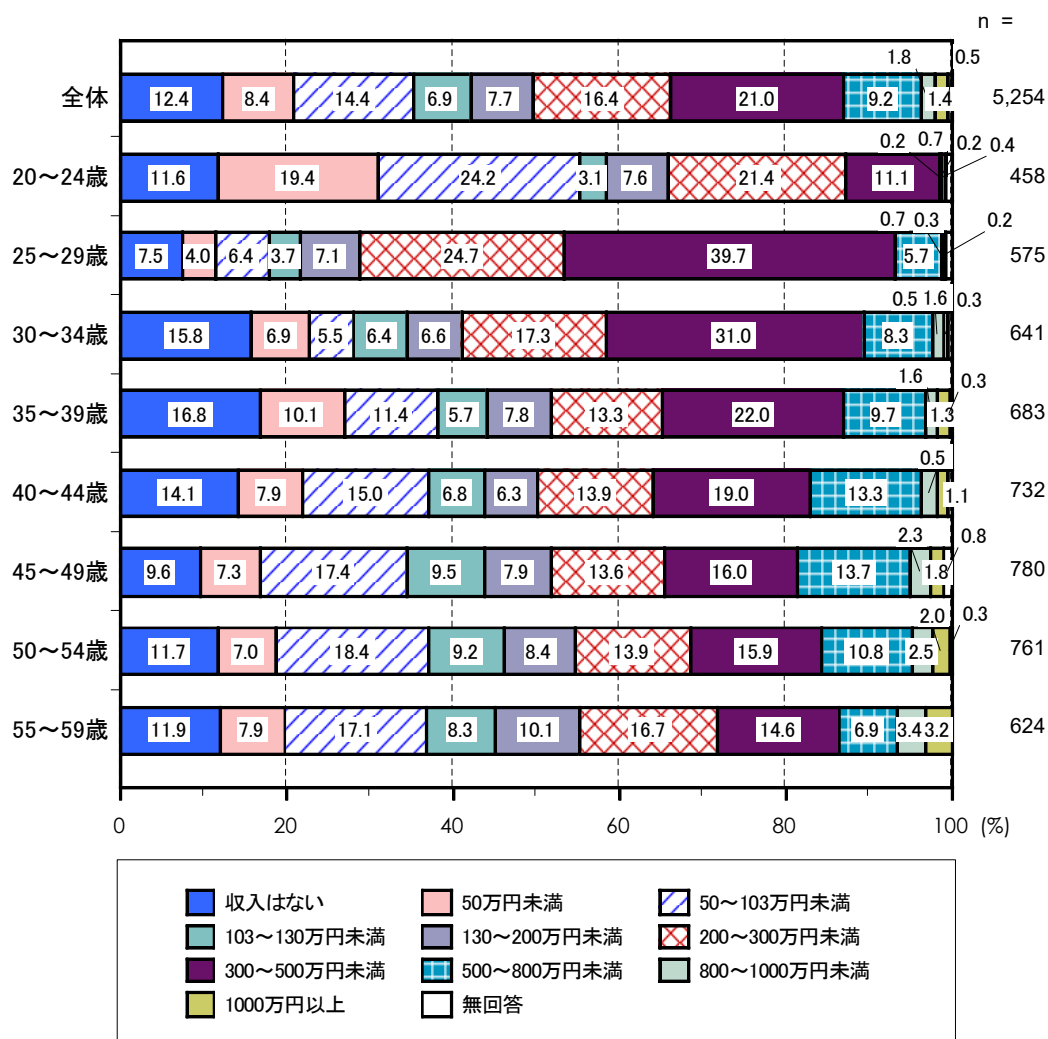


表 平均給与（一年を通じて勤務した者）

（単位：千円）

	合計	正規	非正規
男性	5,322	5,501	2,276
女性	2,926	3,837	1,532
合計	4,331	4,957	1,762

資料：国税庁「令和2年民間給与実態統計」

表 雇用形態、性、年齢階級別賃金

（単位：千円）

	男女計		女性	
	正社員・正職員	正社員・正職員以外	正社員・正職員	正社員・正職員以外
年度計	324.2	214.8	269.2	193.3
20～24 歳	215.4	183.4	213.3	179.7
25～29 歳	249.6	202.4	239.5	196.5
30～34 歳	282.8	207.2	258.1	195.1
35～39 歳	316.3	214.3	272.9	200.6
40～44 歳	343.5	211.9	286.5	196.6
45～49 歳	365.6	212.8	293.9	198.5
50～54 歳	392.2	209.7	302.6	195.6
55～59 歳	397.0	212.2	303.6	190.5

資料：厚生労働省「令和2年度賃金構造基本統計調査」

(9) 貯蓄

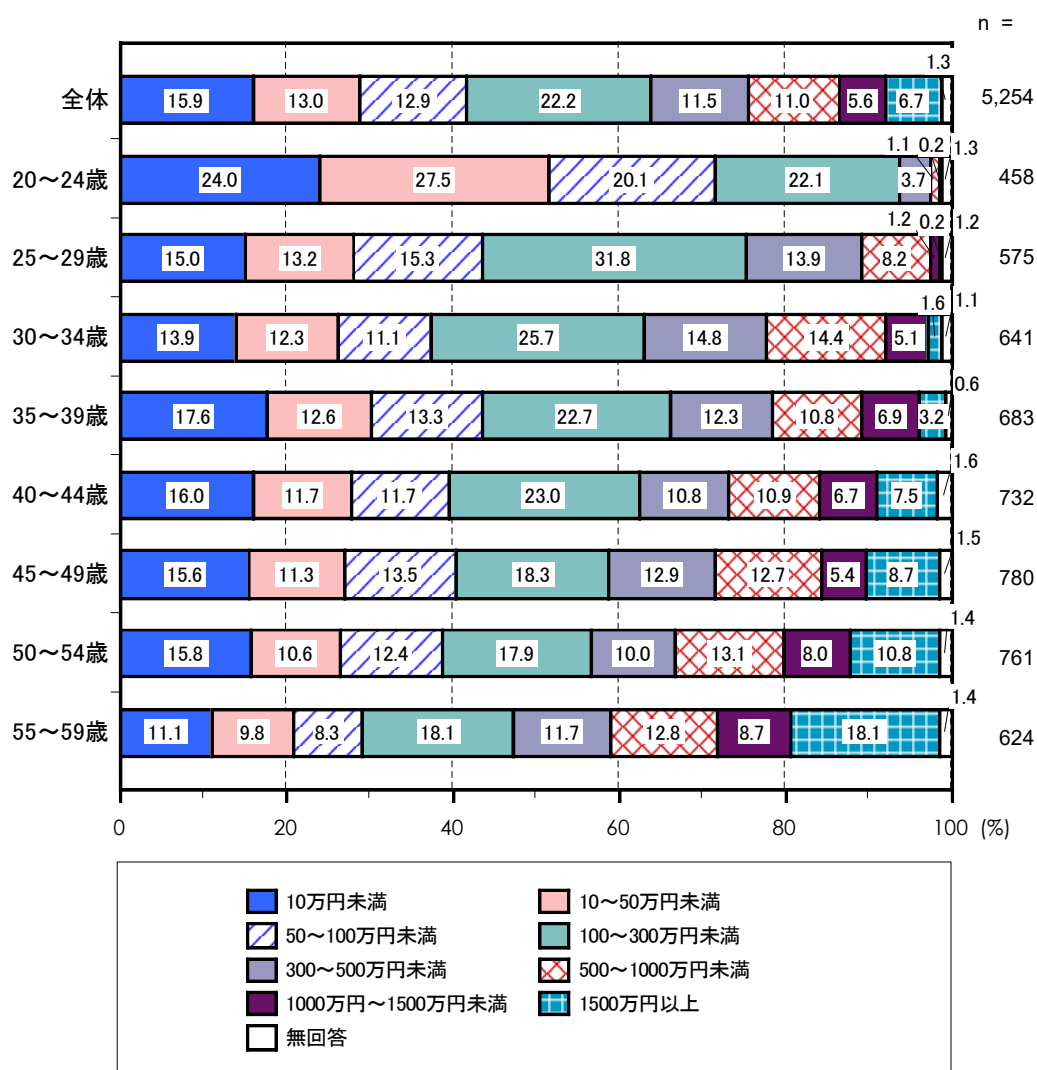
Q9. あなたの貯蓄額をお答えください。(1つ)

※世帯の貯蓄額ではなく、あなたご自身の貯蓄額をお答えください。

回答者自身の貯蓄額を尋ねたところ、「100～300 万円未満」22.2%が最も高く、「10 万円未満」15.9%、「10～50 万円未満」13.0%、「50～100 万円未満」12.9%が続いている。

年齢別にみると、年齢が上がるにしたがって、貯蓄額の高い比率も高くなっている。一方で、「10 万円未満」「10～50 万円未満」の貯蓄額が低い人は、年齢に関わらず2～3割程度を占めている。

図表 年齢別「貯蓄」



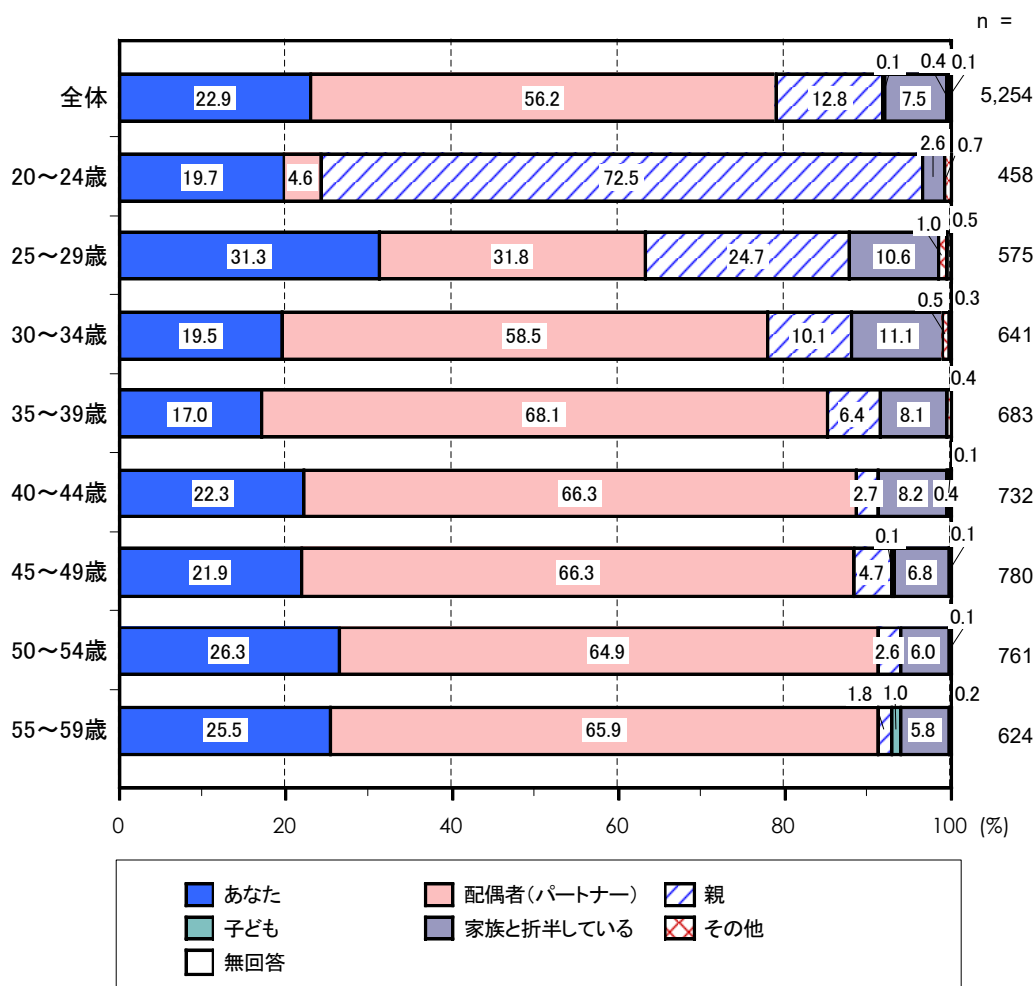
(10) 家計を支える主たる人

Q10. あなたの世帯で、家計を主に支えている人をお答えください。(1つ)

回答者の世帯で家計を主に支えている人を尋ねたところ、「配偶者(パートナー)」が56.2%と半数以上を占めている。「回答者自身」は22.9%、「親」が12.8%、「家族と折半」が7.5%と続いている。

年齢別にみると、20～24歳は「親」が72.5%と最も高く、25～29歳では「親」が24.7%と低くなる一方で「配偶者(パートナー)」が31.8%と高くなり、30歳以上では「配偶者(パートナー)」60%前後と最も高くなる。「回答者自身」は25～29歳が31.3%と他の年齢に比較して最も高く、30歳以上では20%前後を占めている。

図表 年齢別「家計を支える主たる人」



2. 仕事について

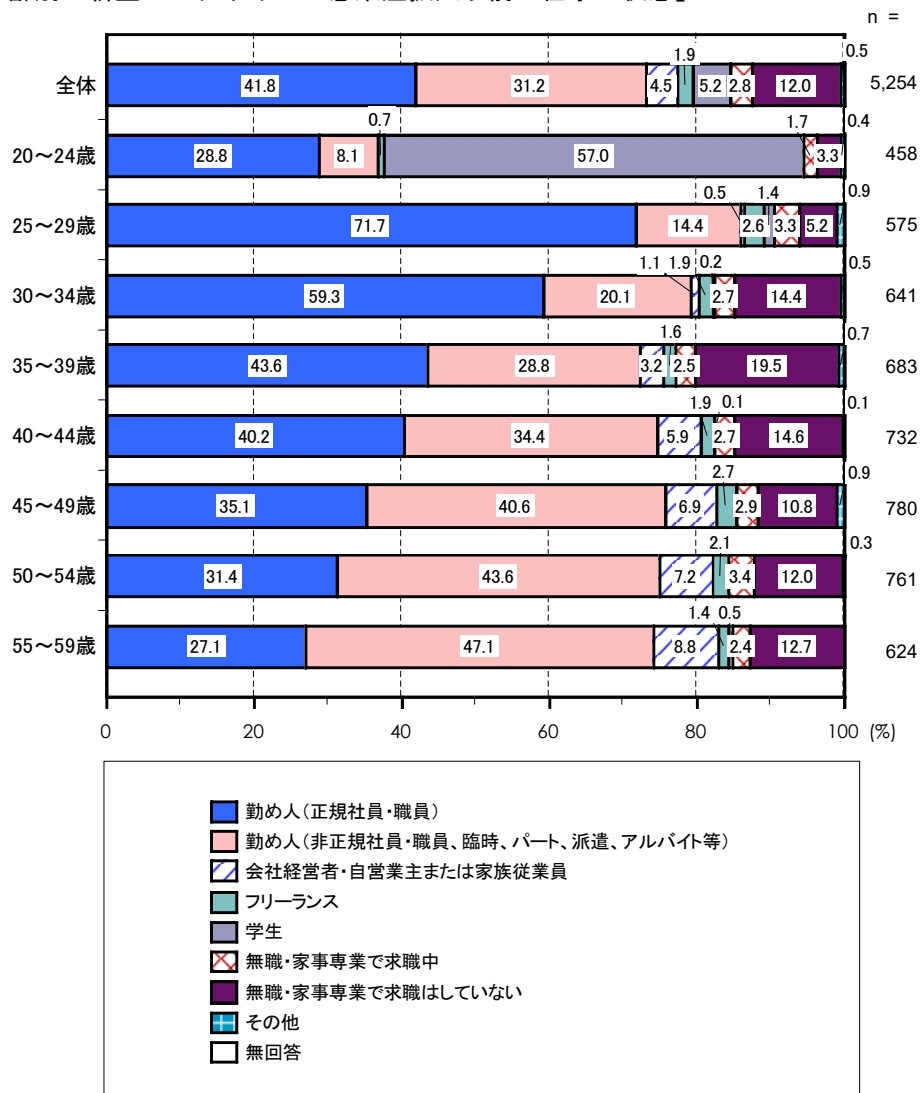
(1) 新型コロナウイルス感染症拡大以前の仕事の状態

Q11. 新型コロナウイルス感染症拡大以前（2020年1月頃）のあなたの仕事の状態をお答えください。（1つ）

回答者の新型コロナウイルス感染症拡大以前の仕事の状態は、「勤め人（正規社員・職員）」が41.8%と最も高く、「勤め人（非正規社員等）」31.2%、「無職で求職していない」12.0%と続いている。

年齢別にみると、20～24歳は「学生」が57.0%と半数以上を占めている。「勤め人（正規社員・職員）」は、25～29歳が71.7%と他の年齢に比べて最も高く、年齢が上がるにしたがって低くなる。一方で、「勤め人（非正規社員等）」は20～24歳が最も低く、年齢が上がるにしたがって高くなり、45歳以上では正規社員の比率よりも高くなる。「無職・家事専業で求職中」「無職・家事専業で求職はしていない」を合わせた「無職」は、35～39歳で22.0%と最も高くなっている。

図表 年齢別「新型コロナウイルス感染症拡大以前の仕事の状態」



(2) 就労者の仕事の内容

① 新型コロナウイルス感染症拡大以前の仕事の業種

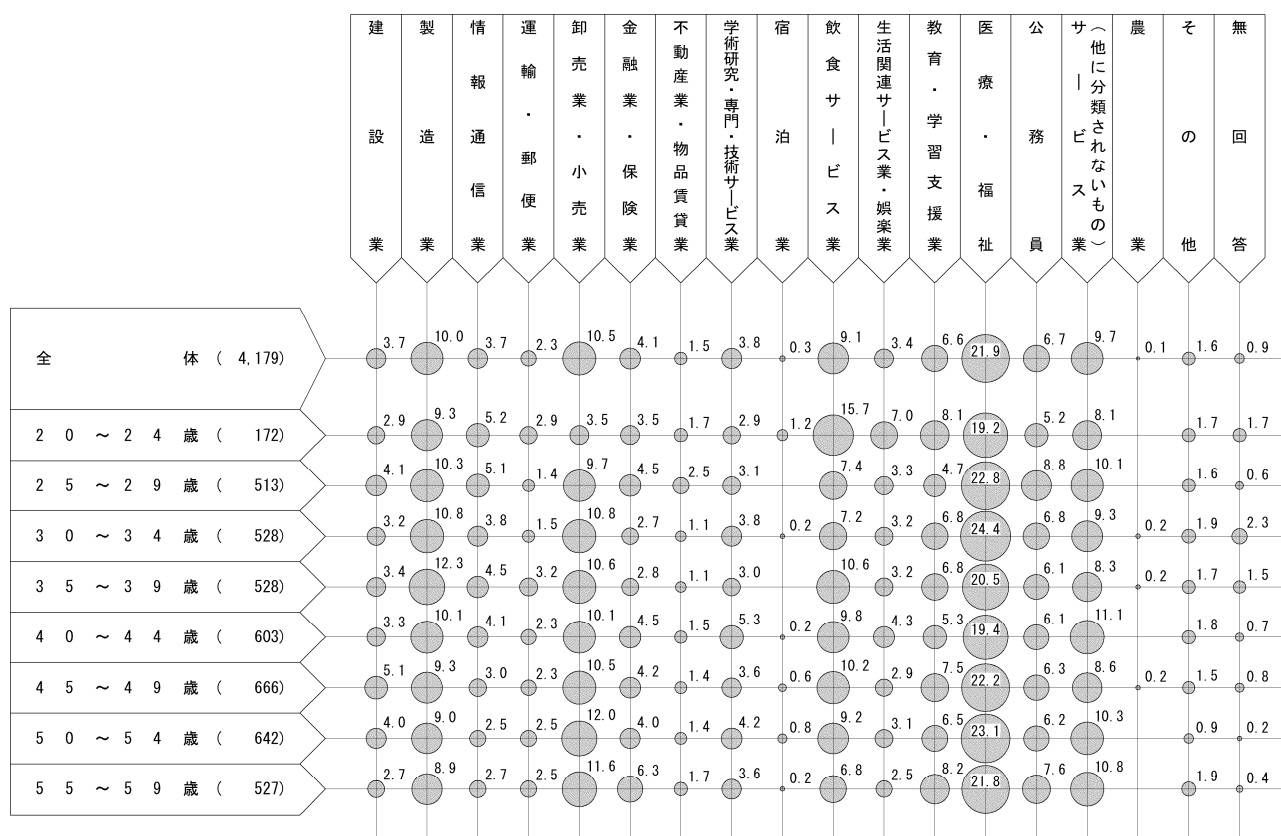
【Q11で「1 勤め人（正規社員・職員）」「2 勤め人（非正規社員等）」「3 会社経営者・自営業主・家族従業員」「4 フリーランス」に回答された方のみ対象】

Q12. 新型コロナウイルス感染症拡大以前（2020年1月頃）の、あなたの主な仕事の「業種」をお答えください。（1つ）

仕事をしている人4,179人に、その仕事の業種を尋ねたところ、「医療・福祉」21.9%が最も高く、「卸売業・小売業」10.5%、「製造業」10.0%と続いている。

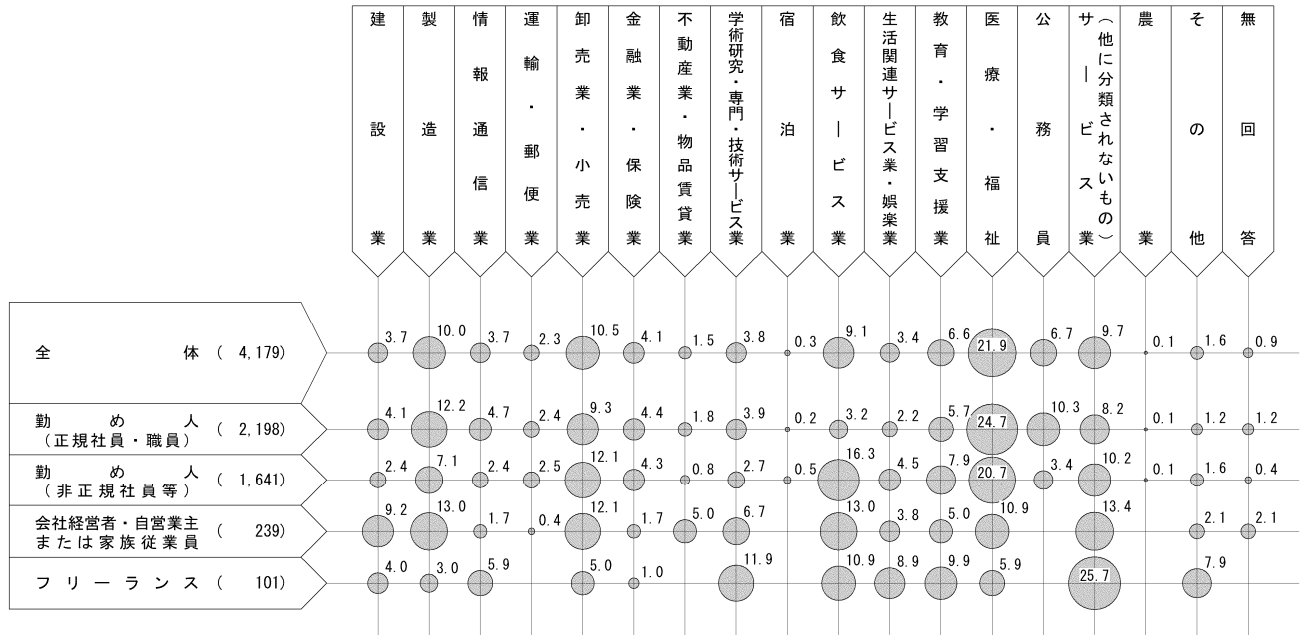
仕事の状態別にみると、「勤め人（正規社員・職員）」は「医療・福祉」24.7%、「製造業」12.2%、「公務員」10.3%の順である。「勤め人（非正規社員等）」は「医療・福祉」20.7%、「飲食サービス業」16.3%、「卸売業・小売業」12.1%の順となっている。勤め人のうち、非正規職については、新型コロナウイルス感染症拡大で大きく影響を受けたと考えられる飲食サービス業、小売業の比率が高くなっている。

図表 年齢別「新型コロナウイルス感染症拡大以前の仕事の業種」



図表 新型コロナウイルス感染症拡大以前の仕事の状態別

「新型コロナウイルス感染症拡大以前の仕事の業種」



図表 H27 国勢調査結果と本調査結果の比較

		建設業	製造業	情報通信業	運輸・郵便業	卸売業・小売業	金融業・保険業	不動産業・物品賃貸業	学術研究・専門・技術サービス業	飲食サービス業	生活関連サービス業・娯楽業	教育・学習支援業	医療・福祉	公務員	サービス業（他に分類されないもの）	農業	その他	無回答
20～24 歳	H27 国調	1.6	7.5	2.4	1.7	20.8	3.1	1.5	2.4	12.9	7.0	6.2	19.5	1.3	3.0	0.1	9.0	-
	本調査	2.9	9.3	5.2	2.9	3.5	3.5	1.7	2.9	16.9	7.0	8.1	19.2	5.2	8.1	-	1.7	1.7
25～29 歳	H27 国調	2.3	9.8	3.5	2.1	19.4	4.2	1.7	3.6	5.3	5.3	7.4	21.0	2.1	3.7	0.1	8.6	-
	本調査	4.1	10.3	5.1	1.4	9.7	4.5	2.5	3.1	7.4	3.3	4.7	22.8	8.8	10.1	-	1.6	0.6
30～34 歳	H27 国調	3.0	10.8	3.5	2.3	18.7	3.7	1.9	4.3	6.1	5.2	6.5	19.3	2.0	4.5	0.1	8.3	-
	本調査	3.2	10.8	3.8	1.5	10.8	2.7	1.1	3.8	7.4	3.2	6.8	24.4	6.8	9.3	0.2	1.9	2.3
35～39 歳	H27 国調	3.2	11.0	3.3	2.3	19.0	3.3	1.9	4.4	7.5	4.5	6.3	19.4	1.7	4.8	0.1	7.4	-
	本調査	3.4	12.3	4.5	3.2	10.6	2.8	1.1	3.0	10.6	3.2	6.8	20.5	6.1	8.3	0.2	1.7	1.5
40～44 歳	H27 国調	3.6	11.2	2.5	2.8	20.3	3.3	1.9	4.2	8.2	4.1	6.3	18.2	1.9	5.2	0.1	6.2	-
	本調査	3.3	10.1	4.1	2.3	10.1	4.5	1.5	5.3	10.0	4.3	5.3	19.4	6.1	11.1	-	1.8	0.7
45～49 歳	H27 国調	3.4	10.9	2.2	2.8	20.5	3.8	1.8	3.6	7.3	4.2	7.0	19.6	2.0	5.6	0.1	5.5	-
	本調査	5.1	9.3	3.0	2.3	10.5	4.2	1.4	3.6	10.8	2.9	7.5	22.2	6.3	8.6	0.2	1.5	0.8
50～54 歳	H27 国調	3.1	10.1	1.6	2.5	20.7	4.0	2.3	3.2	6.8	4.3	7.7	20.2	2.2	6.2	0.1	4.9	-
	本調査	4.0	9.0	2.5	2.5	12.0	4.0	1.4	4.2	10.0	3.1	6.5	23.1	6.2	10.3	-	0.9	0.2
55～59 歳	H27 国調	2.9	9.8	1.0	2.5	21.3	3.4	2.8	2.9	7.7	4.6	8.0	20.0	2.0	6.6	0.2	4.3	-
	本調査	2.7	8.9	2.7	2.5	11.6	6.3	1.7	3.6	7.0	2.5	8.2	21.8	7.6	10.8	-	1.9	0.4

② 新型コロナウイルス感染症拡大以前の仕事の職種

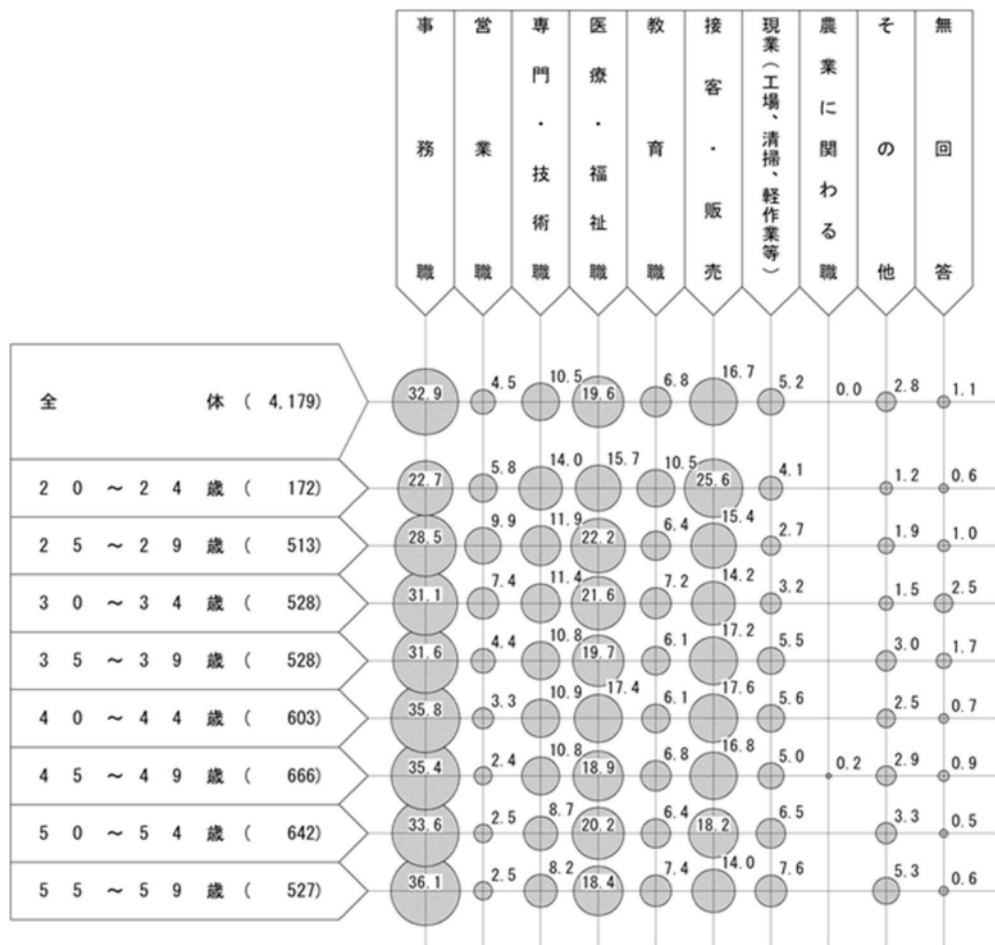
【Q11で「1 勤め人（正規社員・職員）」「2 勤め人（非正規社員等）」「3 会社経営者・自営業主・家族従業員」「4 フリーランス」に回答された方のみ対象】

Q13. 新型コロナウイルス感染症拡大以前（2020年1月頃）のあなたの主な仕事の「職種」をお答えください。（1つ）

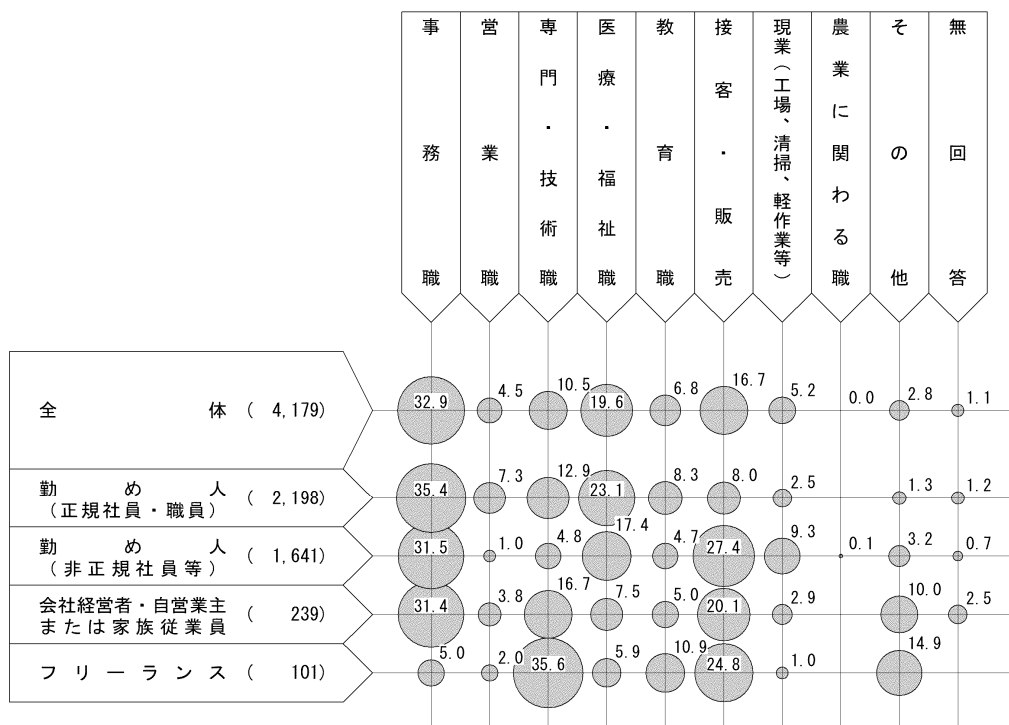
仕事をしている人4,179人に、その仕事の職種を尋ねたところ、「事務職」32.9%が最も高く、「医療・福祉職」19.6%、「接客・販売」16.7%と続いている。

仕事の状態別にみると、「勤め人（正規社員・職員）」は「事務職」35.4%と最も高く、「医療・福祉職」23.1%、「専門・技術職」12.9%の順である。「勤め人（非正規社員他）」は「事務職」31.5%が最も高く、「接客・販売」が27.4%、「医療・福祉職」17.4%の順となっている。

図表 年齢別「新型コロナウイルス感染症拡大以前の仕事の職種」



図表 新型コロナウイルス感染症拡大以前の仕事の状態別
「新型コロナウイルス感染症拡大以前の仕事の職種」



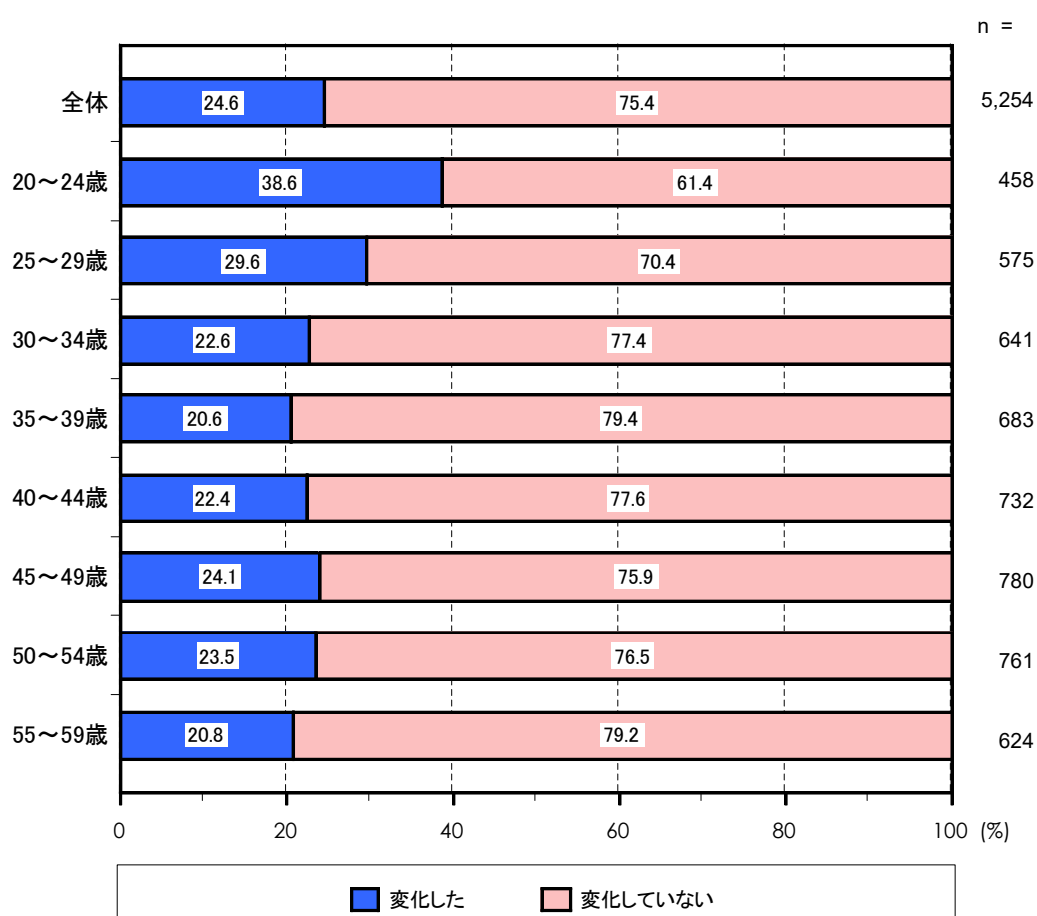
(3) 新型コロナウイルス感染症拡大時期の仕事の状態の変化

Q14. あなたの現在の主な仕事は、新型コロナウイルス感染症拡大以前（2020 年 1 月頃）から変化しましたか。（1 つ）

回答者の現在の仕事が新型コロナウイルス感染症拡大以前（2020 年 1 月頃）から変化があったかどうかを尋ねたところ、「変化した」24.6%となっている。

年齢別にみると、「変化した」は20～24歳が38.6%と最も高く、24～29歳が29.6%、30歳以上では20%程度となっている。20～24歳は学生が多く、就職で変化した人が多いことが推察される。

図表 年齢別「新型コロナウイルス感染症拡大時期の仕事の状態の変化」



(4) 新型コロナウイルス感染症拡大以前から変化した人の仕事の状態

【Q14で「1 変化した」に回答された方のみ対象】

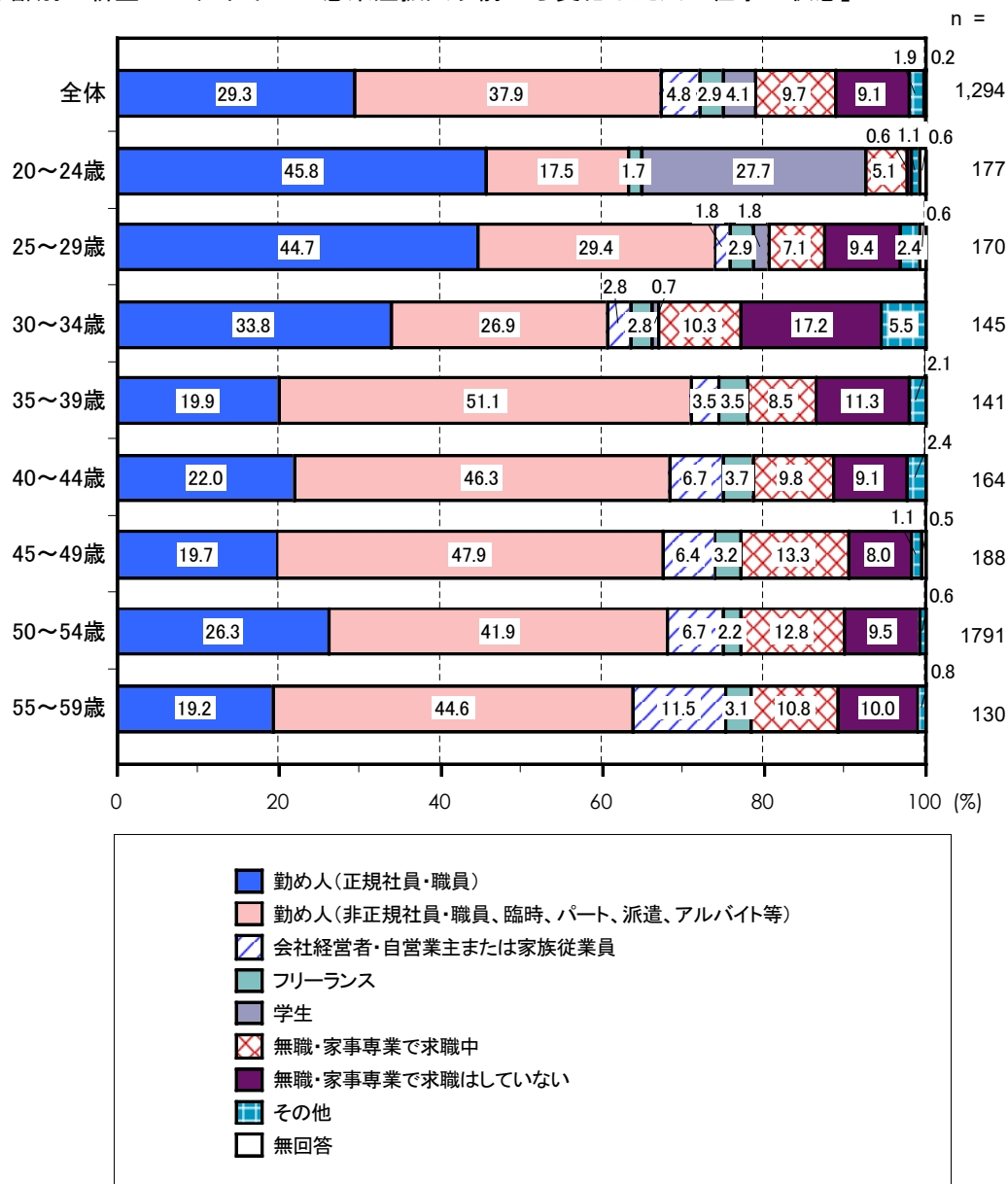
Q15. 現在、あなたの仕事の状態をお答えください。(1つ)

前問で、新型コロナウイルス感染症拡大以前から仕事の状態が「変化した」と回答した1,294人に、変化した後の仕事の状態を尋ねたところ、「勤め人(非正規社員等)」が37.9%と最も高く、「勤め人(正規社員・職員)」29.3%と続いている。

年齢別にみると、20～34歳は「勤め人(正規社員・職員)」に変化した率が最も高いが、35歳以上では「勤め人(非正規社員等)」が最も高く、半数近くを占めている。

いわゆるM字カーブと言われるように30～34歳で働く人の比率は低くなる。しかし、その内訳は大きく異なり、20歳代は「勤め人(正規社員・職員)」が高く、35歳以上では「勤め人(非正規社員等)」が高くなっている。

図表 年齢別「新型コロナウイルス感染症拡大以前から変化した人の仕事の状態」



(5) 新型コロナウイルス感染症拡大以前から変化した人のうち就労者の仕事の内容

① 新型コロナウイルス感染症拡大以前から変化した後の仕事の業種

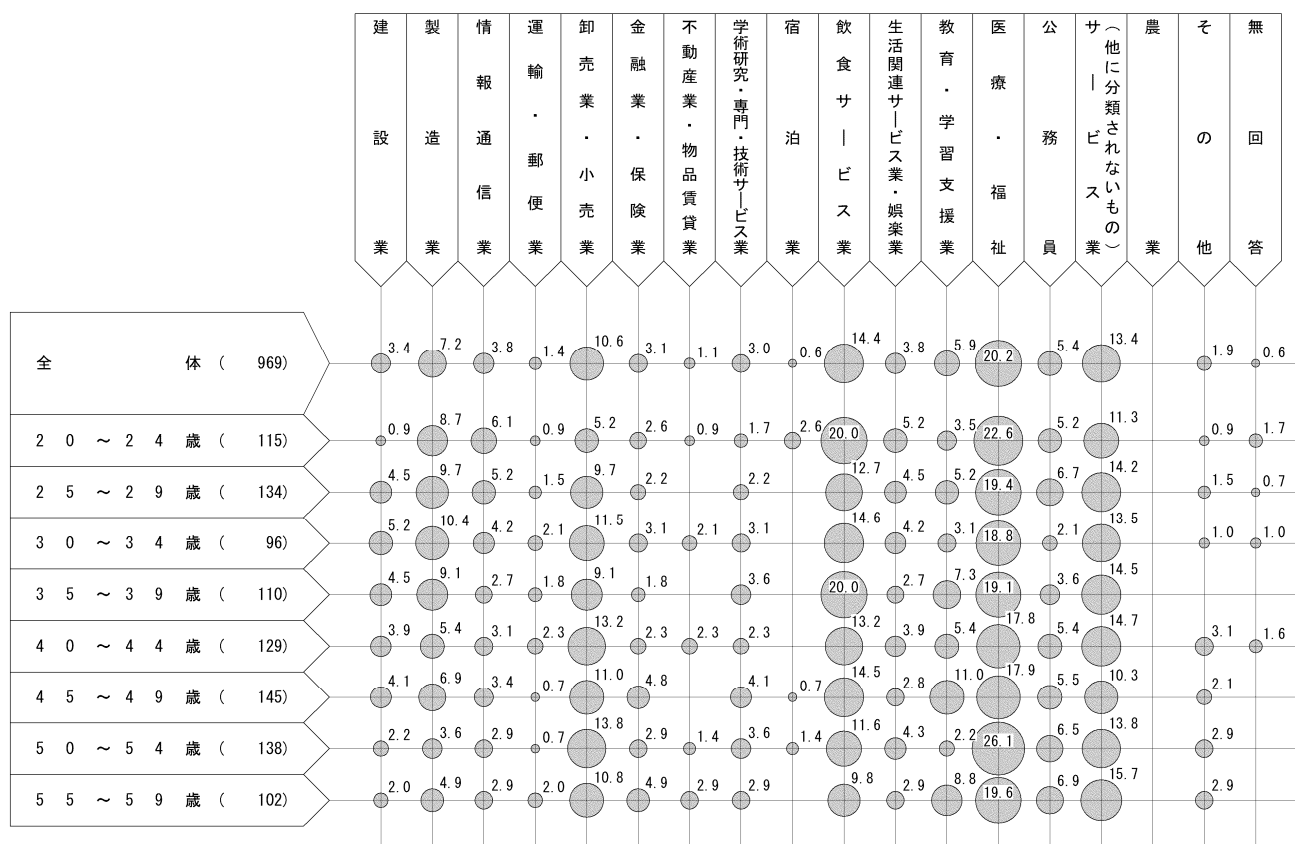
【Q15で「1 勤め人（正規社員・職員）」「2 勤め人（非正規社員等）」「3 会社経営者・自営業主・家族従業員」「4 フリーランス」に回答された方のみ対象】

Q16. 現在、あなたの主な仕事の「業種」をお答えください。（1つ）

前問で、新型コロナウイルス感染症拡大以前から変化した後の仕事の状態が「勤め人」「会社経営者・自営業主または家族従業員」「フリーランス」と回答した 969 人に、変化した後の業種を尋ねたところ、「医療・福祉」が 20.2%と最も高く、「飲食サービス業」14.4%「サービス業（他に分類されないもの）」13.4%と続いている。

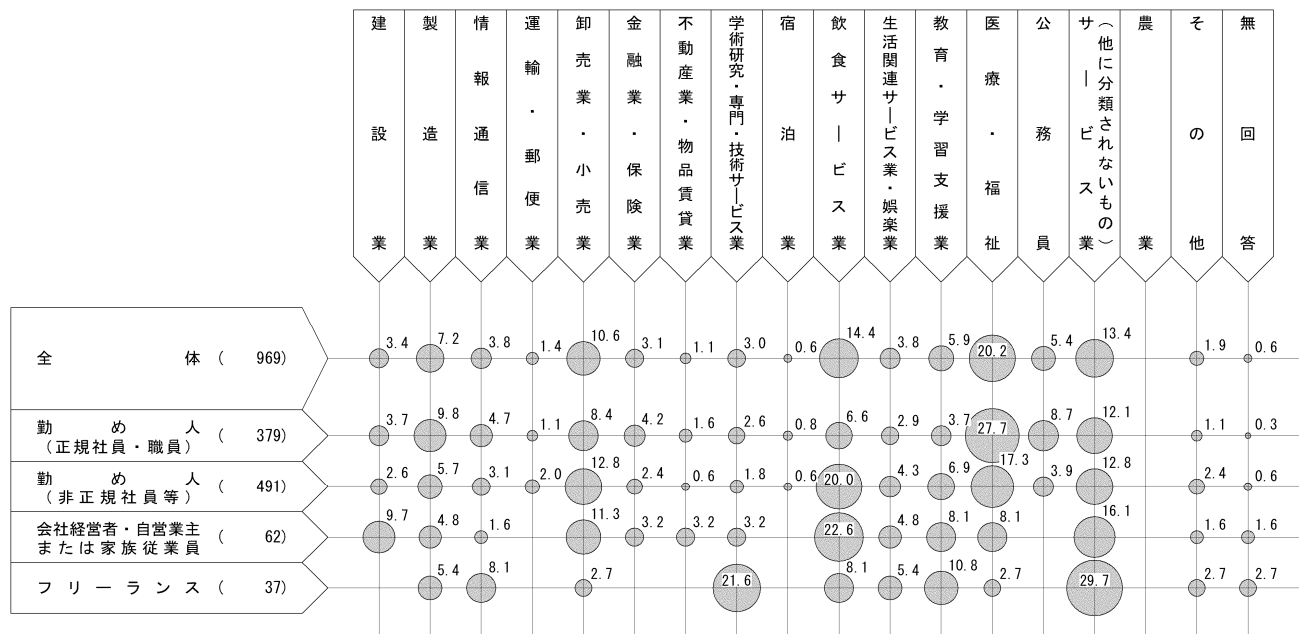
変化した後の仕事の状態別にみると、「勤め人（正規社員・職員）」は、「医療・福祉」27.7%、「サービス業（他に分類されないもの）」12.1%、「製造業」9.8%の順である。「勤め人（非正規社員等）」は、「飲食サービス業」20.0%と最も高く、「医療・福祉」17.3%、「卸売業・小売業」「サービス業（他に分類されないもの）」がそれぞれ 12.8%の順である。勤め人については、正規職、非正規職ともに新型コロナウイルス感染症拡大で大きく影響を受けたと考えられる業種への転換が高くなっている。

図表 年齢別「新型コロナウイルス感染症拡大以前から変化した後の仕事の業種」



図表 新型コロナウイルス感染症拡大後変化した後の仕事の状態別

「新型コロナウイルス感染症拡大以前から変化した後の仕事の業種」



② 新型コロナウイルス感染症拡大以前から変化した後の仕事の職種

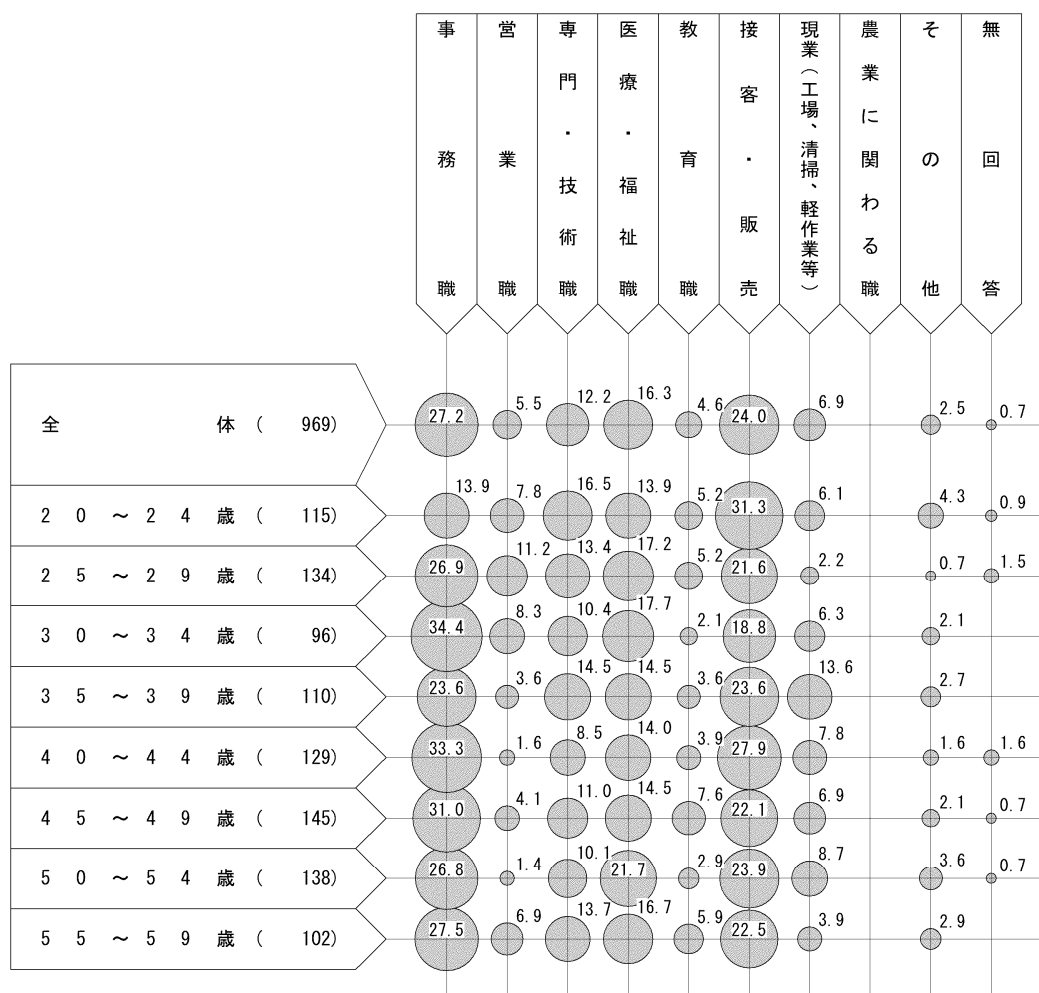
【Q15で「1 勤め人（正規社員・職員）」「2 勤め人（非正規社員等）」「3 会社経営者・自営業主・家族従業員」「4 フリーランス」に回答された方のみ対象】

Q17. 現在、あなたの主な仕事の「職種」をお答えください。（1つ）

新型コロナウイルス感染症拡大以前から変化した後の仕事の状態が「勤め人」「会社経営者・自営業主または家族従業員」「フリーランス」と回答した969人に、変化した後の職種を尋ねたところ、「事務職」27.2%と最も高く、「接客・販売」24.0%、「医療・福祉職」16.3%と続いている。

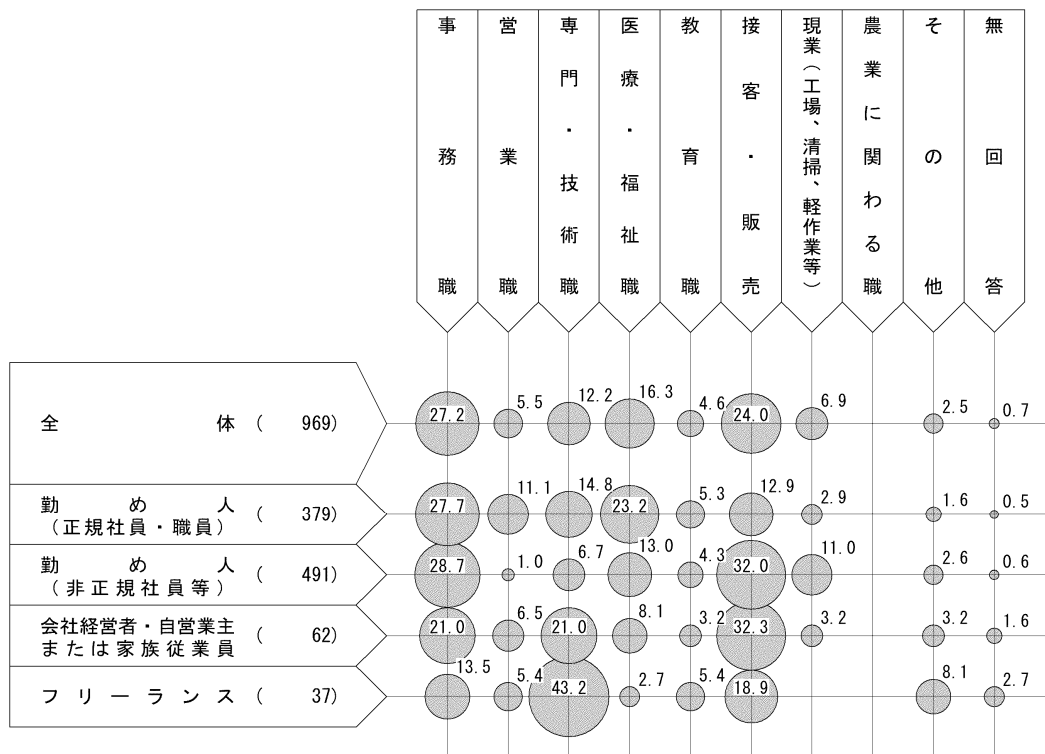
仕事の状態別にみると、「勤め人（正規社員・職員）」は「事務職」27.7%と最も高く、「医療・福祉職」23.2%、「専門・技術職」14.8%と続いている。「勤め人（非正規職等）」は「接客・販売」が32.0%と最も高く、「事務職」28.7%、「医療・福祉職」13.0%と続いている。

図表 年齢別「新型コロナウイルス感染症拡大以前から変化した後の仕事の職種」



図表 新型コロナウイルス感染症拡大後変化した後の仕事の状態別

「新型コロナウイルス感染症拡大後変化した後の仕事の職種」



(6) 現在の仕事の状態

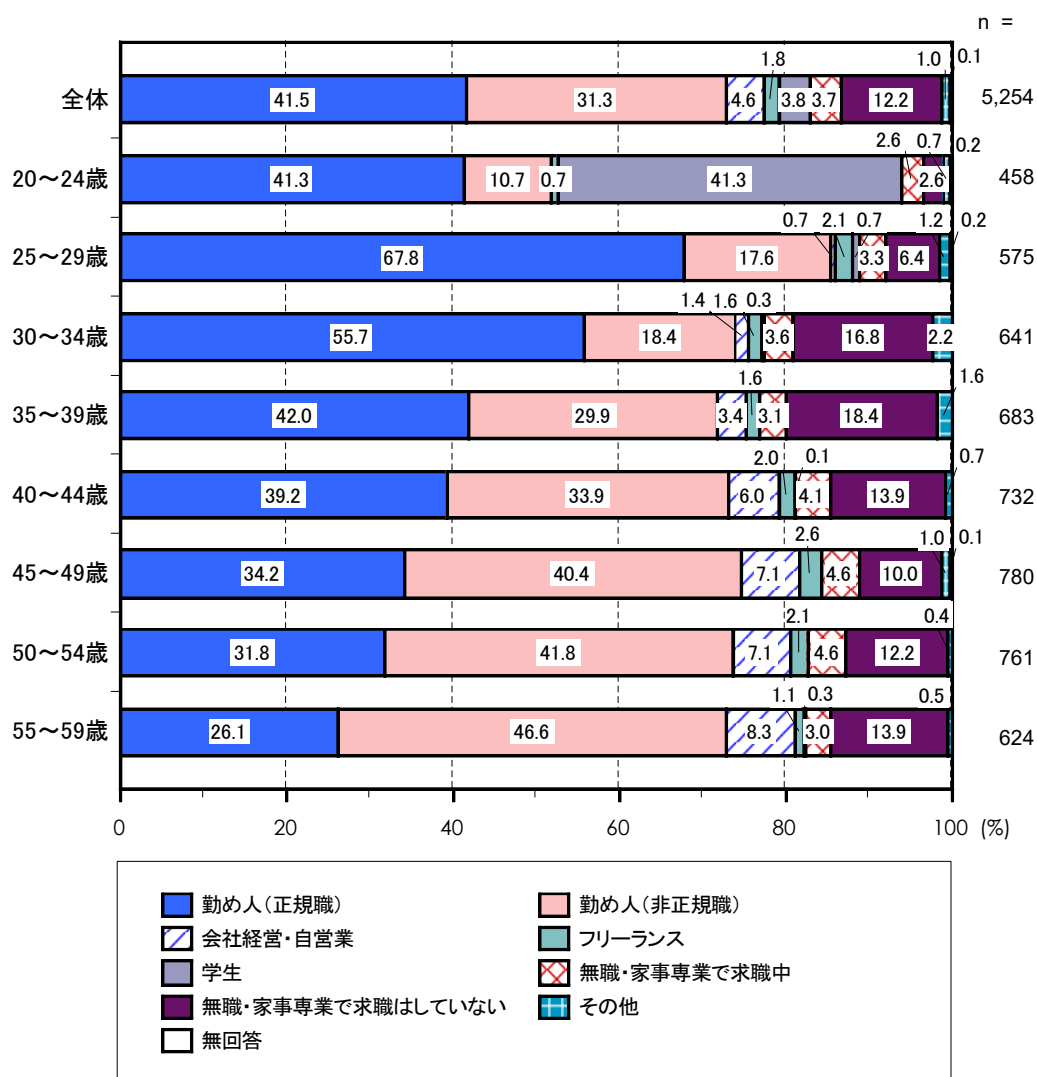
新型コロナウイルス感染症拡大以前から仕事の状態が変化していない人も含めた全体の現在の仕事の状態は、20～24歳は、学生から社会人へと変化する時期でもあり、「学生」が減少し「勤め人（正規社員・職員）」の比率が高くなっている。その他の年齢では、大きな変化はみられない。

仕事の業種、職種をみても、新型コロナウイルス感染症拡大以前の業種、職種から大きな違いはない。新型コロナウイルス感染症拡大後に仕事の状態が変化している人がいても、全体の比率としては大きな傾向の差がない状況である。

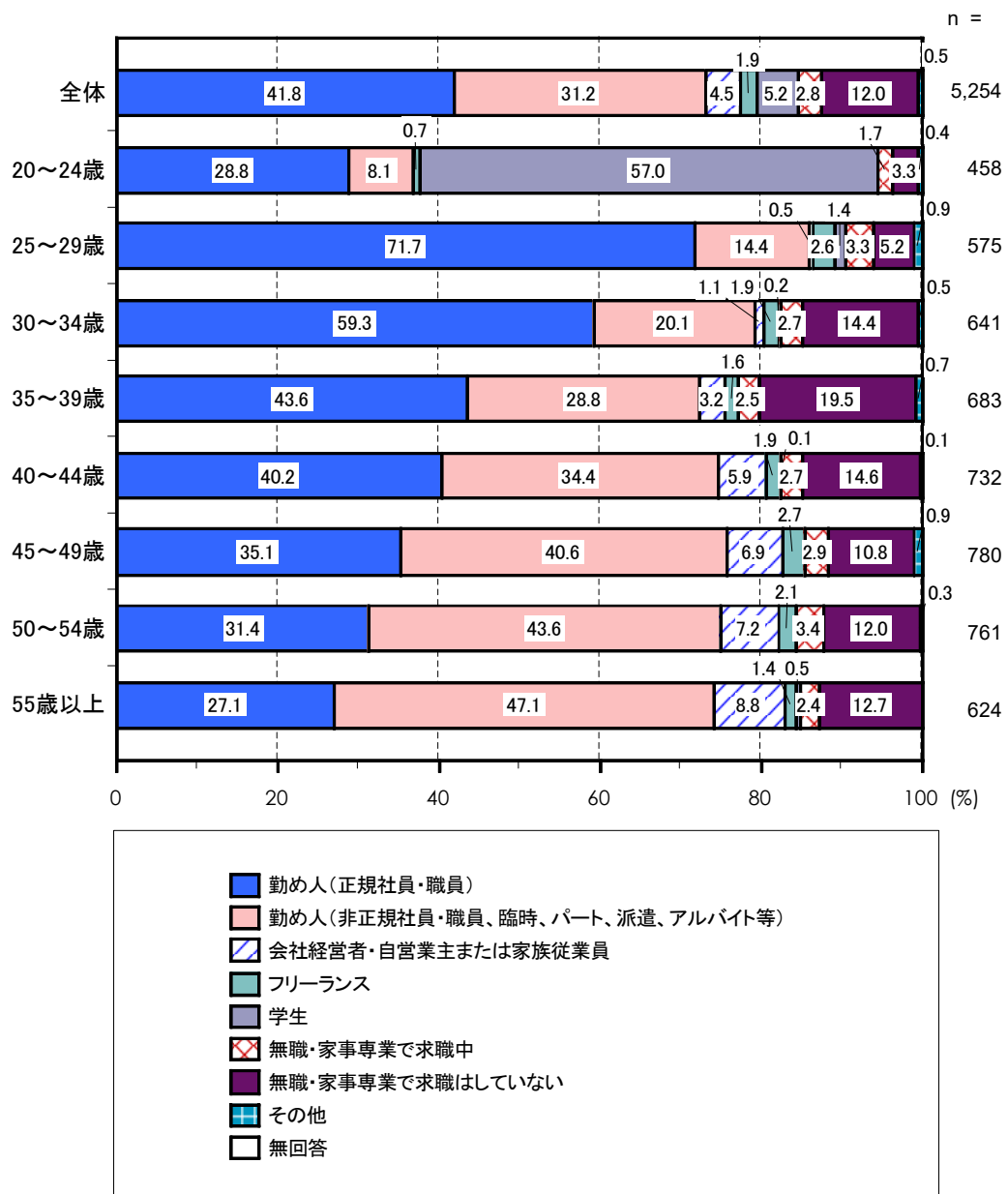
新型コロナウイルス感染症拡大前後の業種をみると、「生活関連サービス業・娯楽業」「運輸・郵便業」「飲食サービス業」は他の業種への転換がやや高いが、85%以上は同業種となっている。

新型コロナウイルス感染症拡大前後の職種をみると、「接客・販売」が同業種は89.1%であり、他の職種が90%を超える中でやや低くなっている。

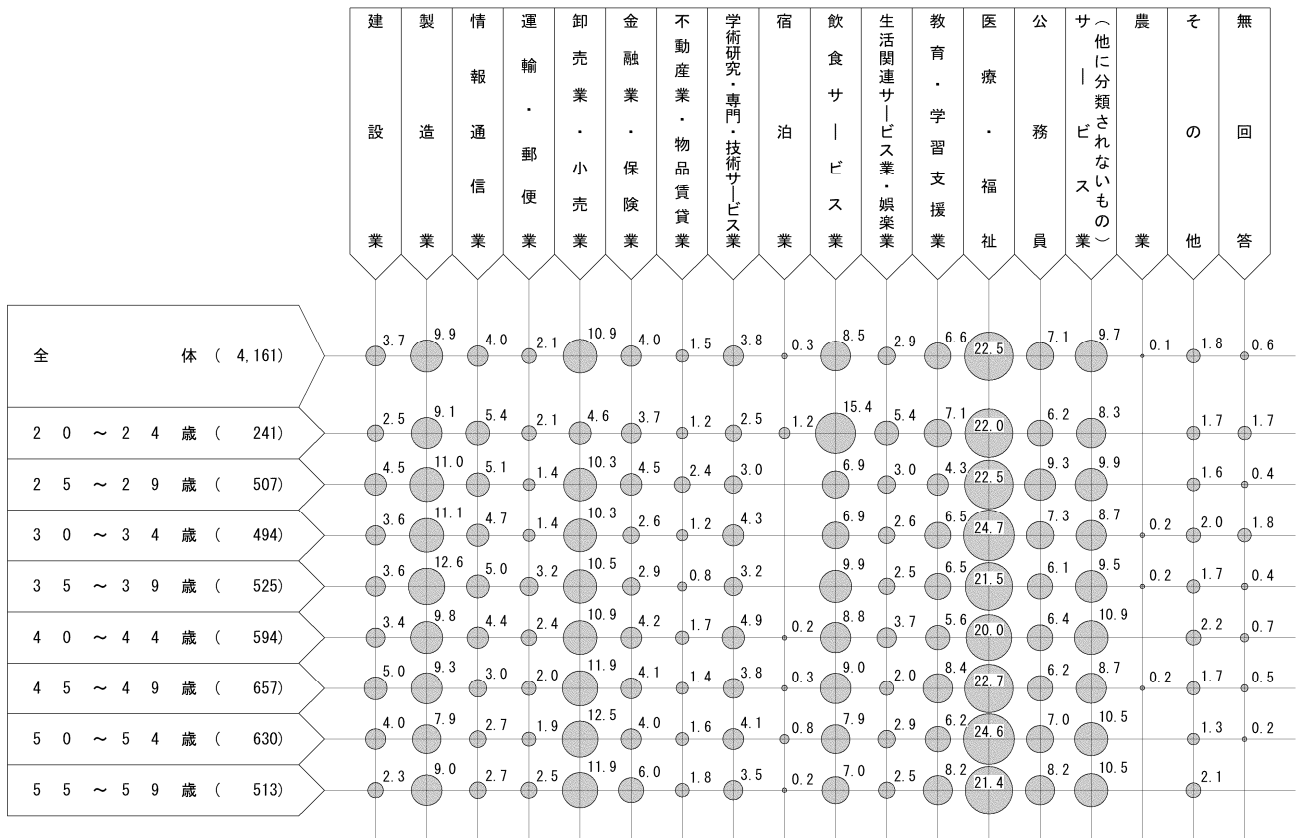
図表 年齢別「現在の仕事の状態」



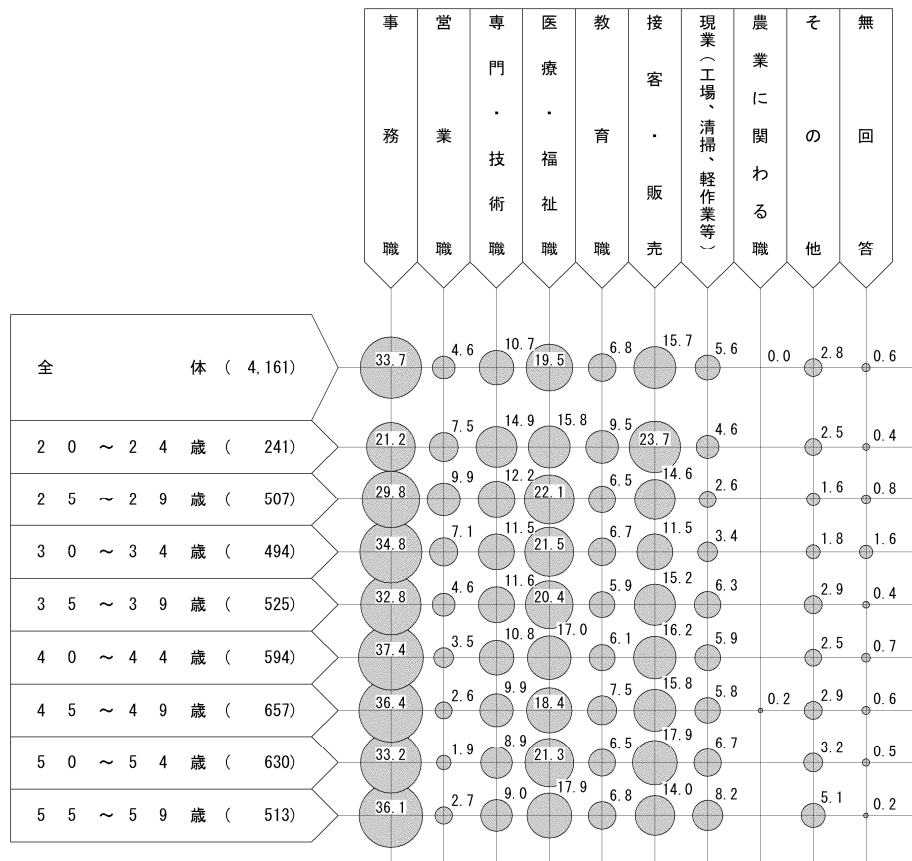
図表 年齢別「新型コロナウイルス感染症拡大以前の仕事の状態」



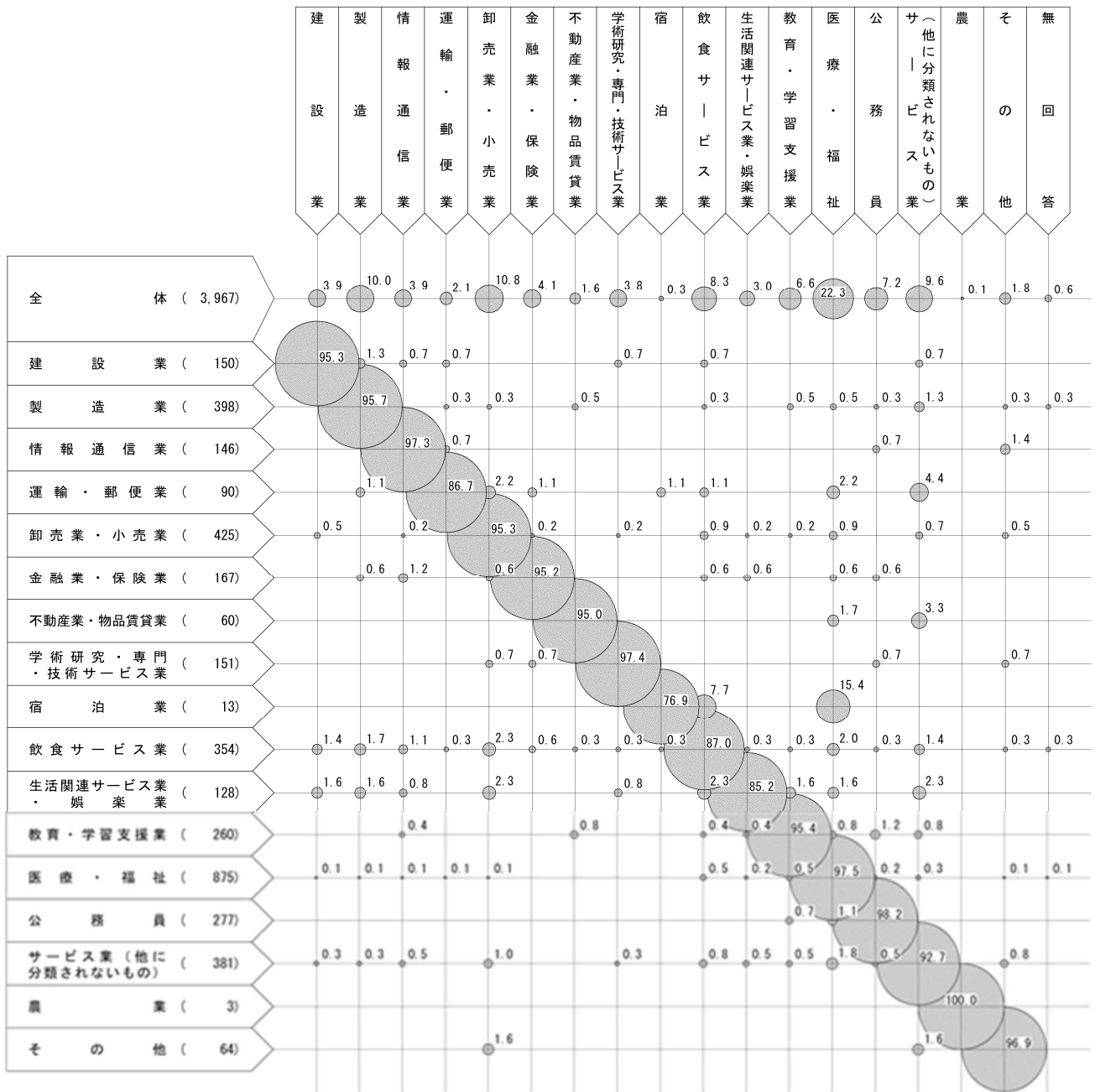
図表 年齢別「現在の仕事の業種」



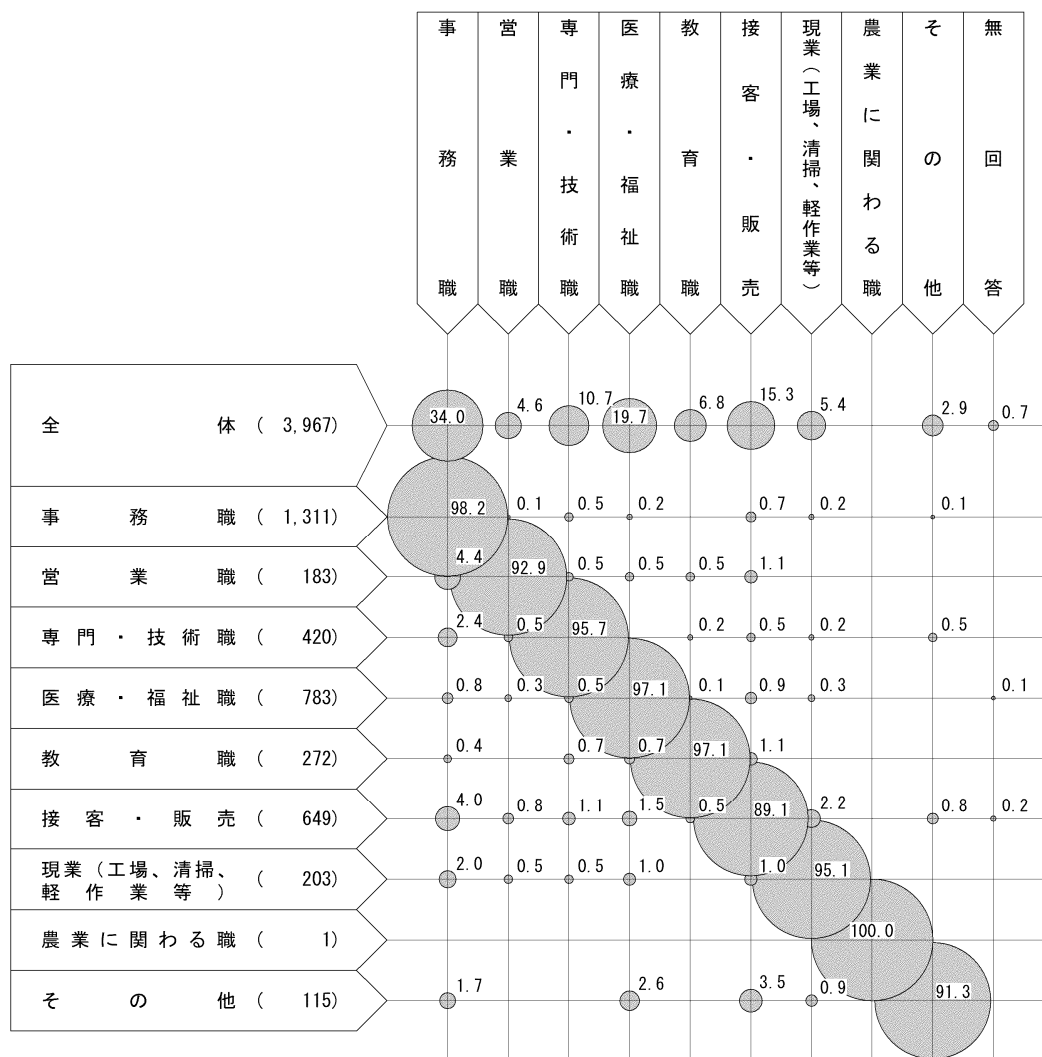
図表 年齢別「現在の仕事の職種」



図表 新型コロナウイルス感染症拡大前後の仕事の業種



図表 新型コロナウイルス感染症拡大前後の仕事の職種



(7) 非正規職になった理由

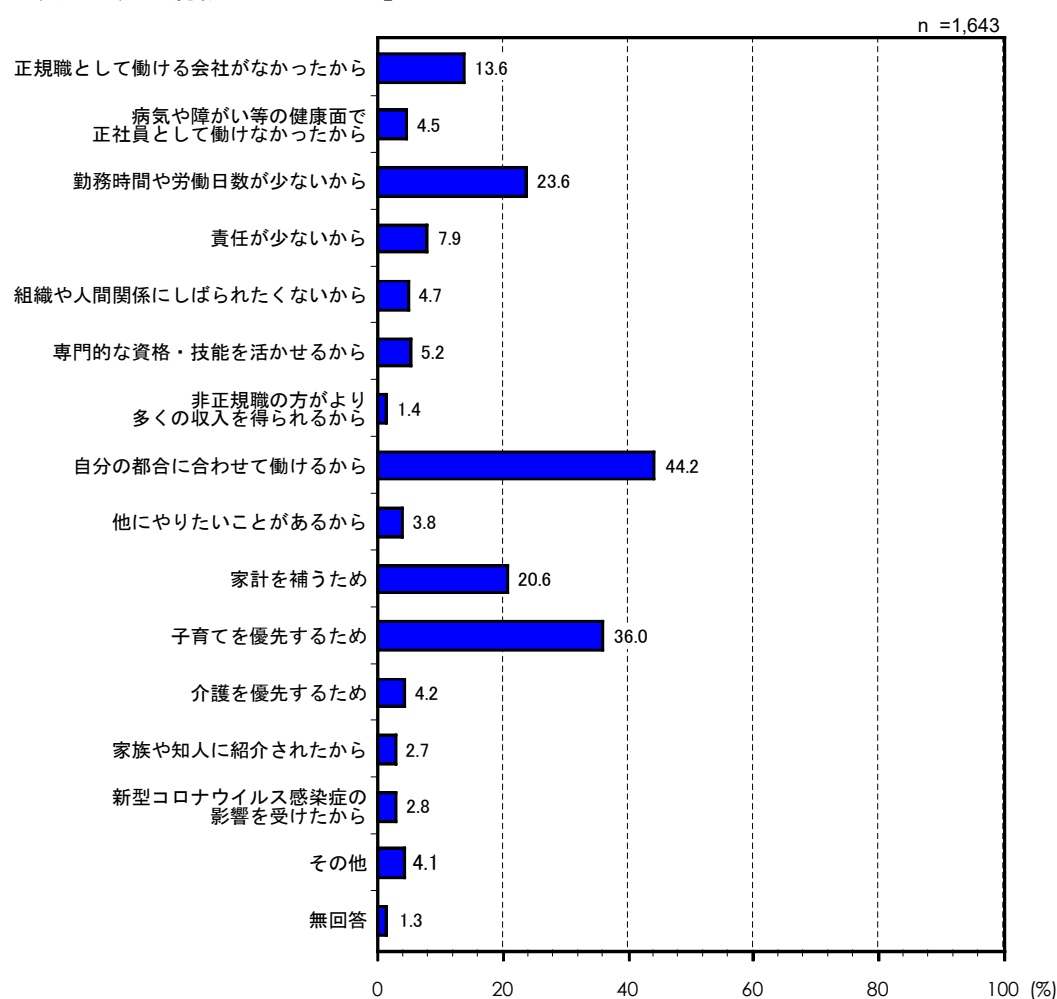
【仕事の状態が「勤め人（非正規社員等）」の方のみ対象】

Q18. あなたが、非正規職になった理由をお答えください。（あてはまるもの全て）

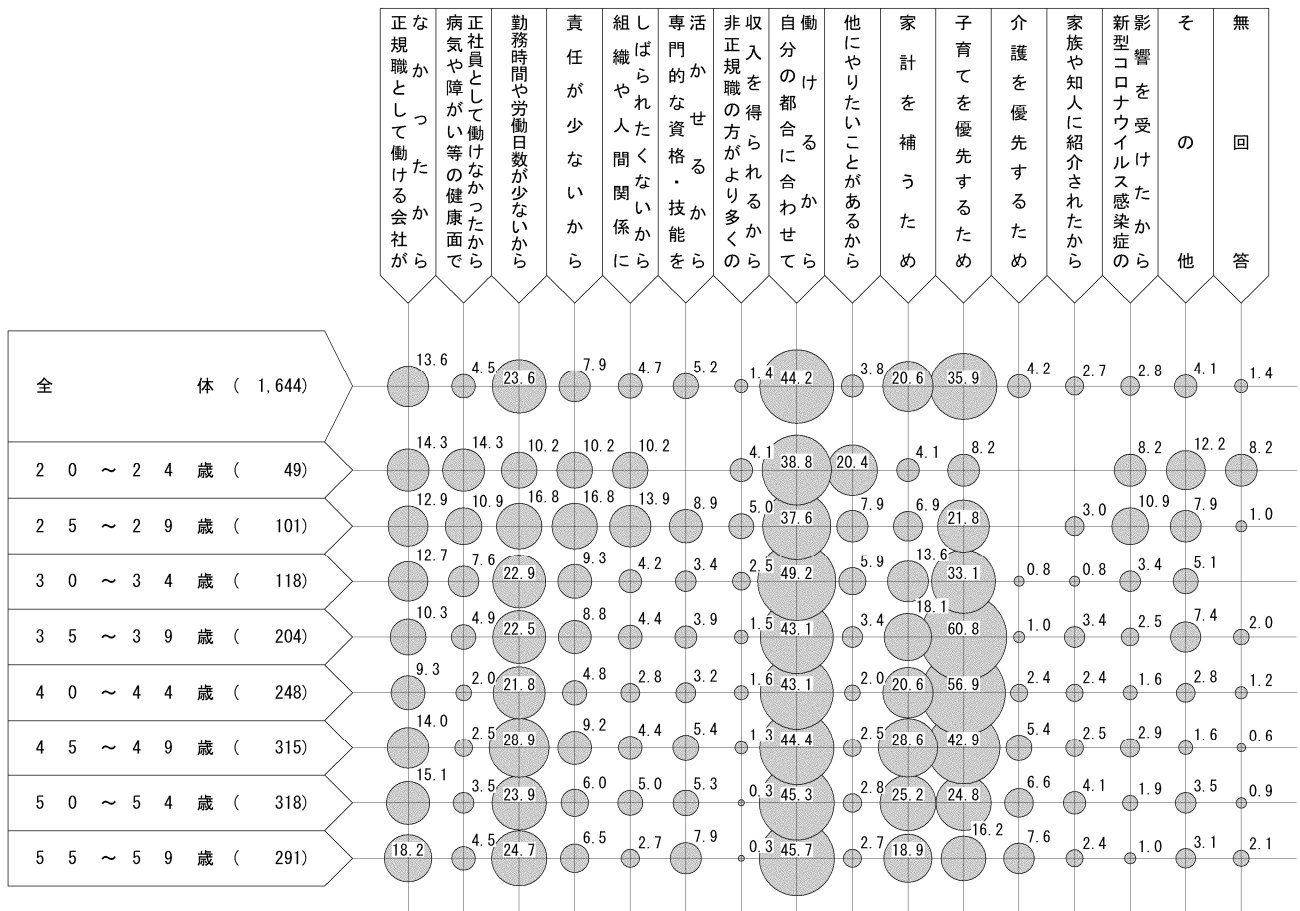
仕事の状態が「勤め人（非正規社員等）」と回答した 1,643 人に、非正規職に就いた理由を尋ねたところ、「自分の都合に合わせて働けるから」が 44.2%と最も高く、「子育てを優先するため」36.0%、「勤務時間や労働日数が少ないから」23.6%と続いている。

年齢別にみると、35～44 歳は「子育てを優先するため」が最も高く、他の年代は「自分の都合に合わせて働けるから」が最も高くなっている。20 歳代は「病気や障がいなどの健康面で正社員として働けなかったから」「責任が少ないから」「組織や人間関係にしばらくしたくないから」「新型コロナウイルス感染症の影響を受けたから」が他の年代に比べて高くなっている。50 歳代は「正規職として働ける会社がなかったから」「介護を優先させるため」が他の年齢に比べて高くなっている。

図表 「非正規職になった理由」



図表 年齢別「非正規職になった理由」



(8) 無職・家事専業になった理由

【仕事の状態が「無職・家事専業」の方のみ対象】

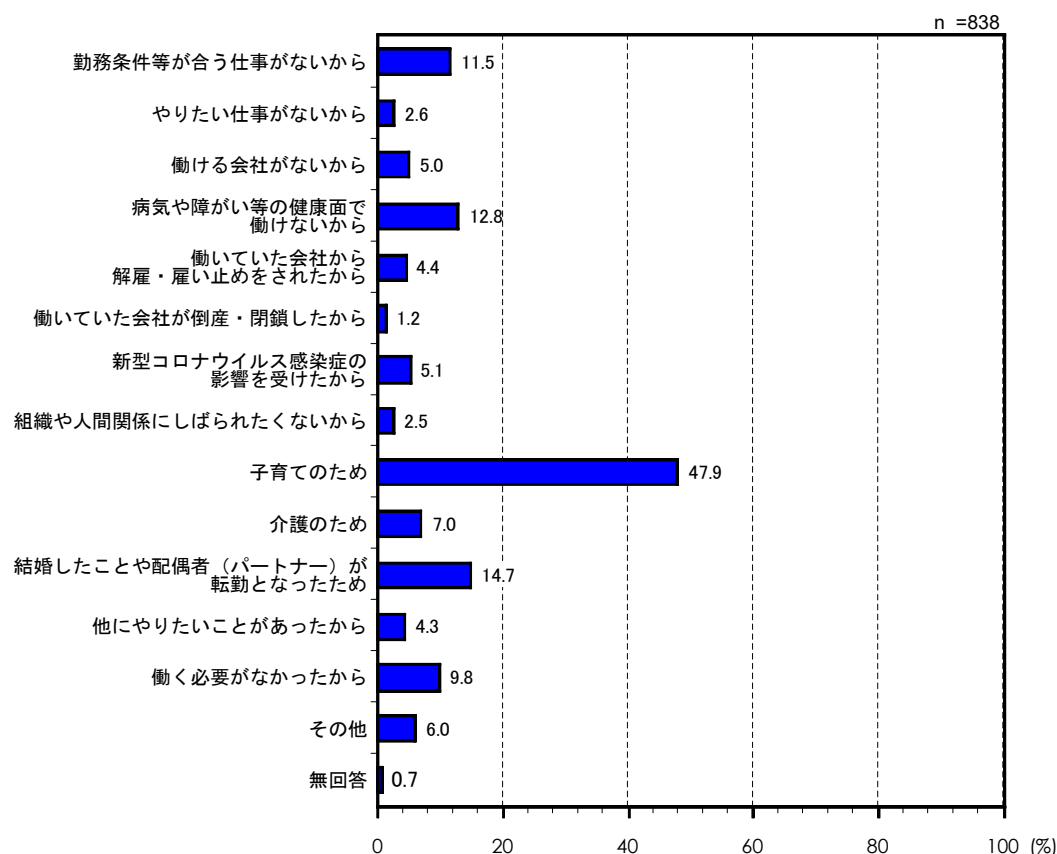
Q19. 現在、あなたが、無職・家事専業になった理由をお答えください。

(あてはまるもの全て)

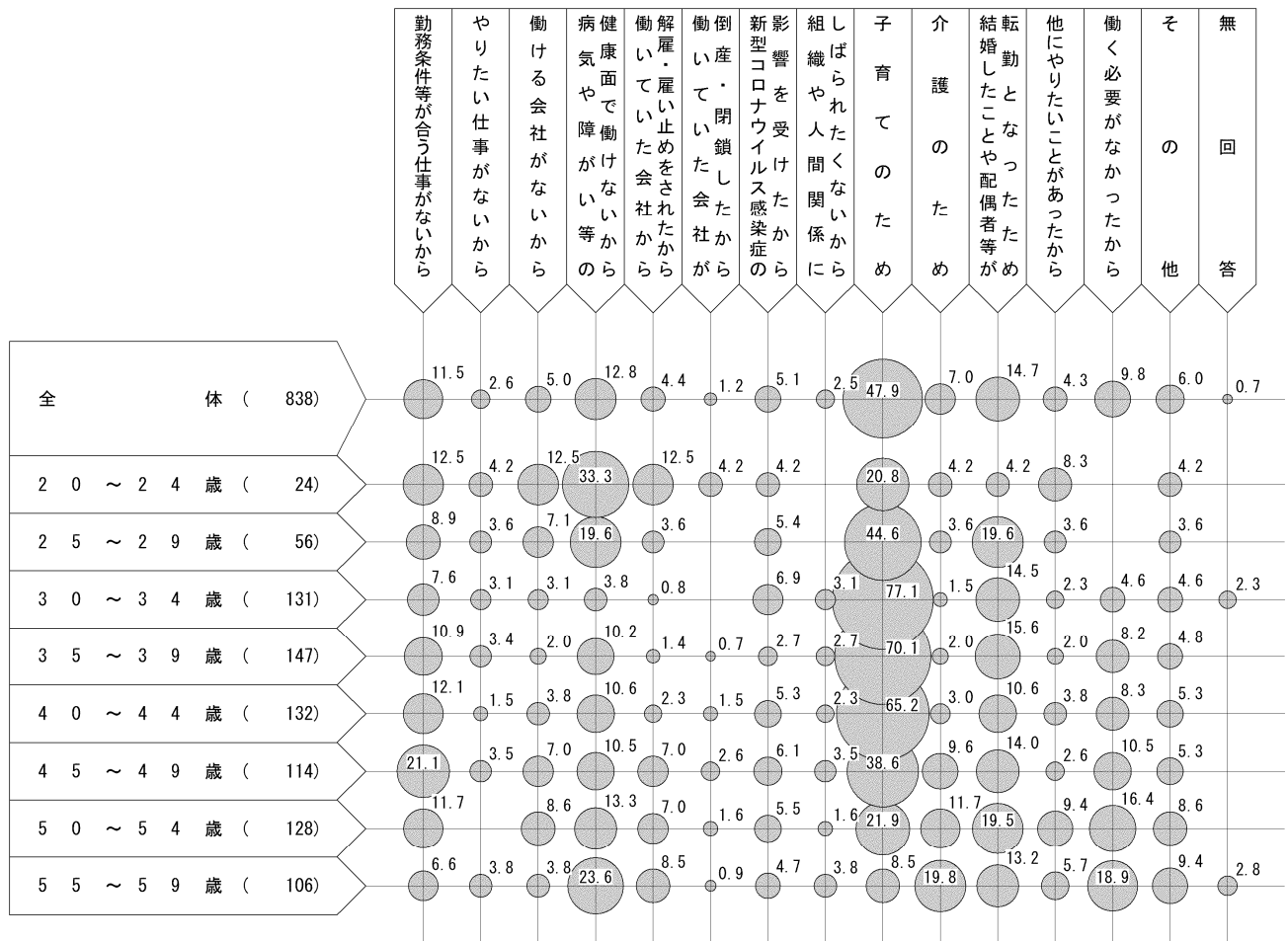
仕事の状態が、「無職・家事専業」と回答した 838 人に対して、無職・家事専業になった理由を尋ねたところ、「子育てのため」47.9%が最も高く、「結婚したことや配偶者（パートナー）が転勤となったため」14.7%、「病気や障がい等の健康面で働けないから」12.8%と続いている。子育てや結婚等の理由が高くなっている。

年齢別にみると、25 歳～54 歳は「子育てのため」、20～24 歳、55 歳以上は「病気や障がい等の健康面で働けないから」が最も高くなっている。20～24 歳は「働ける会社がないから」「働いていた会社から解雇・雇い止めをされたから」「他にやりたいことがあったから」、45～49 歳は「勤務条件等が合う仕事がないから」、45 歳以上では「介護のため」が他の年齢に比べて高くなっている。

図表 「無職・家事専業になった理由」



図表 年齢別「無職・家事専業になった理由」



(9) 新型コロナウイルス感染症拡大による働き方の変化

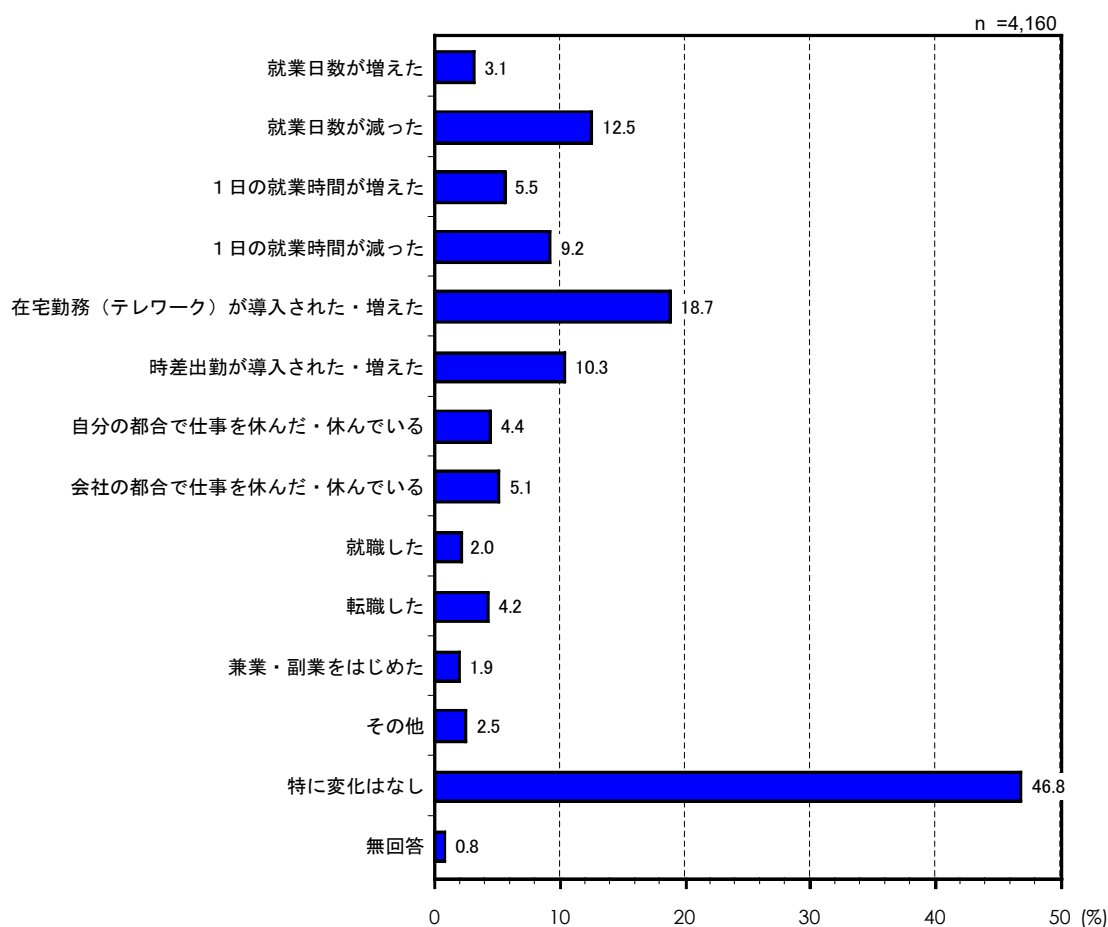
【仕事の状態が「勤め人（正規社員・職員）」「勤め人（非正規社員等）」「会社経営者・自営業主・家族従業員」「フリーランス」の方のみ対象】

Q20. 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、あなたの働き方に変化はありましたか。
(あてはまるもの全て)

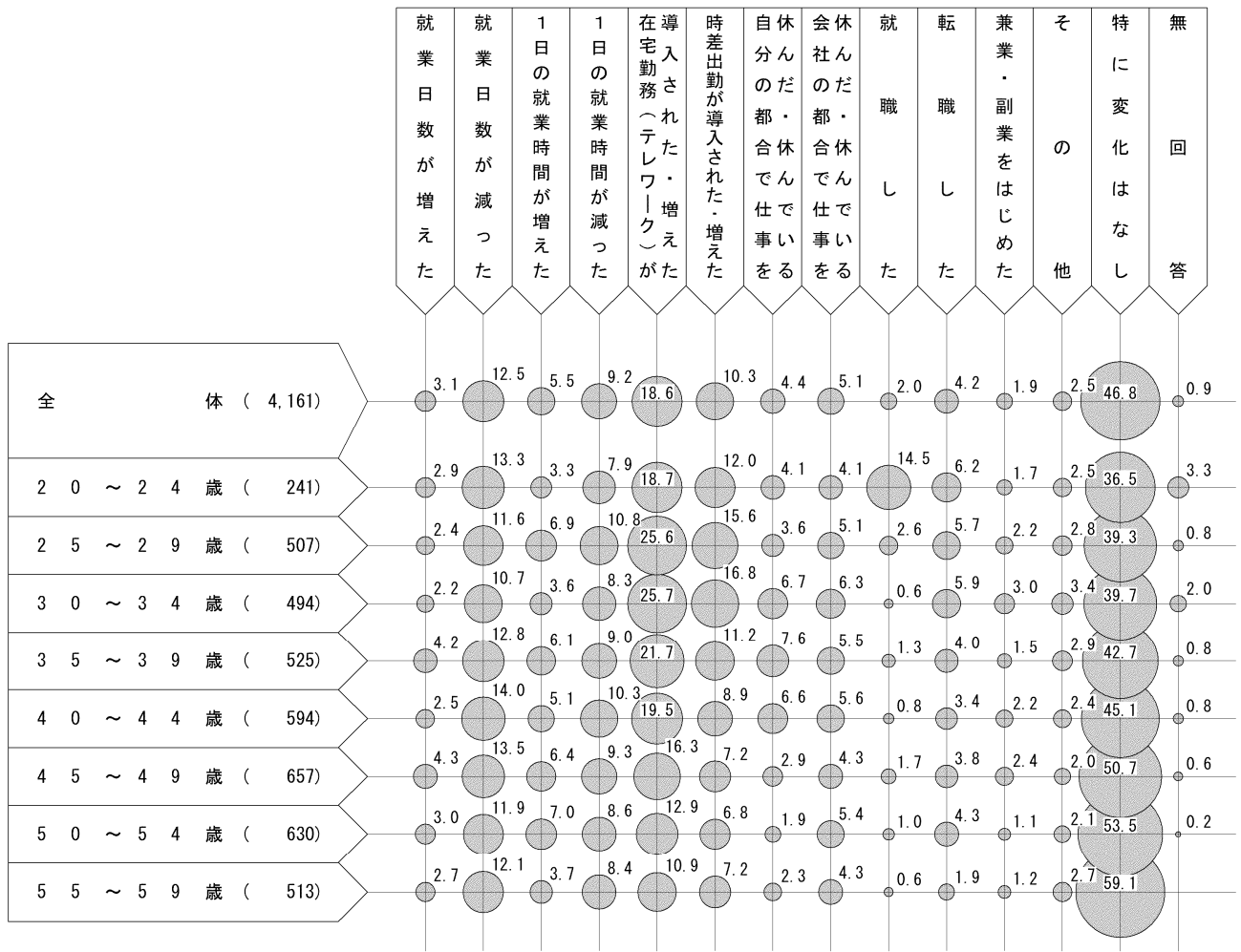
仕事の状態が「勤め人（正規社員・職員）」「勤め人（非正規社員等）」「会社経営者・自営業主・家族従業員」「フリーランス」の4,160人に対して、新型コロナウイルス感染症拡大によって働き方が変化したかどうかを尋ねたところ、「在宅勤務（テレワーク）が導入された・増えた」が18.7%、「就業日数が減った」12.5%、「時差出勤が導入された・増えた」10.3%と様々な働き方の変化がみられる。一方で、「特に変化はなし」が46.8%と最も高く、半数程度は影響がなかったと回答している。

年齢別にみると、「在宅勤務（テレワーク）が導入された・増えた」「時差出勤が導入された・増えた」は25～29歳、30～34歳が他の年齢よりも高くなっている。20～24歳は「就職した」が高くなっている。一方、「特に変化はなし」は年齢が上がるにしたがって高くなっている。

図表 「新型コロナウイルス感染症拡大による働き方の変化」



図表 年齢別「新型コロナウイルス感染症拡大による働き方の変化」



(10) 非正規職を継続している理由

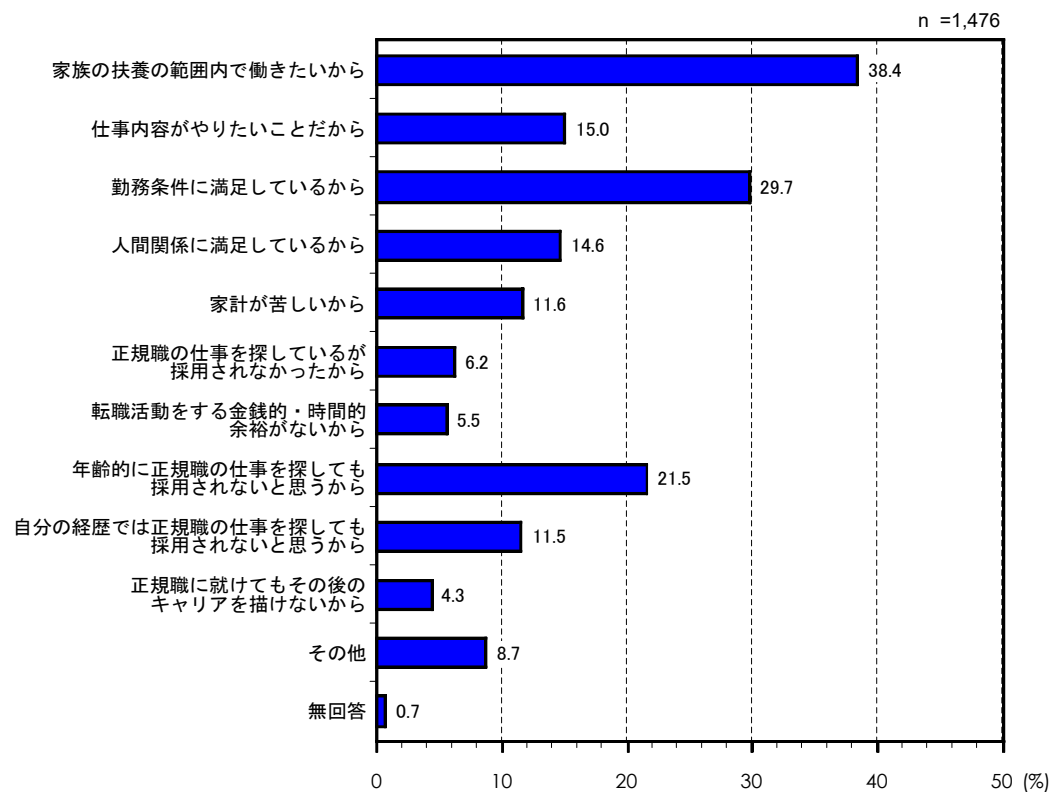
【仕事の状態が「勤め人（非正規社員等）」の方のみ対象】

Q21. あなたが非正規職の仕事を続けている理由をお答えください。（あてはまるもの全て）

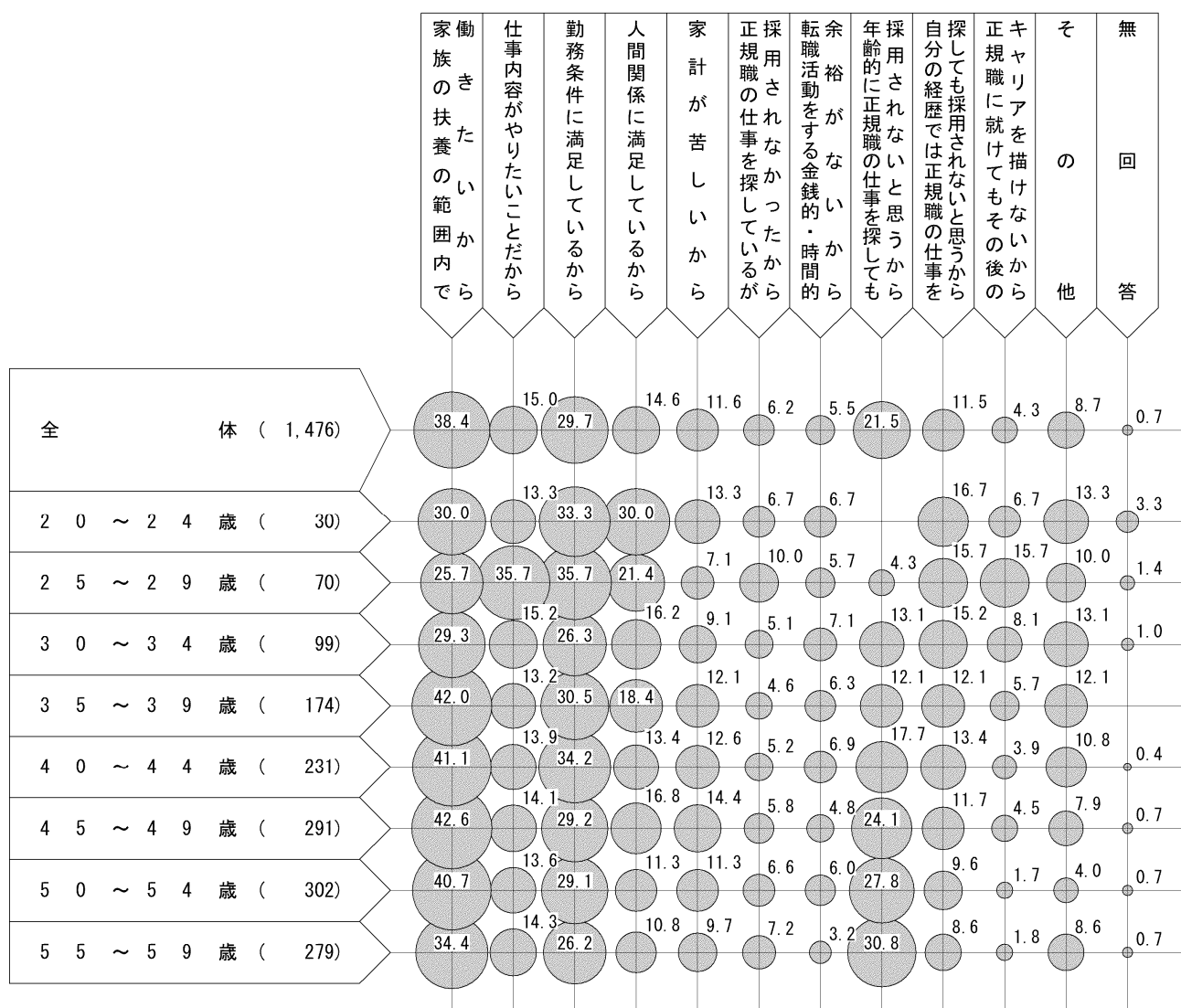
新型コロナウイルス感染症拡大以前から仕事の状態が「勤め人（非正規社員等）」である1,476人に対して、非正規職の仕事を続けている理由を尋ねたところ、「家族の扶養の範囲内で働きたいから」38.4%が最も高く、「勤務条件に満足しているから」29.7%、「年齢的に正規職の仕事を探しても採用されないと思うから」21.5%と続いている。非正規職の仕事を積極的に選んでいる理由の比率が高くなっている。

年齢別にみると、20～24歳は「勤務条件に満足しているから」、25～29歳は「仕事内容がやりたいことだから」「勤務条件に満足しているから」、30歳以上は「家族の扶養の範囲内で働きたいから」が最も高くなっている。25～29歳は「仕事内容がやりたいことだから」「勤務条件に満足しているから」の積極的な意見が他の年齢に比べても高いが、「正規職の仕事を探しているが採用されなかったから」「正規職につけてもその後のキャリアを描けないから」との意見も他の年齢に比べて高くなっている。「自分の経歴では正規職の仕事を探しても採用されないと思うから」は若い人ほど比率が高く、年齢が上がるにしたがって低くなる。「年齢的に正規職の仕事を探しても採用されないと思うから」は年齢が上がるにしたがって高くなっている。若い人ほど正規職への転換はしやすいことが考えられるが、正規職への諦め感は若い人ほど高くなっている。

図表 「非正規職を継続している理由」



図表 年齢別「非正規職を継続している理由」



(11) 仕事に関して困っていること

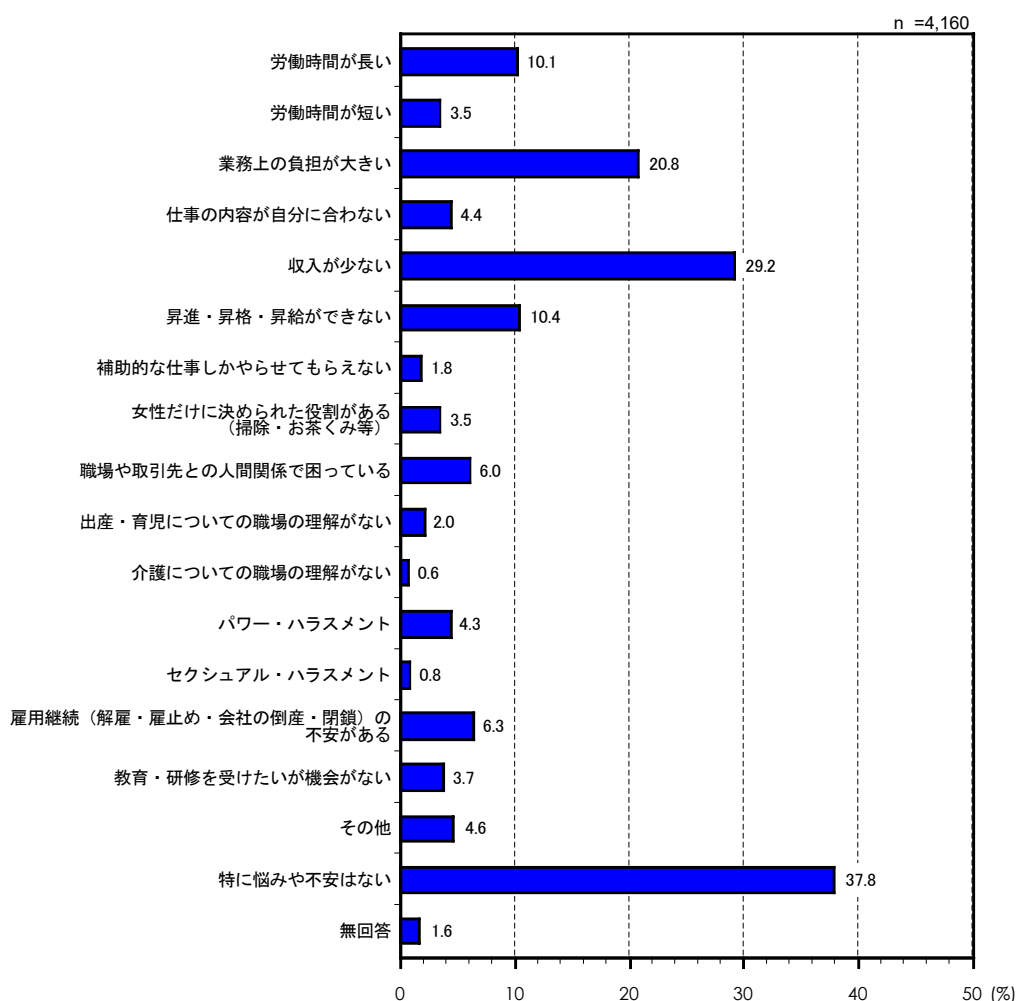
【仕事の状態が「勤め人（正規社員・職員）」「勤め人（非正規社員等）」「会社経営者・自営業主・家族従業員」「フリーランス」の方のみ対象】

Q22. あなたは、現在、仕事に関して困っていることはありますか。（あてはまるもの全て）

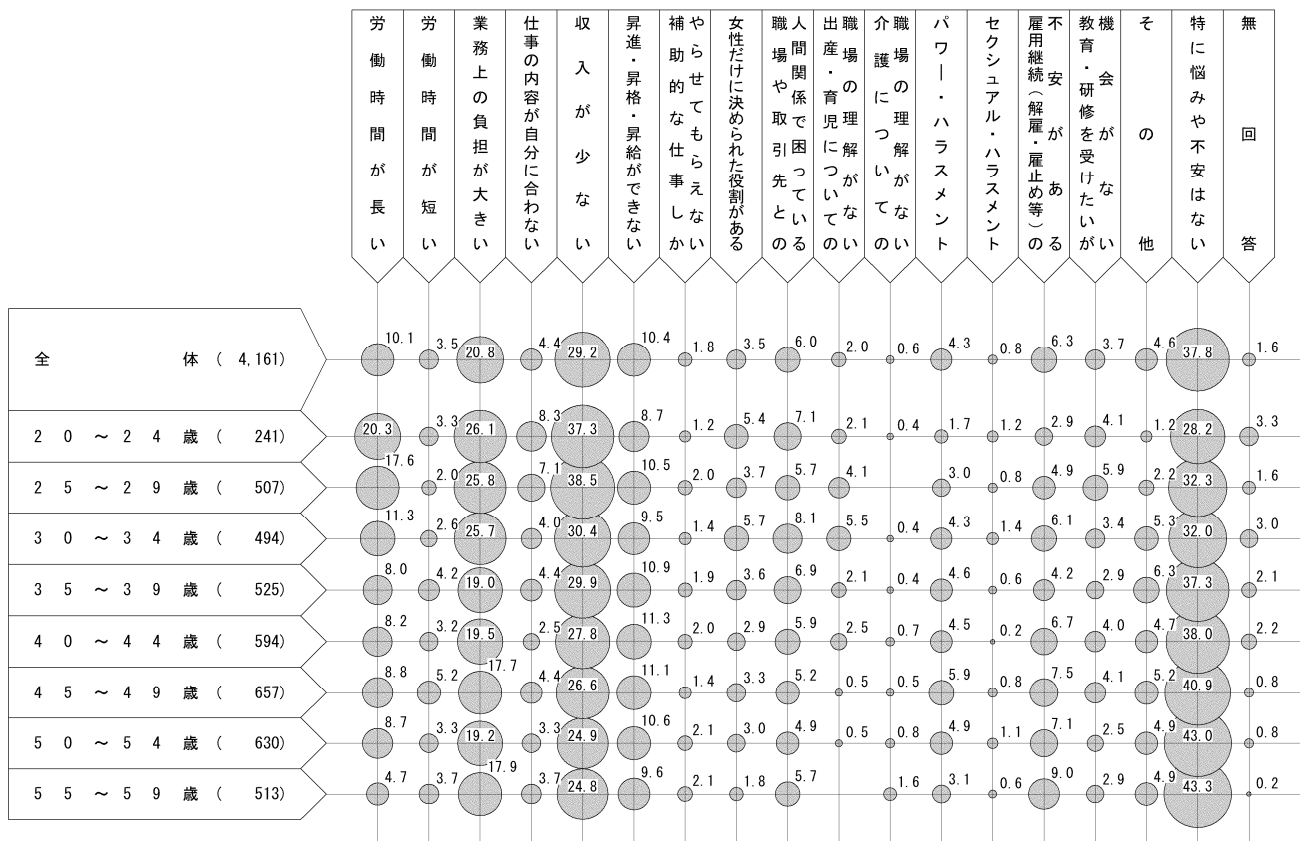
仕事の状態が「勤め人（正規社員・職員）」「勤め人（非正規社員等）」「会社経営者・自営業主・家族従業員」「フリーランス」の4,160人に仕事に関して困っていることを尋ねたところ、「収入が少ない」29.2%、「業務上の負担が大きい」20.8%、「昇進・昇格・昇給できない」10.4%と続いている。一方で「特に悩みや不安はない」が37.8%と最も高い。

年齢別にみると、どの年代も「収入が少ない」が高くなっているが、特に20歳代は他の年齢に比べても高い。20歳代は「労働時間が長い」「業務上の負担が大きい」も他の年齢に比べて高い。「業務上の負担が大きい」は30～34歳も他の年齢に比べて高い。「特に悩みや不安はない」は、年齢が上がるにしたがって高くなる。

図表 「仕事に関して困っていること」



図表 年齢別「仕事に関して困っていること」



3. 新型コロナウイルス感染症拡大による生活や健康への影響

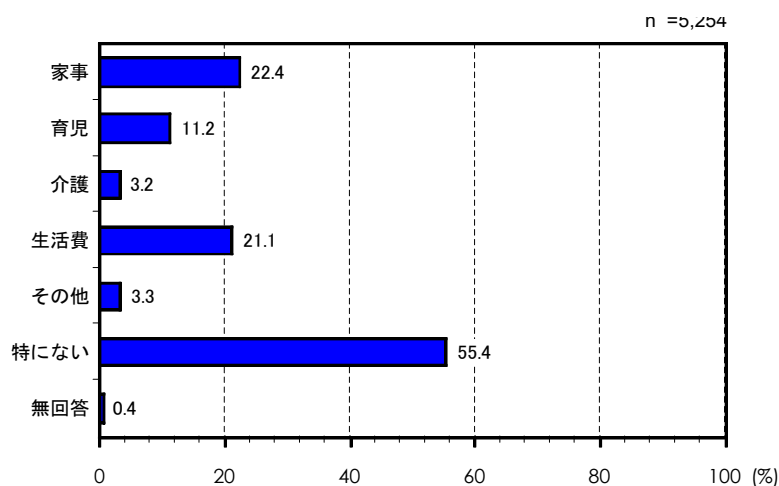
(1) 新型コロナウイルス感染症拡大で負担が増えたもの

Q24. 新型コロナウイルス感染拡大前に比べて、現在のあなたの負担が増えたものがありますか。(あてはまるもの全て)

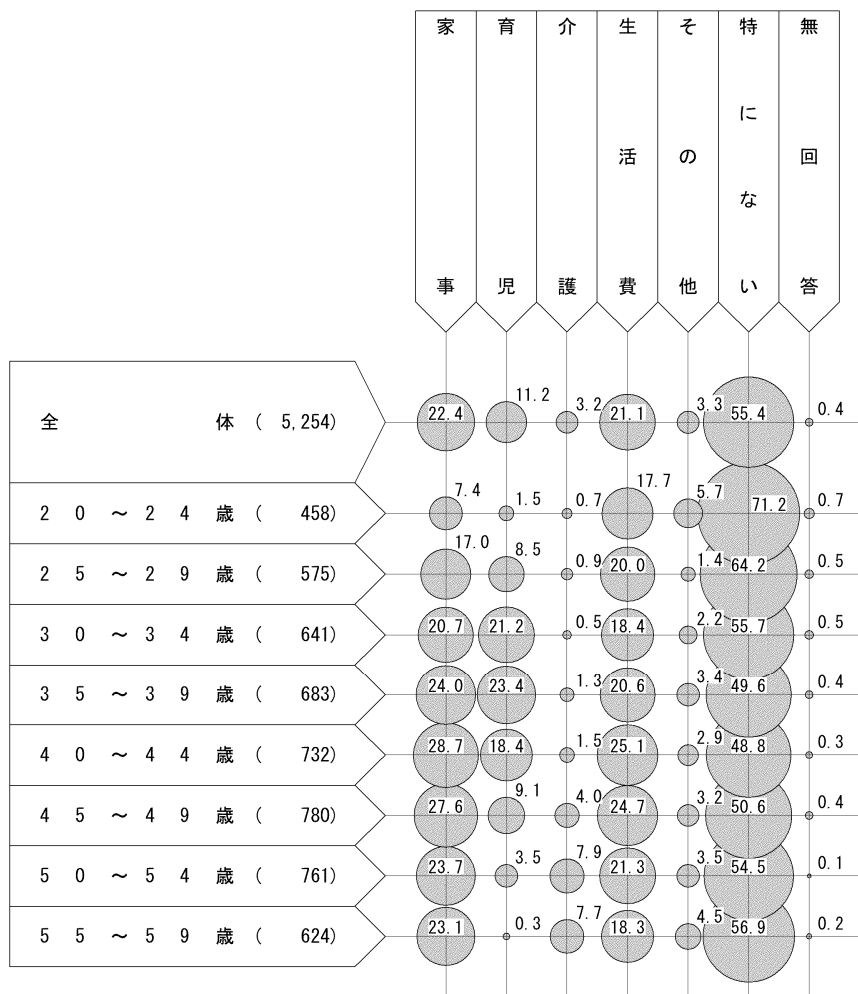
新型コロナウイルス感染拡大前に比べて負担が増えたものを尋ねたところ、「家事」22.4%、「生活費」21.1%、「育児」11.2%と続いている。一方「特にない」が55.4%と最も高い。

年齢別にみると、30歳代は「育児」、40歳代は「家事」「生活費」が他の年齢に比べて高い。また、「特にない」は20歳代が他の年齢に比べて高くなっている。

図表 「新型コロナウイルス感染症拡大で負担が増えたもの」



図表 年齢別「新型コロナウイルス感染症拡大で負担が増えたもの」



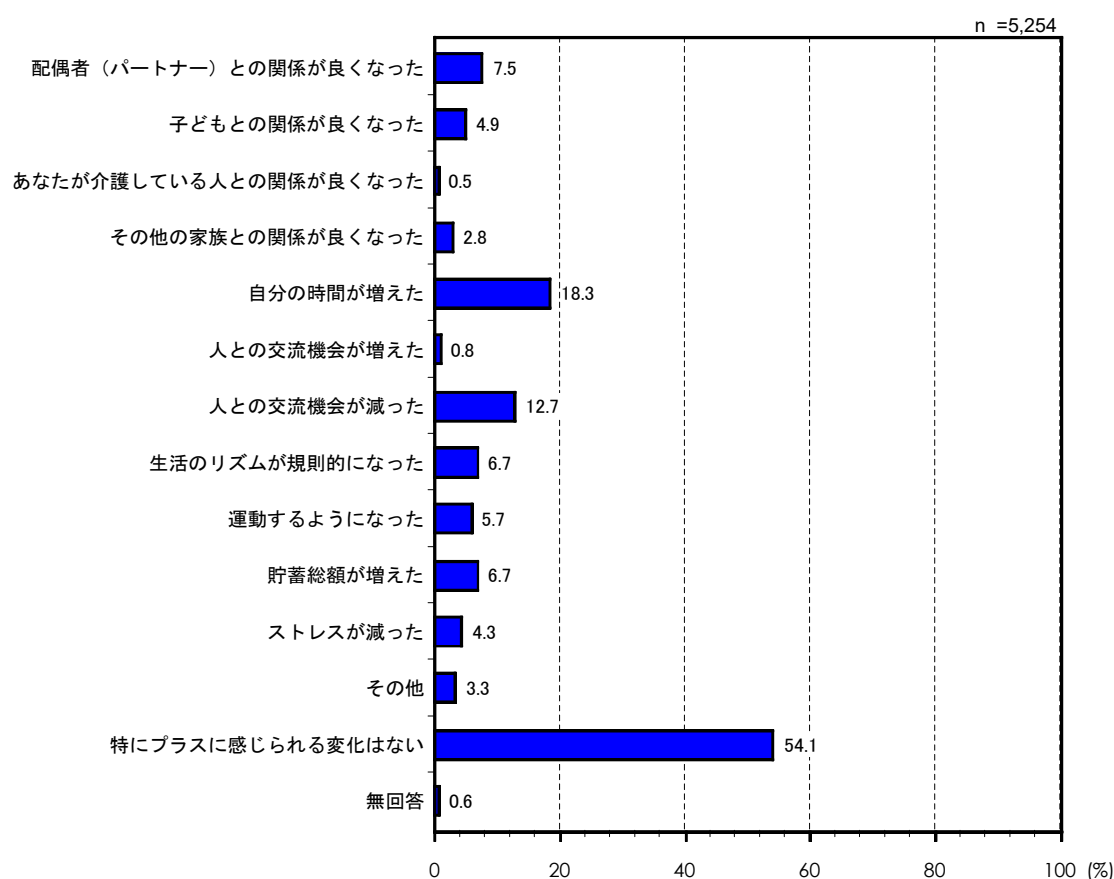
(2) 新型コロナウイルス感染症拡大によるプラスの変化

Q25. 新型コロナウイルス感染拡大後の生活の変化のうち、プラスに感じられることをお答えください。(あてはまるもの全て)

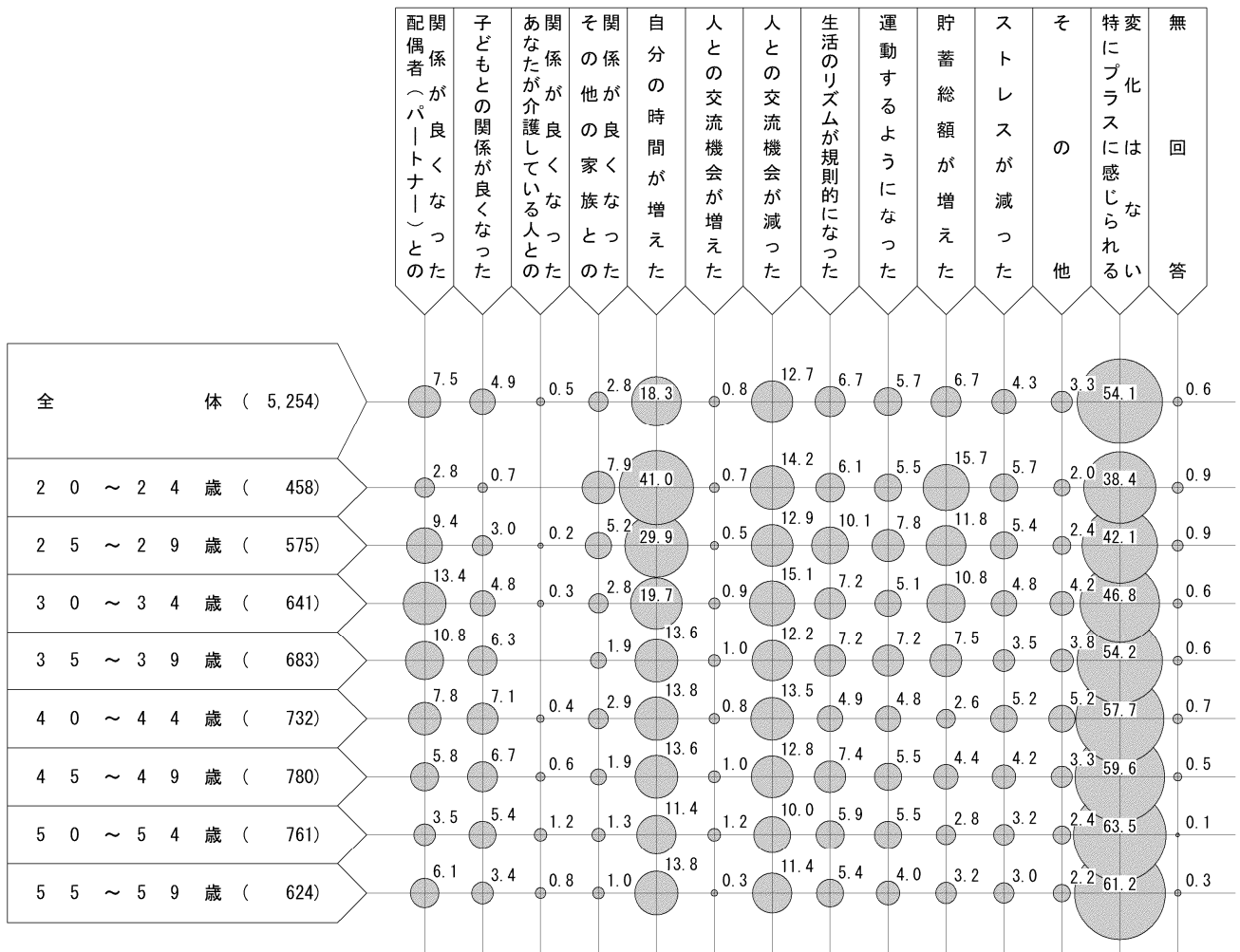
新型コロナウイルス感染拡大後の生活の変化のうち、プラスに感じられることについて尋ねたところ、「特にプラスに感じられることはない」が54.1%と半数を超えて最も高くなっている。プラスに感じられる項目は、「自分の時間が増えた」18.3%、「人との交流の機会が減った」12.7%が高くなっている。

年齢別にみると、25歳以上では「特にプラスに感じられることはない」が最も高く、年齢が上がるにしたがって高くなる傾向がある。20～24歳は「自分の時間が増えた」が最も高くなっている。20歳代では「自分の時間が増えた」「貯蓄総額が増えた」「その他の家族との関係が良くなった」が他の年齢に比べて高くなっている。30歳代は「配偶者（パートナー）との関係が良くなった」が他の年齢に比べて高くなっている。

図表 「新型コロナウイルス感染症拡大によるプラスの変化」



図表 年齢別「新型コロナウイルス感染症拡大によるプラスの変化」



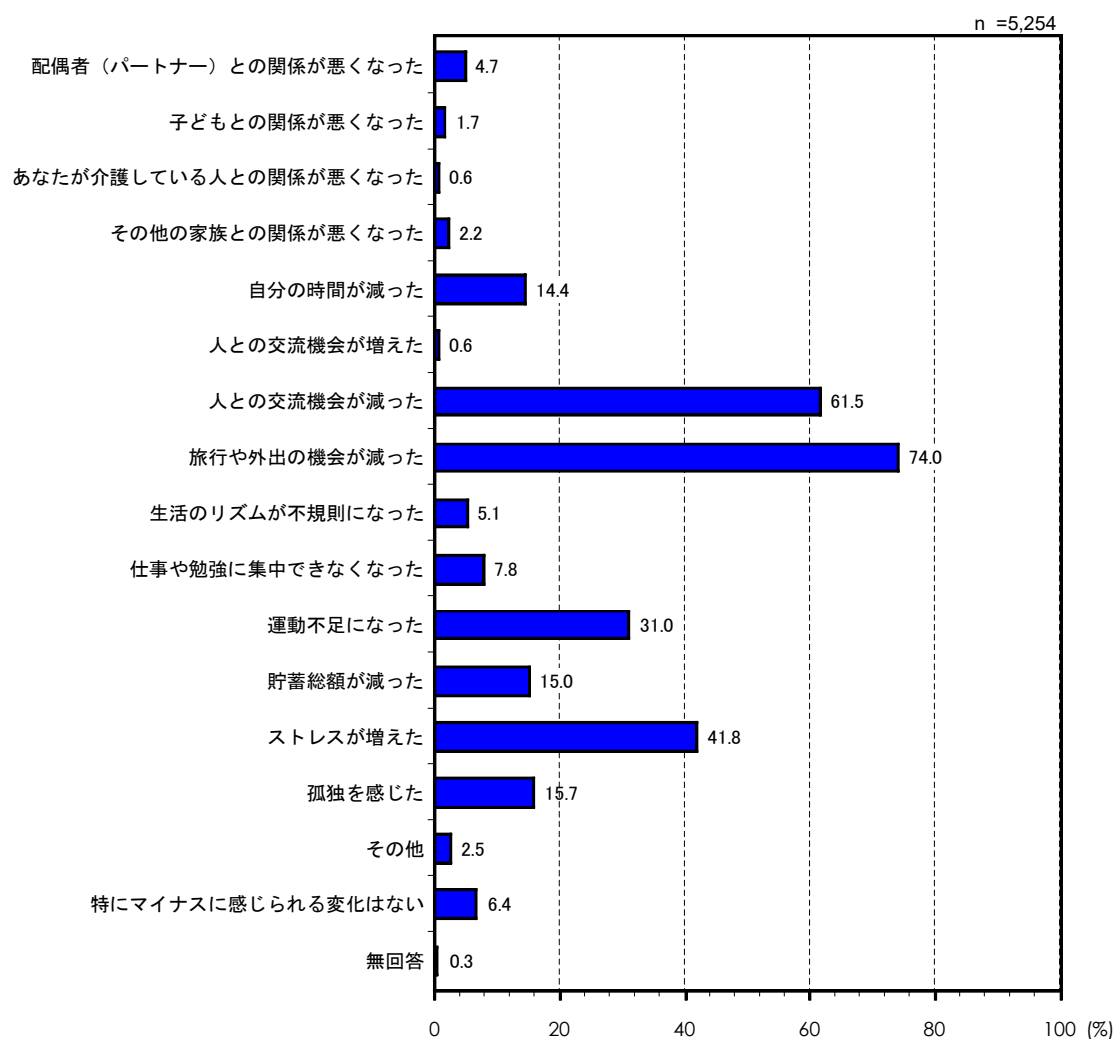
(3) 新型コロナウイルス感染症拡大によるマイナスの変化

Q26. 新型コロナウイルス感染拡大後の生活の変化のうち、マイナスに感じられることをお答えください。(あてはまるもの全て)

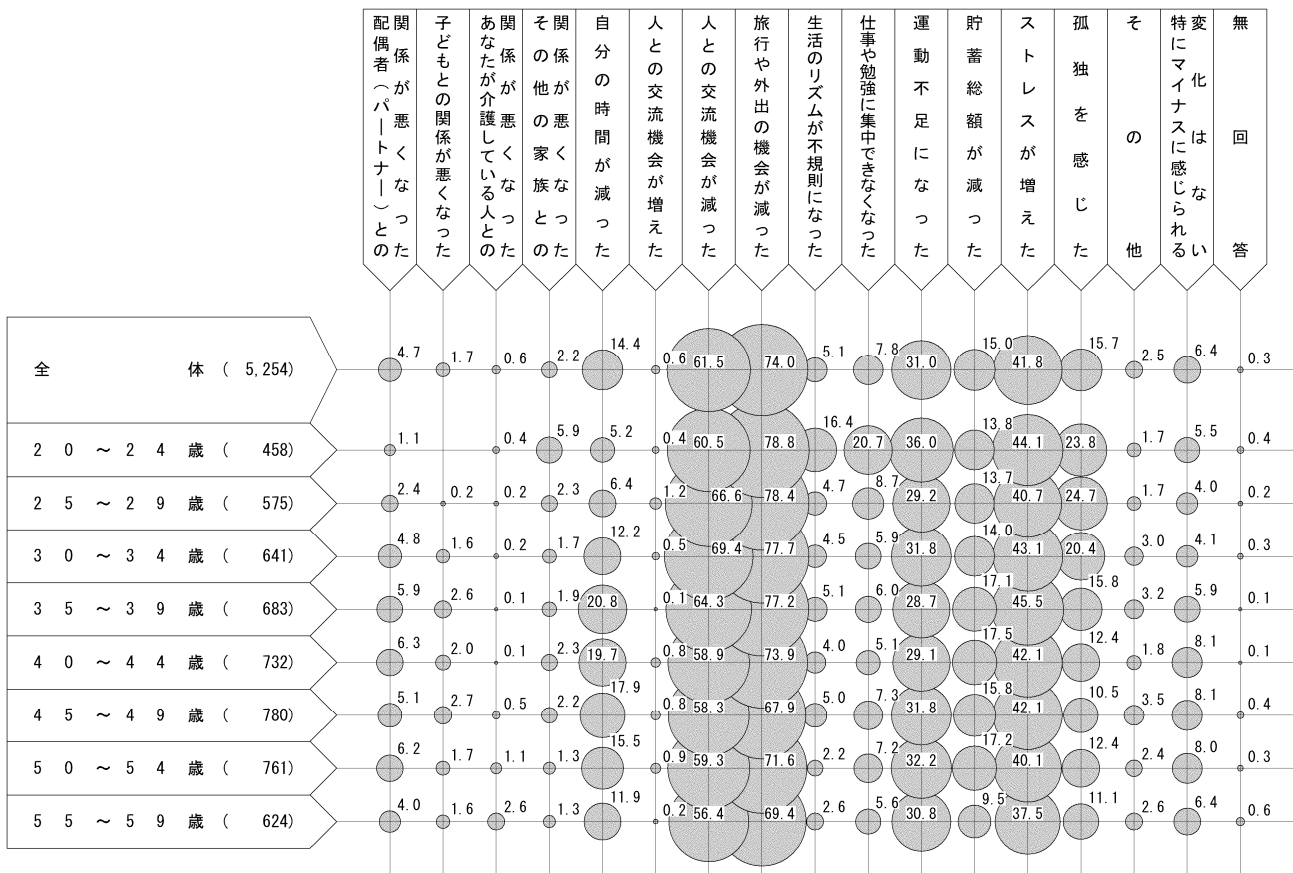
新型コロナウイルス感染拡大後の生活の変化のうち、マイナスに感じられることを尋ねたところ、「旅行や外出の機会が減った」74.0%が最も高く、「人との交流の機会が減った」61.5%、「ストレスが増えた」41.8%、「運動不足になった」31.0%と続いている。「特にマイナスに感じられる変化はない」は6.4%であり、多くの人がマイナスの変化を感じている。

年齢別にみると、各年齢とも「旅行や外出の機会が減った」「人との交流の機会が減った」が高くなっているが、年齢が上がるにつれて低くなる傾向がある。20～24歳は「生活のリズムが不規則になった」「仕事や勉強に集中できなくなった」、20歳代は「孤独を感じた」、30～44歳では「自分の時間が減った」が他の年齢に比べて高くなっている

図表 「新型コロナウイルス感染症拡大によるマイナスの変化」



図表 年齢別「新型コロナウイルス感染症拡大によるマイナスの変化」



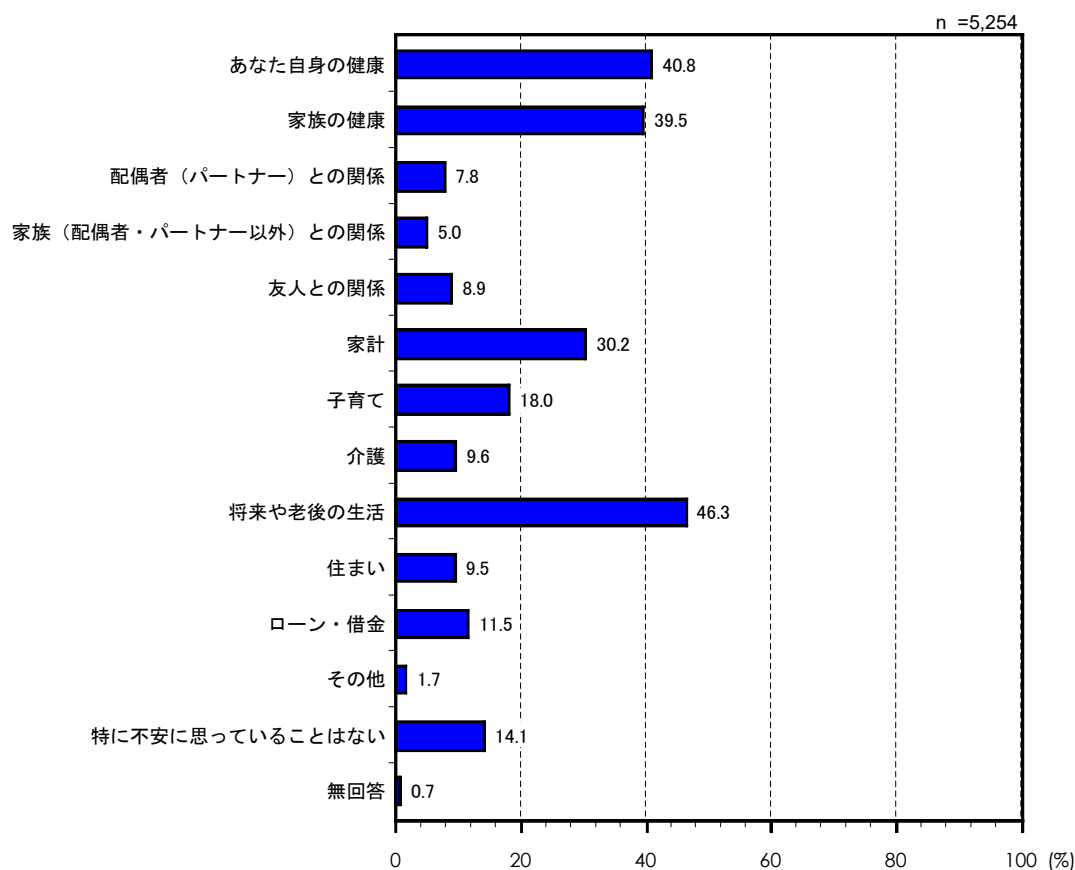
(4) 生活での不安

Q27. あなたが、現在の生活において不安に思っていることをお答えください。
(あてはまるもの全て)

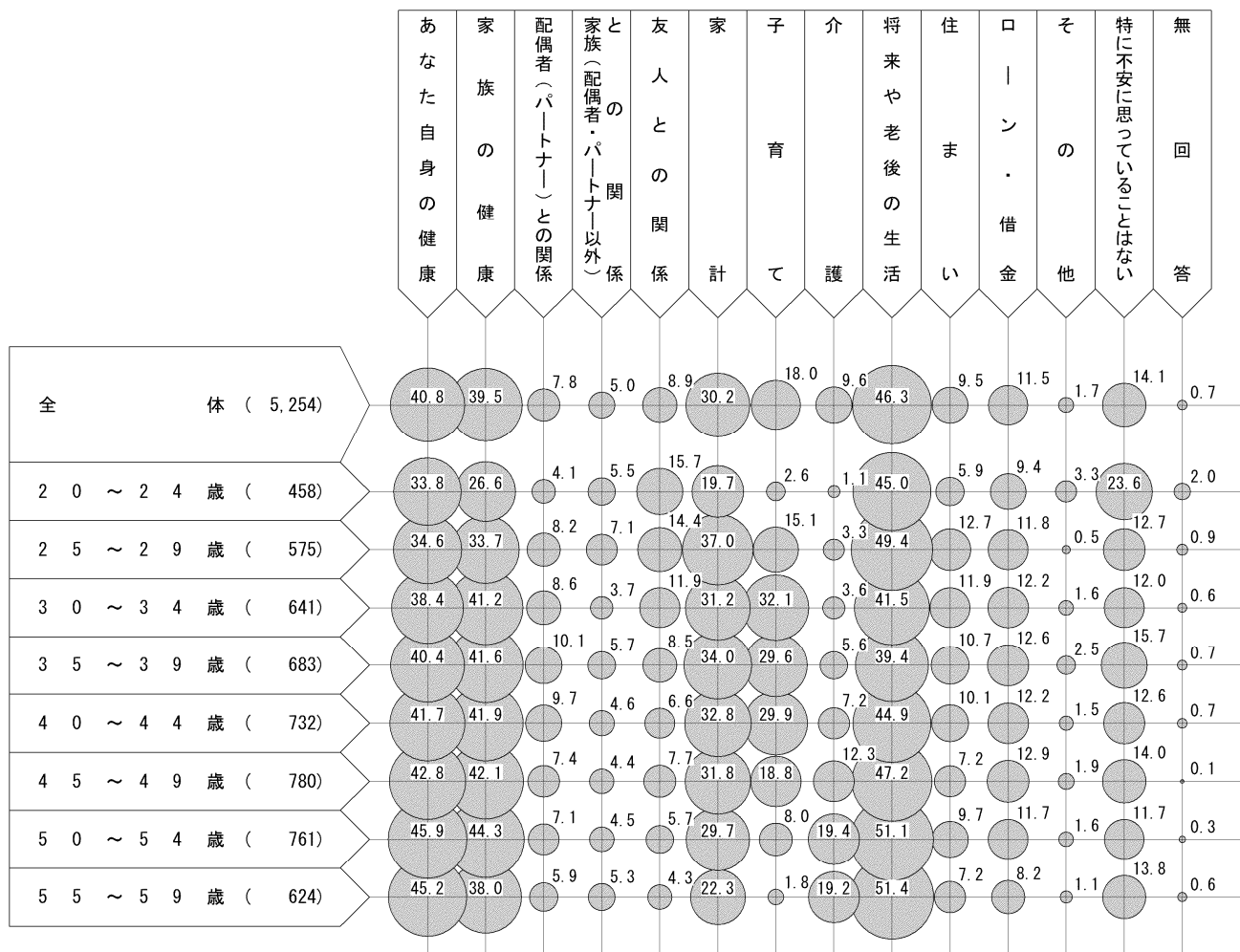
現在の生活において不安に思っていることを尋ねたところ、「将来や老後の生活」46.3%が最も高く、「回答者自身の健康」40.8%、「家族の健康」39.5%、「家計」30.2%と続いている。一方、「特に不安に思っていることはない」は14.1%である。

年齢別にみると、20歳代、40歳代、50歳代は「将来や老後の生活」、30歳代は「家族の健康」が最も高くなっている。20～24歳は「特に不安に思っていることはない」が、25～29歳は「家計」「将来や老後の生活」が高くなっている。「子育て」は30歳代、40～44歳、「介護」は45歳以上で高くなっている。

図表 「生活での不安」



図表 年齢別「生活での不安」



4. 今後の生活について

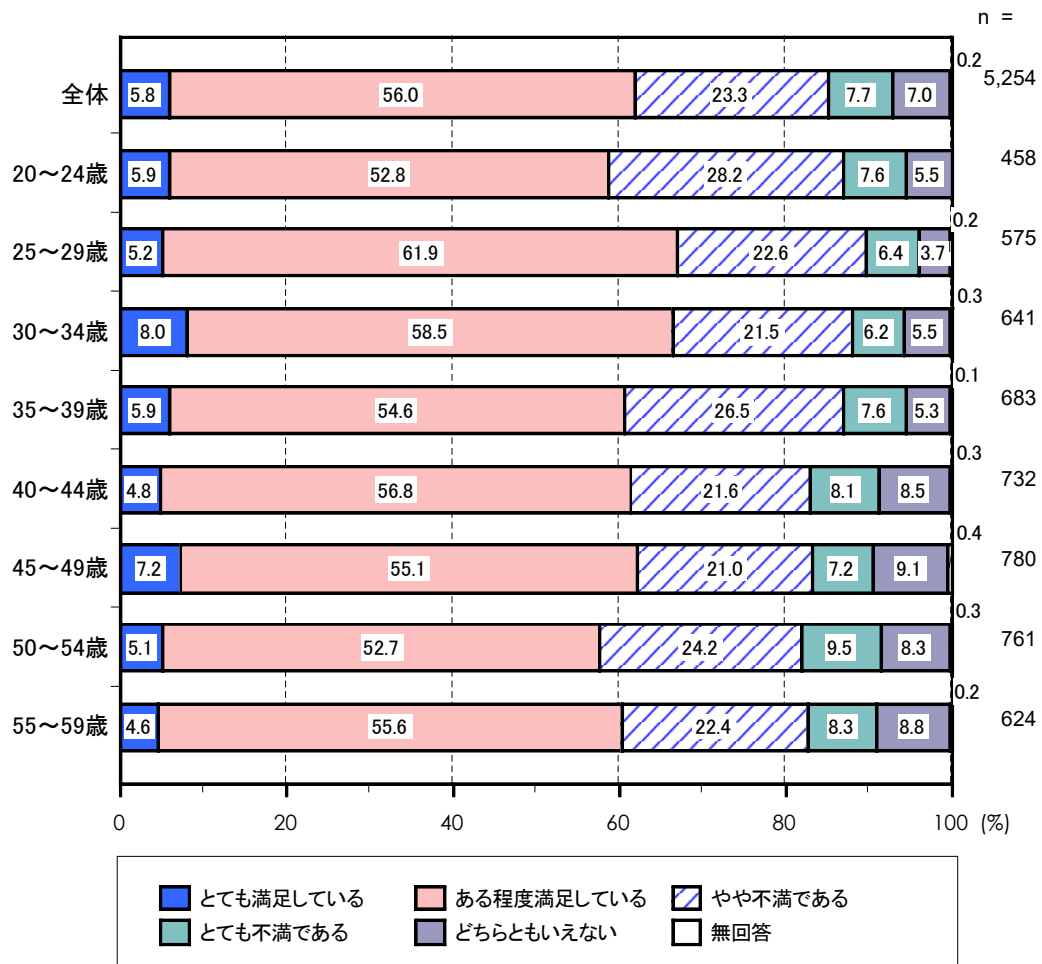
(1) 生活の満足度

Q29. あなたは、現在の生活に満足していますか。(1つ)

現在の生活に満足しているかどうかを尋ねたところ、「とても満足している」5.8%、「ある程度満足している」56.0%であり、合わせると61.8%が“満足している”と回答している。一方、「やや不満である」23.3%、「とても不満である」7.7%であり、合わせると31.0%が“不満である”と回答している。

年齢別にみると、25～29歳、30～34歳は“満足している”が他の年齢に比べてやや高い。

図表 年齢別「生活の満足度」



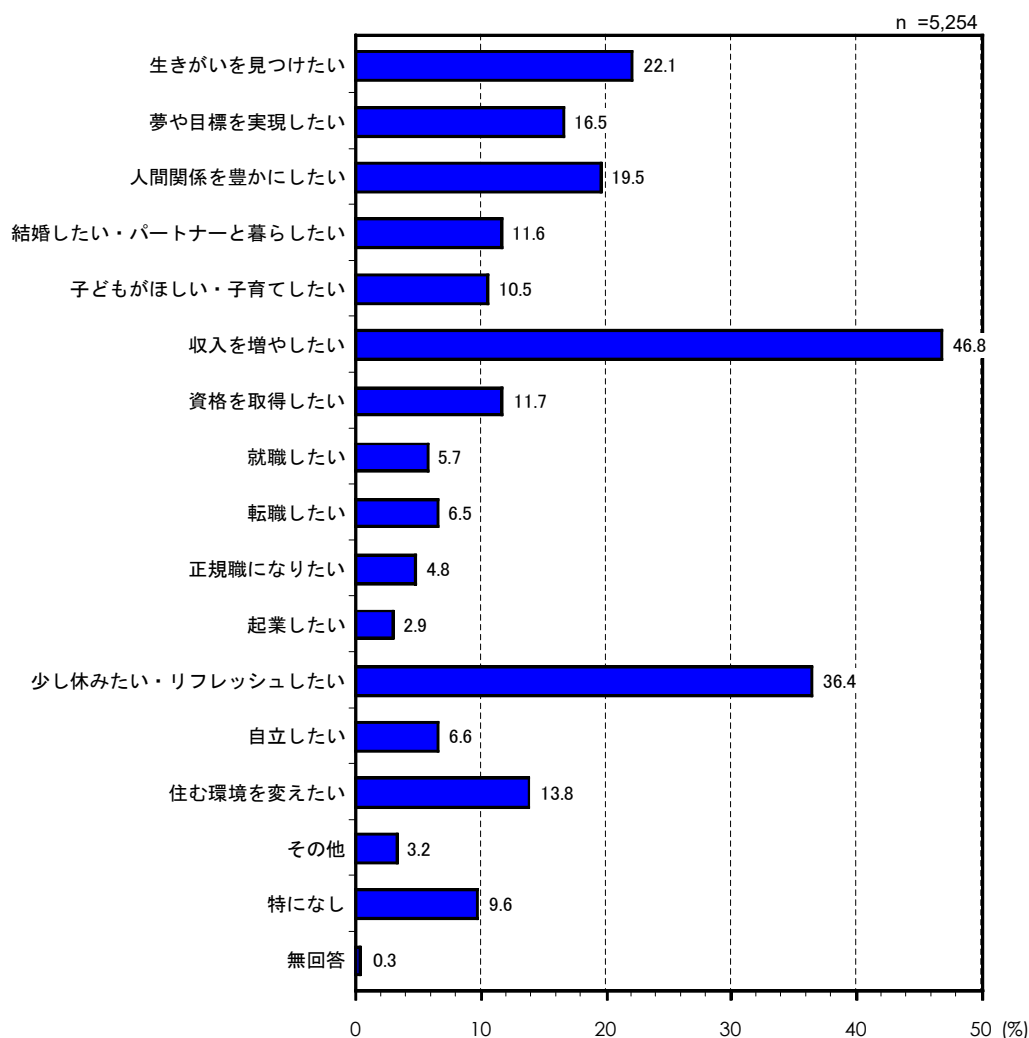
(2) 今後の希望・目標

Q30. あなたが今、望んでいることをお答えください。(あてはまるもの全て)

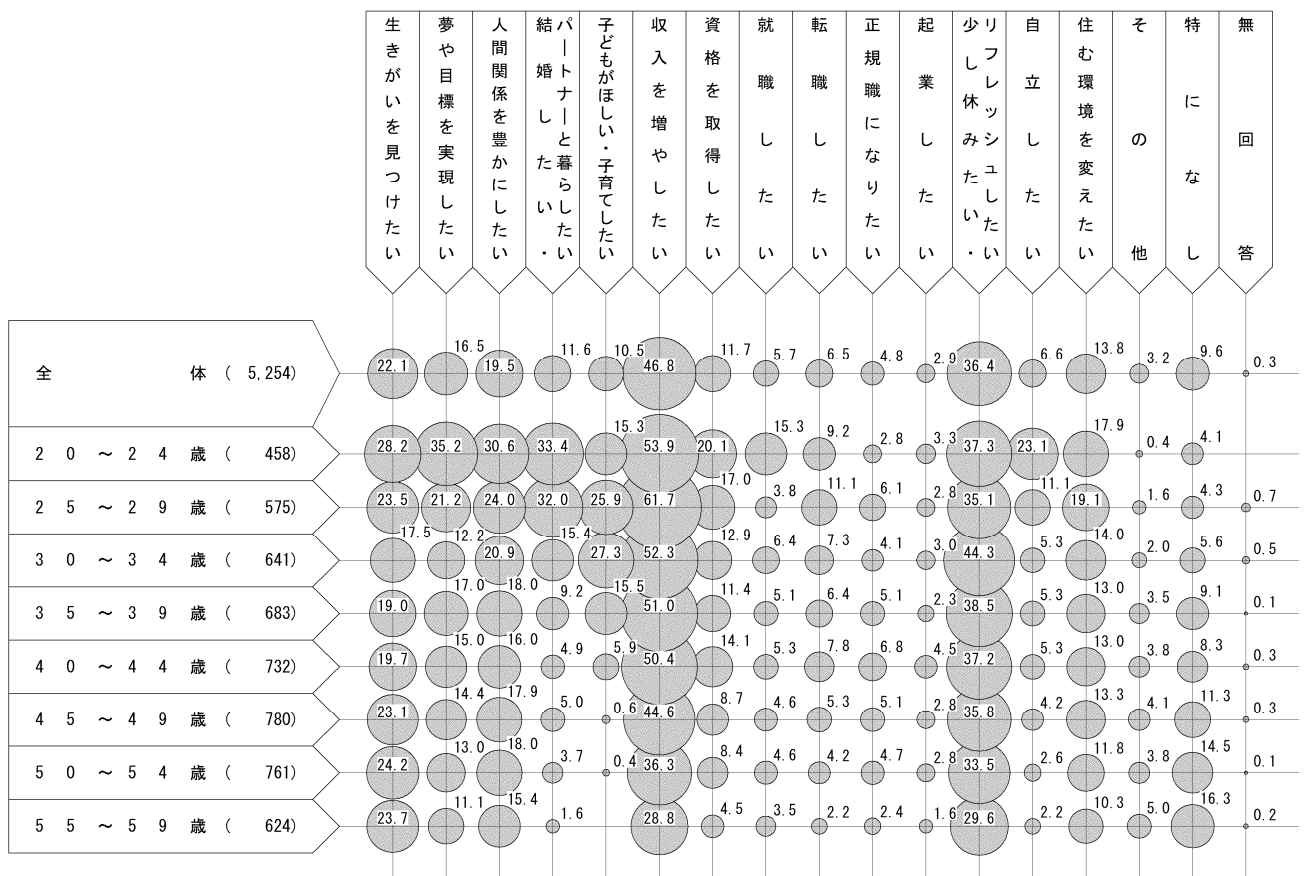
回答者が今、望んでいることを尋ねたところ、「収入を増やしたい」が46.8%と最も高く、「少し休みたい・リフレッシュしたい」36.4%が続いている。

年齢別にみると、20～54歳までは「収入を増やしたい」、55歳以上は「少し休みたい・リフレッシュしたい」が最も高くなっている。20～24歳は「生きがいを見つけたい」「夢や目標を実現したい」「人間関係を豊かにしたい」「資格を取得したい」「就職したい」「自立したい」、20歳代は「結婚したい・パートナーと暮らしたい」「住む環境を変えたい」、25～34歳は「子どもがほしい・子育てをしたい」が他の年齢に比べて特に高くなっている。「特になし」は年齢が上がるにしたがって高くなっている。

図表 「今後の希望・目標」



図表 年齢別「今後の希望・目標」



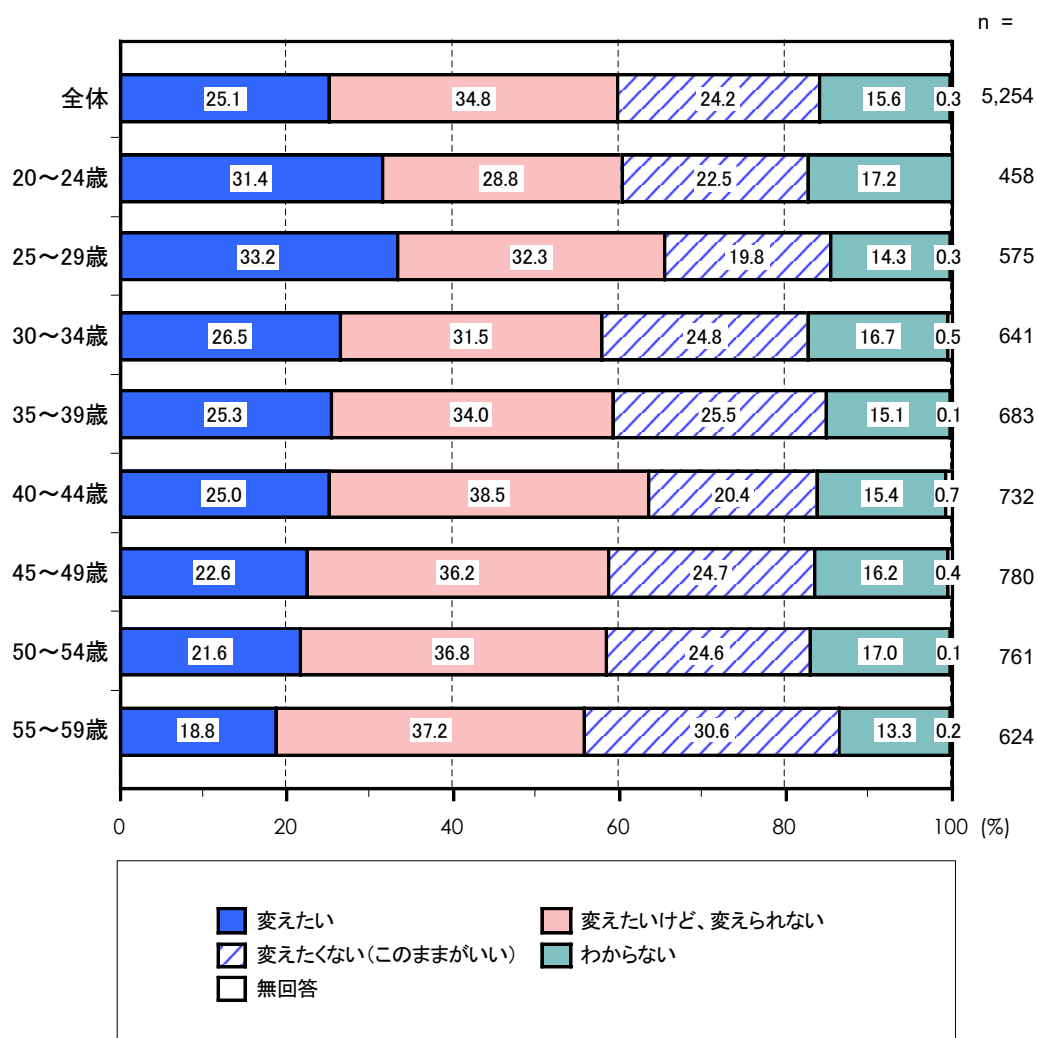
(3) 生活の変化意向

Q31. あなたは、仕事も含め、現在のご自身の生活状況を変えたいと思いますか。(1つ)

回答者が現在の生活状況を変えたいと思っているかどうかを尋ねたところ、「変えたいが、変えられない」34.8%と最も高く、「変えたい」25.1%、「変えたくない(このままがいい)」24.2%と続いている。「変えたい」「変えたいが変えられない」を合わせた“変えたい”という意識を持っている人が60%を占めている。

年齢別にみると、20歳代は「変えたい」が他の年代に比べて高く、「変えたい」は年齢が上がるにしたがって低くなる傾向がある。一方、「変えたくない(このままがいい)」は55歳以上で高くなっている。

図表 年齢別「生活の変化意向」



5. 女性に対する支援

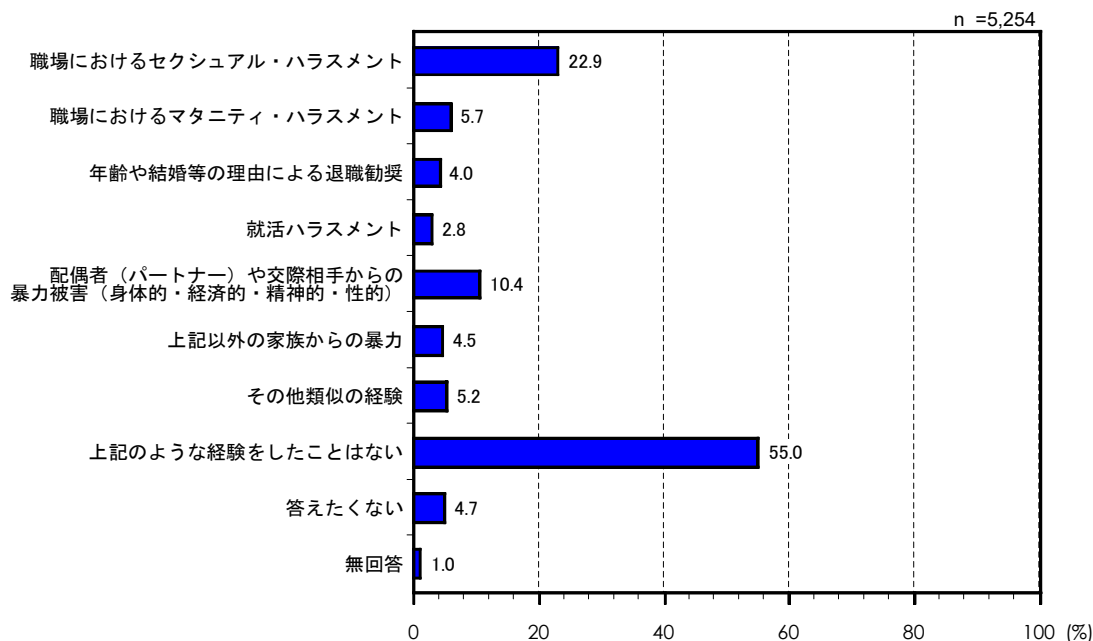
(1) 女性であるがゆえの暴力被害経験

Q32. あなたはこれまでに、次のような経験をしたことがありますか。(あてはまるもの全て)

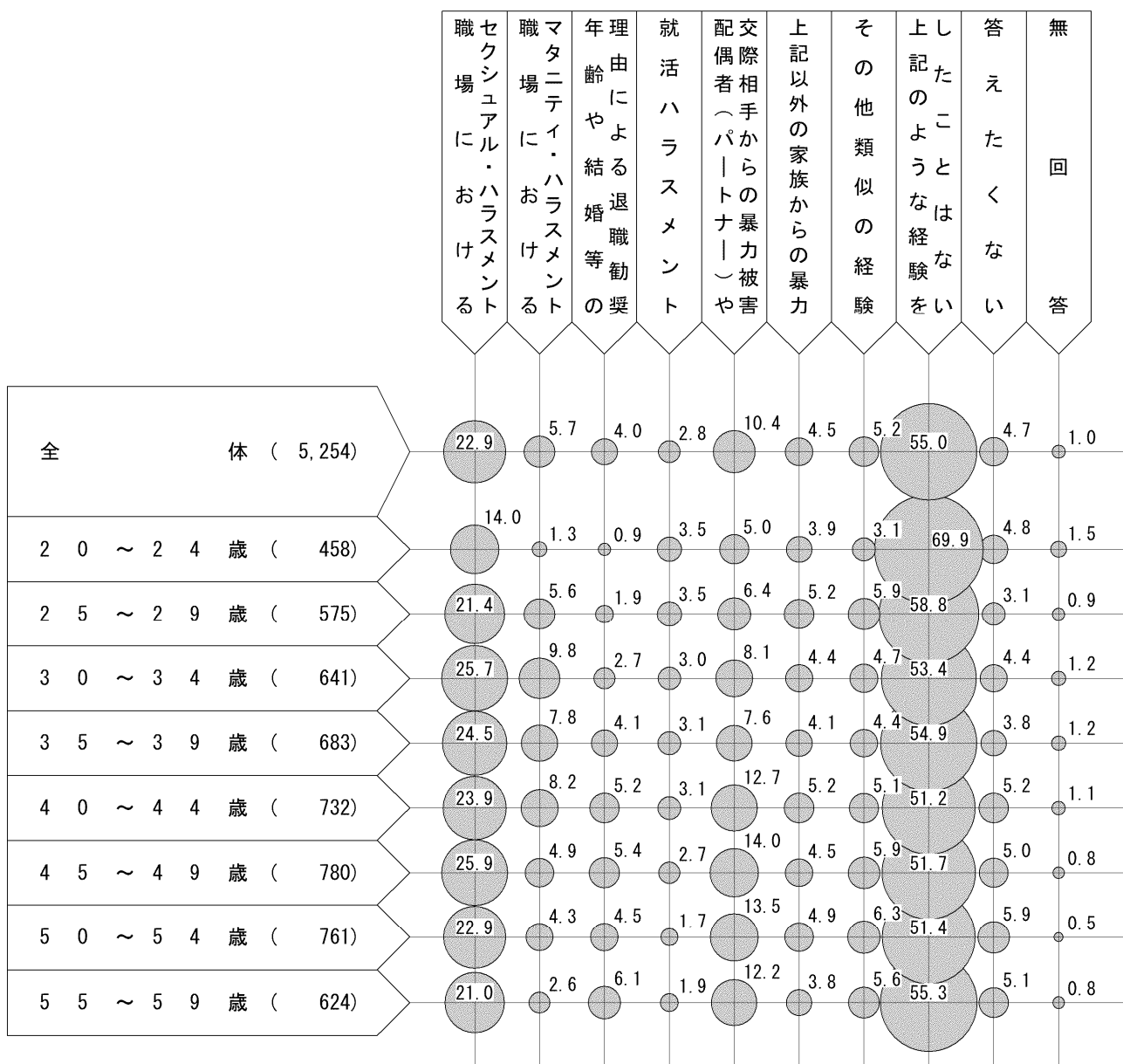
これまでに、女性であるがゆえの暴力被害の経験について尋ねたところ、「そのような経験をしたことはない」が55.0%であり、全体から「そのような経験をしたことはない」「答えたくない」「無回答」を除いた39.3%の人が何らかの暴力被害の経験があることがわかる。その内容をみると、「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」が22.9%と最も高く、「配偶者（パートナー）や交際相手からの暴力被害」10.4%が続いている。

年齢別にみると、20～24歳は「そのような経験をしたことはない」が70%と高くなっている。「職場におけるマタニティ・ハラスメント」が30～44歳、「配偶者（パートナー）や交際相手からの暴力被害」は40歳以上でやや高くなっている。そのほかの項目は年齢による差は大きくない。

図表 「女性であるがゆえの暴力被害経験」



図表 年齢別「女性であるがゆえの暴力被害経験」



(2) 新型コロナウイルス感染症拡大後の生理用品の入手に苦労した経験

Q33. あなたは、新型コロナウイルス感染症拡大（2020 年 1 月）以降で、生理用品の入手に苦労したことはありますか。（あてはまるもの全て）

新型コロナウイルス感染症拡大（2020 年 1 月）以降で、生理用品の入手に苦労したことはあるかどうかを尋ねたところ、「入手できず苦労したことはない」86.8%が最も高くなっている。

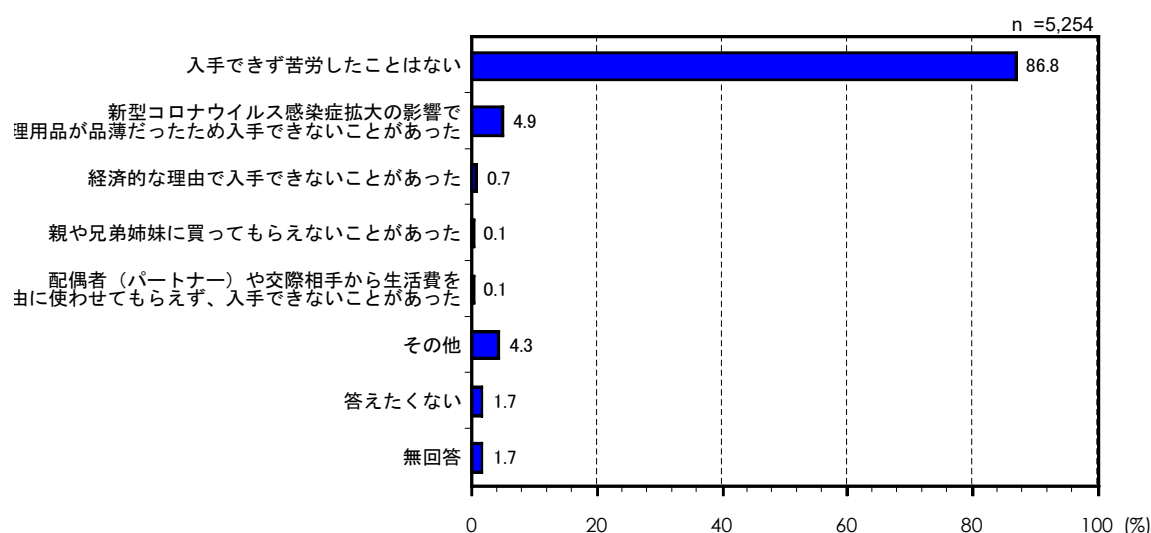
「その他」で記述がある場合は、『病気や閉経等のため必要ない』『買い置きがあり問題がなかった』『購入できないことはないが、負担感がある』といった内容であった。

このため、「入手できず苦労したことはない」「答えたくない」「無回答」と「その他」を除いた 5.5%が、生理用品の入手に苦労した経験があると回答している。

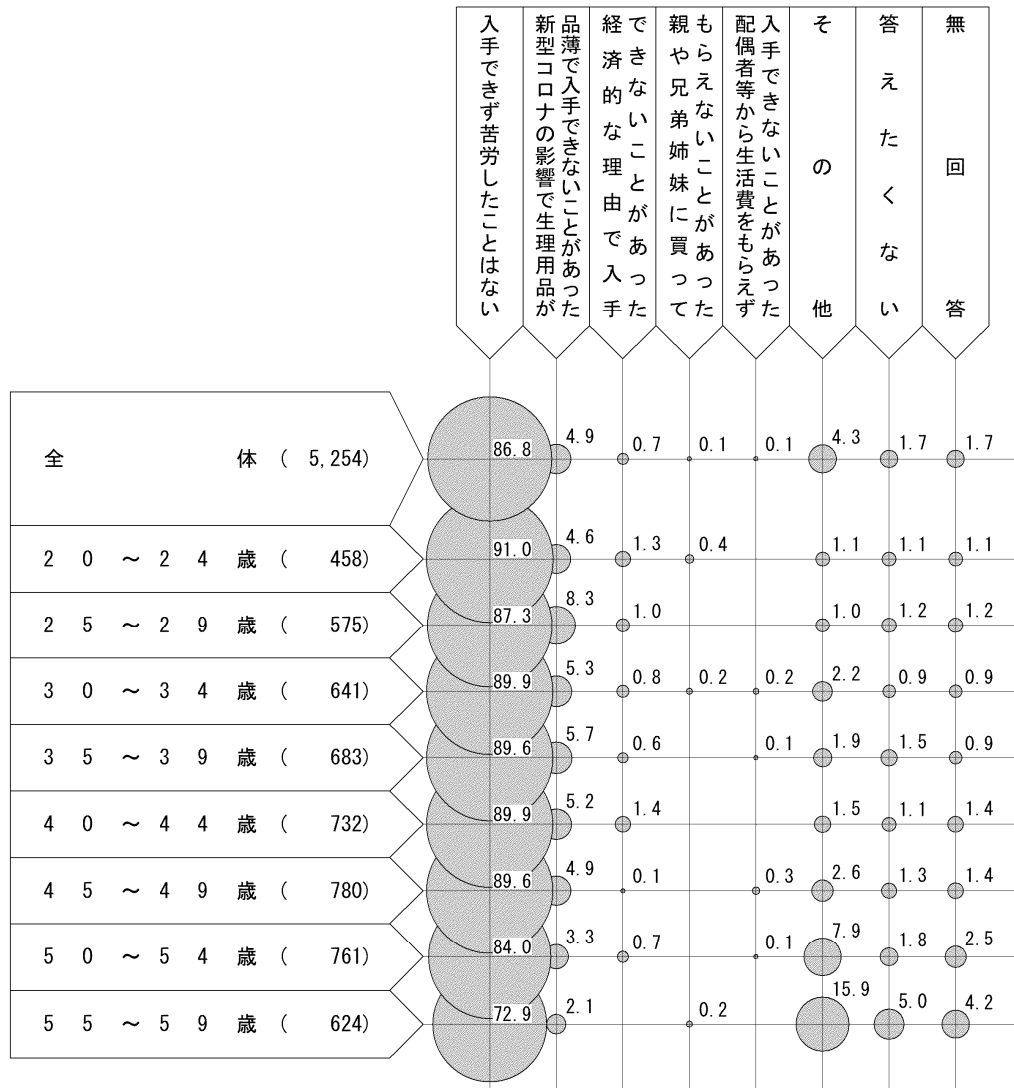
その内容は、「新型コロナウイルス感染症拡大の影響で生理用品が品薄だったため入手できないことがあった」4.9%が最も高く、「経済的な理由で入手できないことがあった」0.7%、「親や兄弟姉妹に買ってもらえないことがあった」0.1%、「配偶者（パートナー）や交際相手から生活費を自由にに使わせてもらえず入手できないことがあった」0.1%とわずかではあるが、回答がある。

年齢別にみると、50 歳代はやや低く、25～29 歳は「新型コロナウイルス感染症拡大の影響で生理用品が品薄だったため入手できないことがあった」が他の年齢よりもわずかに高く、生理用品の入手に苦労した経験の比率も他の年齢に比べてわずかに高くなっている。1 人暮らしの比率が高く、生理用品が品薄時に家族などの助力がなく、自力で対応しなくてはならなかったことが推察される。

図表 「新型コロナウイルス感染症拡大後の生理用品の入手に苦労した経験」



図表 年齢別「新型コロナウイルス感染症拡大後の生理用品の入手に苦労した経験」



図表 「新型コロナウイルス感染症拡大後の生理用品の入手に苦労した経験の比率」

全体	5.5%
20～24歳	5.7%
25～29歳	9.3%
30～34歳	6.1%
35～39歳	6.1%
40～44歳	6.1%
45～49歳	5.1%
50～54歳	3.8%
55～59歳	2.0%

※全体から「入手できず苦労したことはない」「その他」「答えたくない」「無回答」を除いた比率

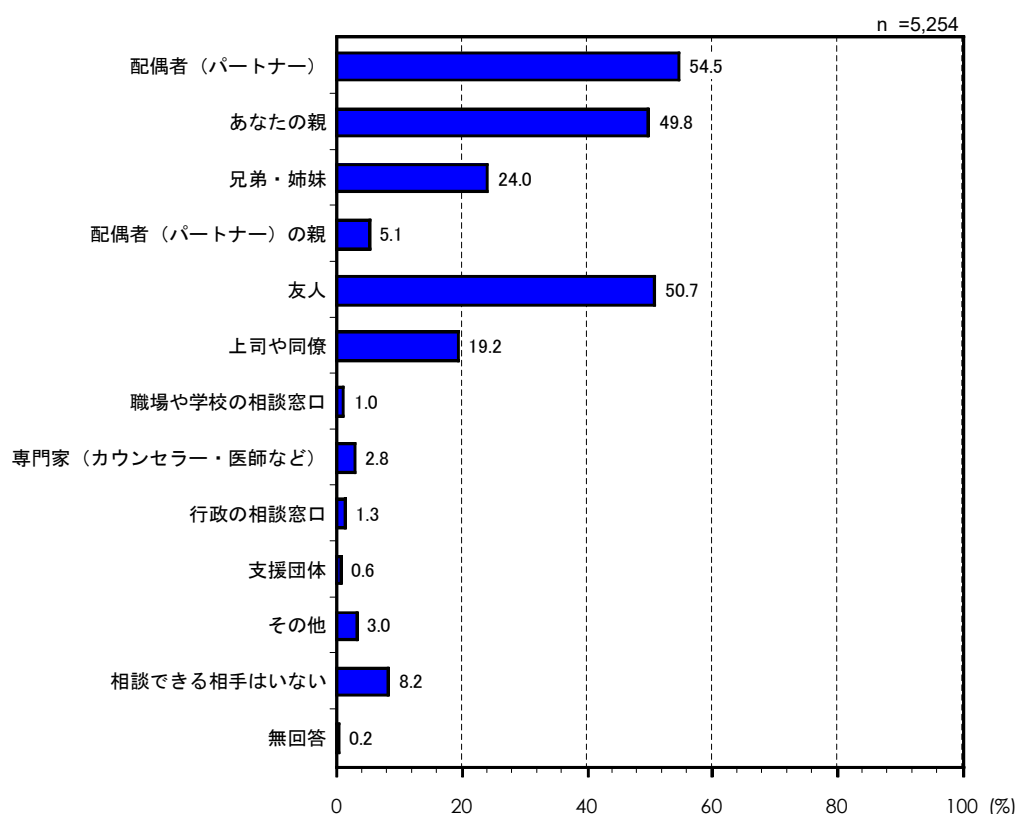
(3) 相談相手

Q34. あなたは、仕事や生活の困りごとについて相談できる相手はいますか。
(あてはまるもの全て)

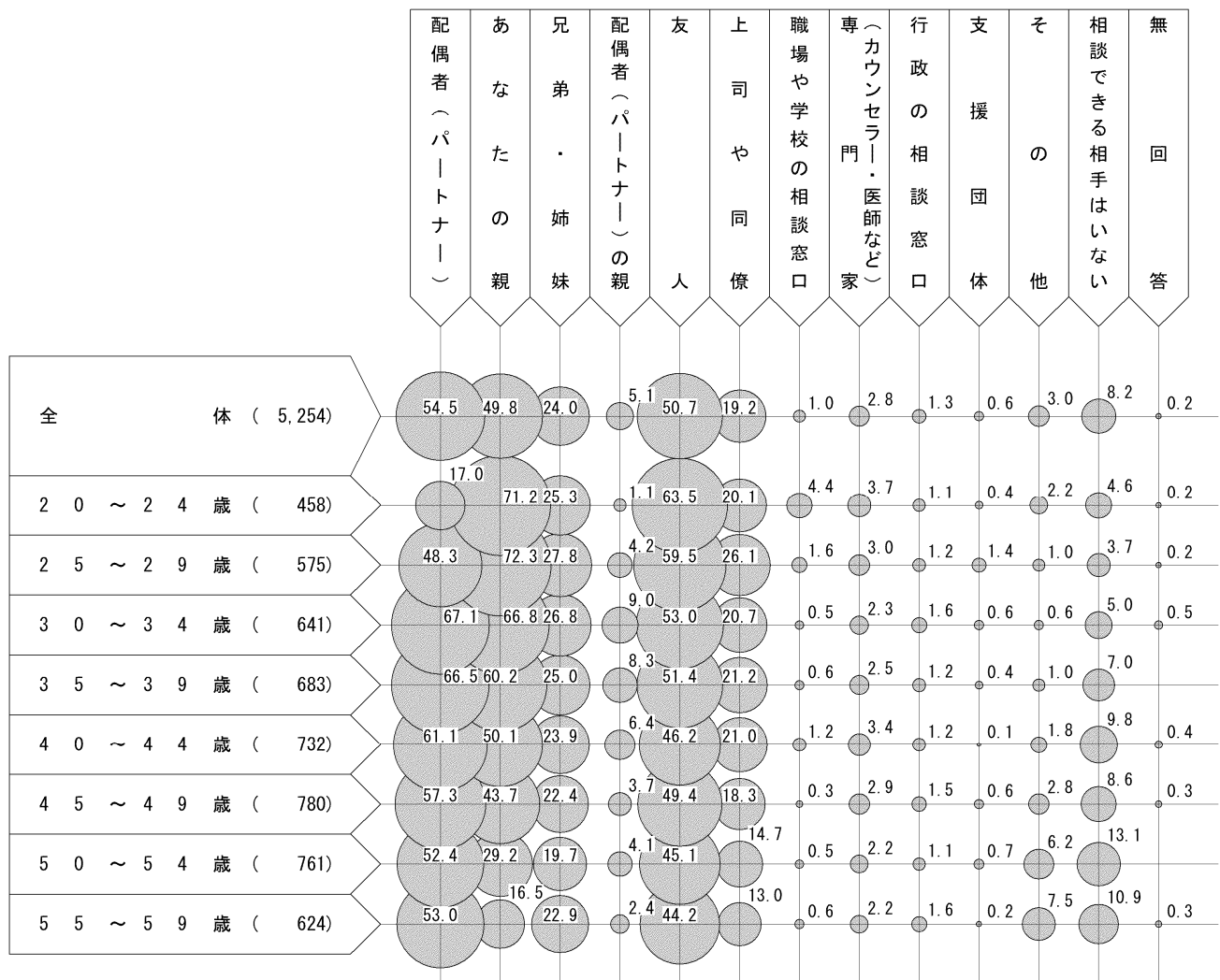
仕事や生活の困りごとについて相談相手がいるかどうかを尋ねたところ、「配偶者（パートナー）」が 54.5%と最も高く、「友人」 50.7%、「回答者の親」 49.8%が高くなっている。「専門家」 2.8%、「行政の相談窓口」 1.3%、「支援団体」 0.5%と専門的な窓口等はかなり低い状況である。一方、「相談できる相手はいない」が 8.2%である。

年齢別にみると、「回答者の親」「兄弟・姉妹」「友人」「上司や同僚」は 20 歳代が高く、年齢が上がるにしたがって低くなる。30 歳代は「配偶者（パートナー）」が他の年齢に比べて高くなっている。「相談できる相手はいない」は年齢が上がるにしたがって高くなる傾向がある。

図表 「相談相手」



図表 年齢別「相談相手」



(4) 利用したい女性の支援施策

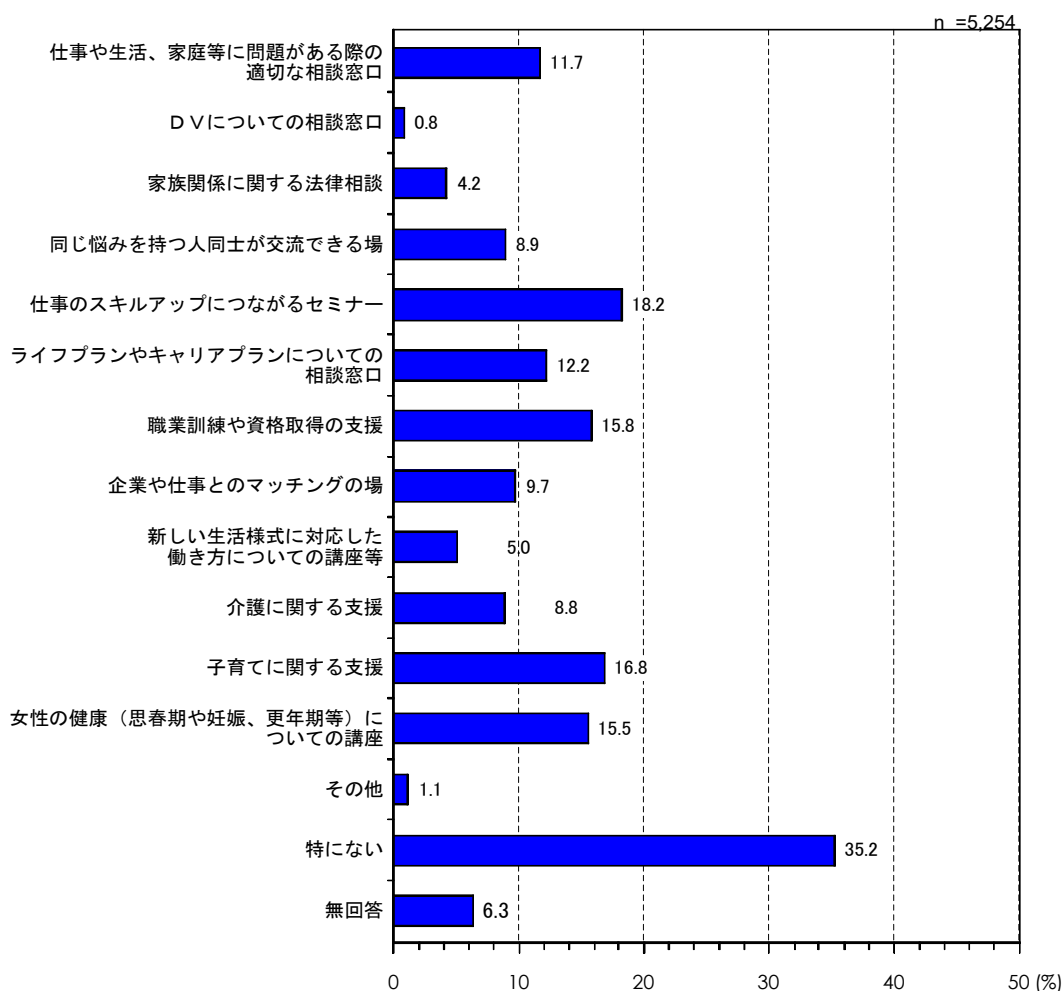
Q35. 名古屋市が行う支援として、あなたが利用してみたい、参加してみたいものをお答えください。(あてはまるもの全て)

利用したい、参加したい名古屋市が行う支援を尋ねたところ、利用したいと回答した項目は、「仕事のスキルアップにつながるセミナー」が 18.2%、「子育てに関する支援」16.8%、「職業訓練や資格取得の支援」15.8%、「女性の健康についての講座」15.5%、「ライフプランやキャリアプランについての相談窓口」12.2%、「仕事や生活、家庭等の問題がある際の適切な相談窓口」11.7%と続いている。仕事に関すること、子育て、健康に関することへの期待が高い。

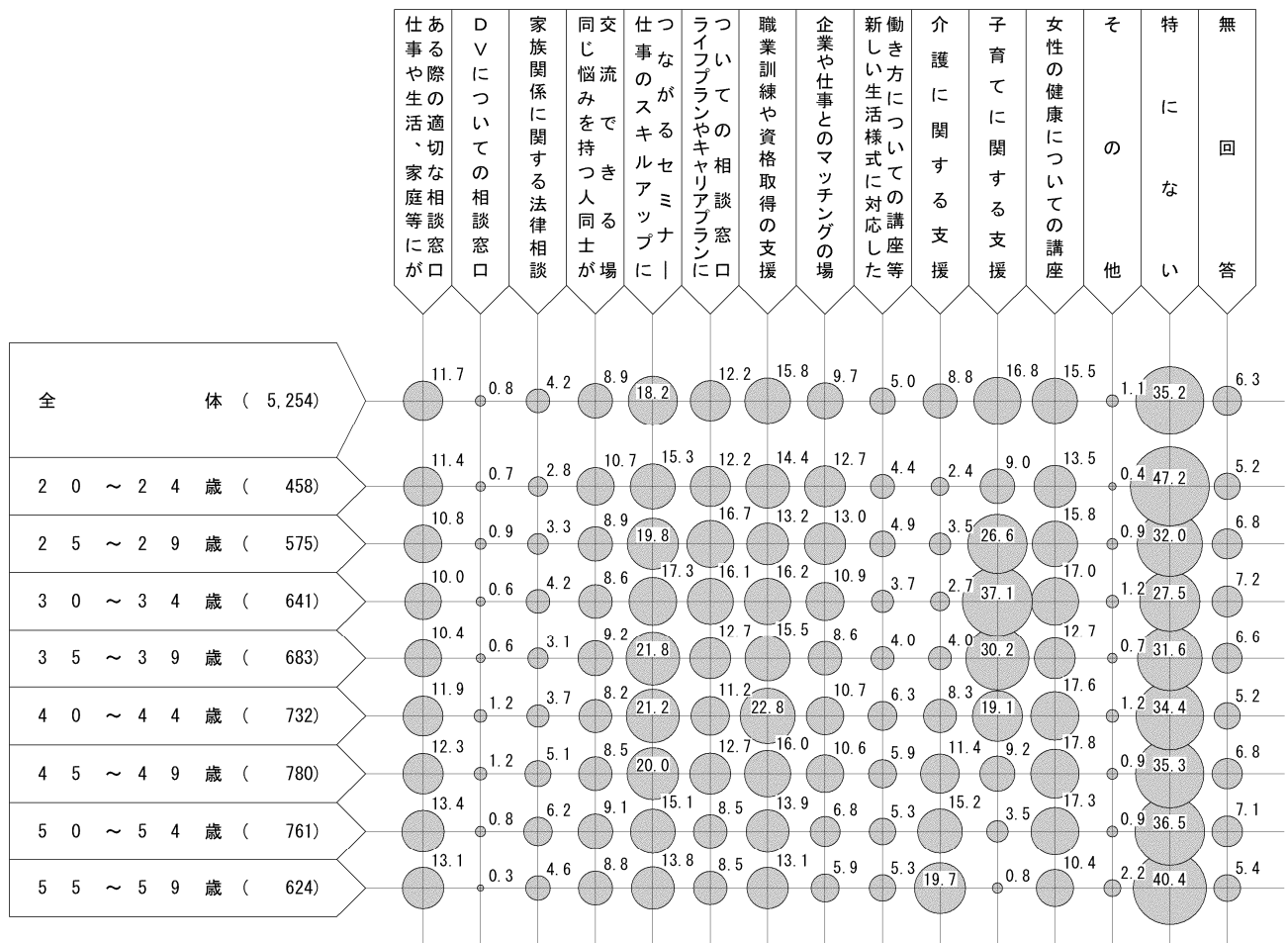
一方で「特にない」が 35.2%と最も高く、利用を喚起する、情報を必要な人に提供することが重要である。

年齢別にみると、「特にない」は 20～24 歳、55 歳以上が他の年齢に比べて高くなっている。30～34 歳は「子育てに関する支援」が最も高くなっている。40～44 歳は「職業訓練や資格取得の支援」、50 歳代は「介護に関する支援」が特に高くなっている。

図表 「利用したい女性の支援施策」



図表 年齢別「利用したい女性の支援施策」

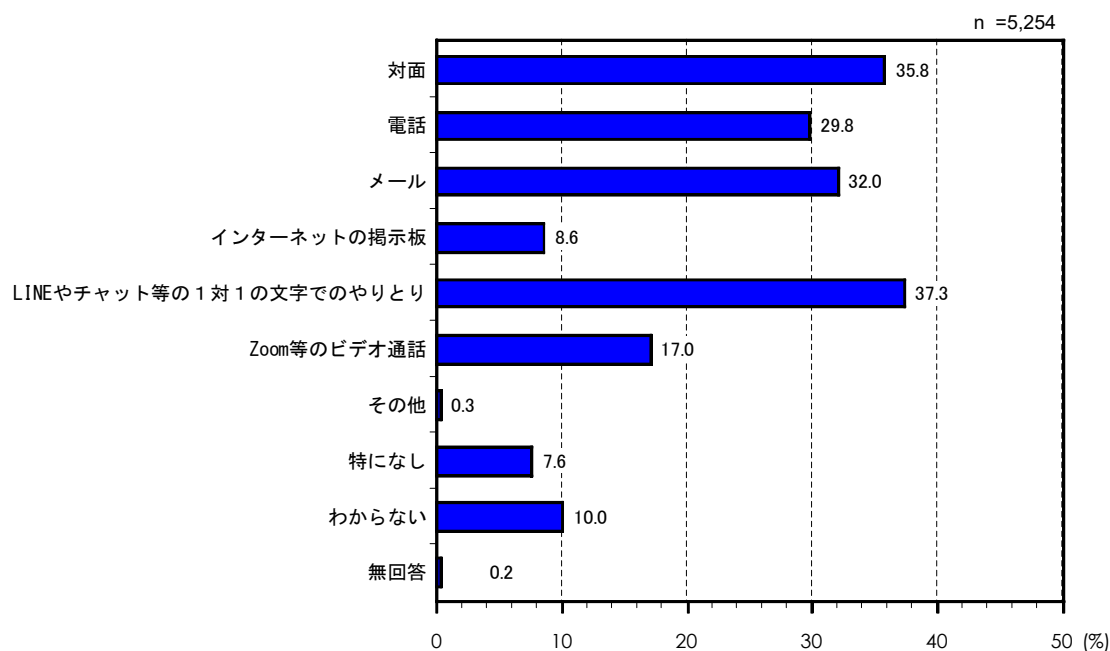


(5) 相談方法

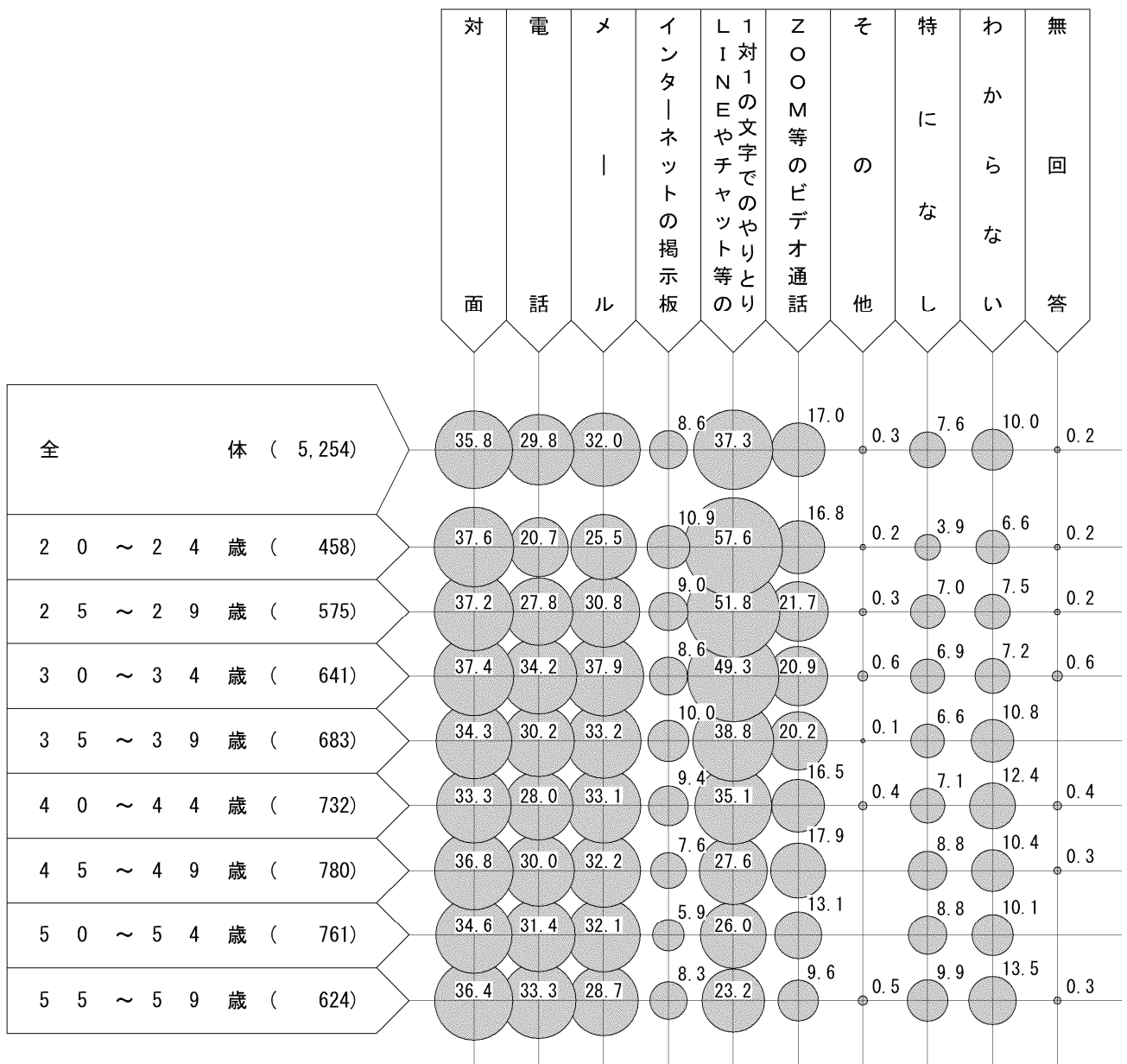
Q36. 名古屋市が設置する相談窓口で、仕事や生活で抱えている悩みや不安を相談する際に、どのような方法で相談できるとよいと思いますか。(あてはまるもの全て)

名古屋市が設置する相談窓口での期待する相談方法を尋ねたところ、「LINE やチャット等での1対1の文字のやりとり」が37.3%と最も高く、「対面」35.8%、「メール」32.0%が高くなっている。

年齢別にみると、20～44 歳までは「LINE やチャット等での1対1の文字のやりとり」、45 歳以上は「対面」が最も高くなっている。「LINE やチャット等での1対1の文字のやりとり」「Zoom 等のビデオ通話」は若い世代ほど高く、年齢が上がるにしたがって低くなる傾向がある。ターゲットにより相談方法の手段を使い分けることも重要である。



図表 年齢別「相談方法」



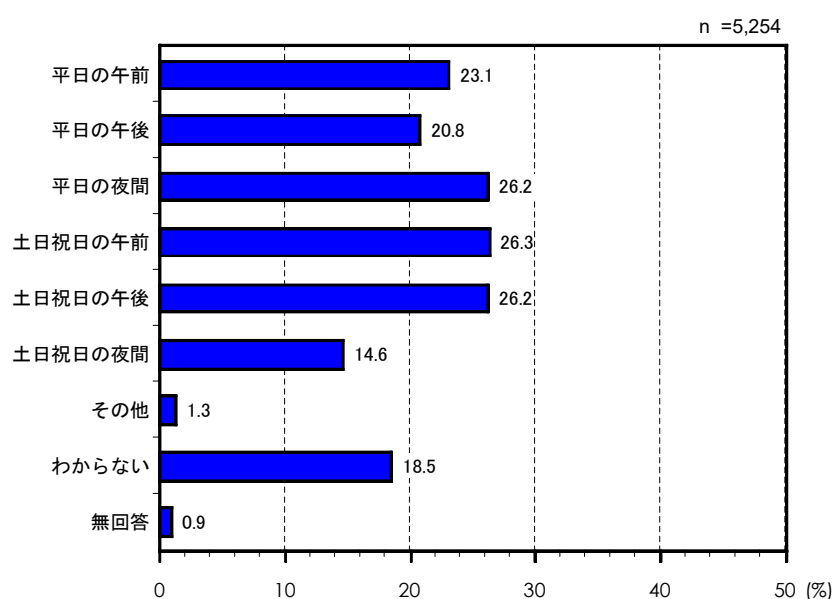
(6) 利用しやすい曜日・時間帯

Q37. Q35 のような支援をあなたが利用する場合、利用したい曜日や時間帯は、いつですか。
(あてはまるもの全て)

名古屋市が行う支援を利用したい曜日や時間帯は、「土日祝日の午前」が 26.3% と最も高く、「平日の夜間」「土日祝日の午後」が 26.2% と同率で続いている。

年齢別にみると「平日の夜間」「土日祝日の午前」「土日祝日の午後」は 20 歳代が希望している比率が高い。30～34 歳は「土日祝日の午前」40 歳代は「平日の午前」での希望が高くなっている。

図表 「利用しやすい曜日・時間帯」



図表 年齢別「利用しやすい曜日・時間帯」

